九星曆術

# 一代運氣活斷口傳書

特258
324

始

著作權所有

時 258
324

高島易斷所本部神宮館編纂

# 九星一代運勢活斷口傳書

曆術

東京 神宮館藏版

# 自序

大傳に曰く河圖を出し洛書を出す聖人之に則ると、實に河洛の二圖は五行生尅の妙理を示して、天地の運行人事の消長一に之に基づかざるはなし、よく其理を究むるに於ては探頤、索隱、鉤深、致遠以て人事の吉凶を豫斷せざるはなし、然れども其理を究め、其旨に通ずるは甚だ容易ならず、利根の者尚ほ數年を費やす、何んぞ鈍才の之を能くせんや

今世上を觀るに口に陰陽五行の理を說き、門に人事占斷の招牌を掲ぐるも、よく其理を究め祐神の域に達するもの甚だ少なく、其云ふ所荒誕無稽爲に世人の嘲笑を受く豈に嘆ずべきの至りならずや

方今生存競爭は劇甚にして浮沈轉變測り難し、故に豫じめ自己將來

の禍福吉凶を知りて之が備えを爲さんとするは各自皆希望するところなり、然れども之を聞かんとすれば占兒者流に其人なく、之を學ばんとすれば暇なく、徒らに社會の風波、運命の激流に飜弄せられて數奇不遇に嘆くもの多し

編者茲に感ずる所ありて幽玄なる理論を避けて、平易なる文辭を以て人世に於ける運勢の消長、百事の占斷を網羅して一册子と爲す、希くは大方の君子雨閑夜暇此書を繙きて迷ふ處疑ふ處、自ら解決することを得ば、又世上狡猾なる占兒者流に問ふの要なし、能く讀む人幸ひに禍ひを避けて福ひを招き、開運成功の一助とならば編者の幸ひこれに過ぎずと爾云

甲子孟春如月東臺山麓にて

編者誌す

## ●凡例

一本書は九星、曆術を始め干支、家相、方鑑、人相、手相、姓名判斷其他人事百般の簡易なる占斷法に至る迄一切を網羅し、何人と雖も本書によつて凝ひを決し惑ひを解き開運成功の一助となすべし。

一大書說く所の各條の眞理は皆東洋の哲理に基き、古來先哲の其原理を說きし書汗牛充棟も啻ならざるも、其書難解の章句多きに鑑み、本書は其原理よりも寧ろ應用に重きを置き、何人にも解し易き樣現代文を以て記したれば其活用に當つては反つて利益多かるべし。

一本書は婦女童蒙にも解し易からしめんが爲に强めて文章を平易になしたり、讀者幸ひに其文の卑近を咎めず、其意の存する所を諒して可なり。

甲子年孟春

編者記す

九星暦術
一代運氣

# 活斷口傳書

## 目次


一代の開運を説明す……一
五行の理を説明す……三
九星の調べ方……五
九星判斷術（天盤、地盤の組み方）……六
△本命中宮に居る時見方△本命乾宮に居る時の見方△本命兌宮に居る時の見方△本命艮宮に居る時の見方△本命離宮に居る時の見方△本命坎宮に居る時の見方△本命坤宮に居る時の見方△本命震宮に居る時の見方△本命巽宮に居る時の見方
三元九星を説明す……一四
年家九星の起例……一五
月家九星の起例……一六
日家九星の起例……一八
時家九星の起例……二〇
時の干支表……二二
幹支納音の説明……二三
干支、九星、納音を調ぶに就ての注意……二六
各人生れ年にて一代の運勢を説明す……三六
子年生の天より稟し運命性質相性と職業……三六
丑年生の天より稟し運命性質相性と職業……三六
寅年生の天より稟し運命性質相性と職業……三七
卯年生の天より稟し運命性質相性と職業……三八
辰年生の天より稟し運命性質相性と職業……三九
巳年生の天より稟し運命性質相性と職業……四〇
午年生の天より稟し運命性質相性と職業……四一
未年生の天より稟し運命性質相性と職業……四一
申年生の天より稟し運命性質相性と職業……四二
酉年生の天より稟し運命性質相性と職業……四三
戌年生の天より稟し運命性質相性と職業……四四
亥年生の天より稟し運命性質相性と職業……四五
衰運を挽回して開運する秘訣……四七
十干の天稟の性質……四七
各人生れ月に就て運氣の説明……四八
正月生れの人の運氣、二月生れの人の運氣、三月生れの人の運氣、四月生れの人の運氣、五月生れの人の運氣、六月生れの人の運氣、七月生れの人の運氣、八月生れの人の運氣、九月生れの人の運氣、十月生れの人の運氣、十一月生れの人の運氣、十二月生れの人の運氣
各人生た日に就て異なる運氣の説明……五一
各人生れ時間に就て異なる運氣の説明……五二
各人毎月の運勢と吉凶と凶方の説明……五四
一白の人毎月の運勢、二黒の人毎月の運勢、三碧の人毎月の運勢、四緑の人毎月の運勢、五黄の人毎月の運勢、六白の人毎月の運勢、七赤の人毎月の運勢、八白の人の毎月の運勢、九紫の人の毎月の運勢
各人毎日の運勢を説明す……六五
家相の説明……六九
住宅は如何なる所を中央と定るかを知る秘傳……六九
邸前道路の吉凶を説明す……七二
門戸の吉凶を説明す……七四
神棚、佛檀構所を説明す……七四
竈の向け方を説明す……七四
井戸の構所を説明す……七五
臺所流場構え所を説明す……七五
便所、浴室構所の吉凶を説明す……七六
牛馬の小屋構所を説明す……七六
倉庫納屋構所を説明す……七六
隠宅、離家の吉凶……七六

床の間のある方位の吉凶……七七
家業繁榮ならしむる法……七七
養子相續の家相……七八
妻又は娘の淫奔なる家相……七八
變死、火災、劍難のある家相……七八
狂人の出づる家相……七八
難產のある家相……七九
長子家出をする家相……七九
後家になる家相……七九
肺病のある家相……七九
盲目又は啞の出づる家相……七九
癲病又は賊難のある家相……七九
死靈のある家相……七九
血統の絶ゆる家の見方……八〇
神社佛閣の跡へ建家するの吉凶說明……八〇
逆木柱の災ひを說明す……八〇
燒跡に家を建る心得……八一
古井戸を埋むる方法……八一
疊間取一凶の說明……八一
方位の祟りにて發する病氣の說明……八二
方災解除砂撒の法……八三
吉方吉日なき場合に普諸造作を爲す法……八三
家內繁榮子孫長久吉祥瑞宅の圖……八五
方鑑の見方……八六
本命的殺の說明……八七
暗劍殺と五黃殺の說明……八八
歲破と金神凶方の說明……八九
大將軍の說明……九一
歲刑、歲殺凶方の說明……九一
黃幡、太陰凶方の說明……九三
豹尾、都天、白虎凶方の說明……九四
死符、病符凶方の說明……九五
劫殺、災殺凶方の說明……九五
月の大凶殺の說明……九五
月塞り日塞りの凶方……九六
方位吉方の撰み方……九七
歲德神、大歲神吉方の說明……九八
歲錄神、年の吉方表……九八
年の生氣吉方の說明……九九
每月大吉方の說明……一〇〇
月の生氣、吉方の說明……一〇一
月の天德吊宮、月德吊宮の說明……一〇一
廿四節の說明……一〇二
▲陽遁の圖▲陰遁の圖▲立春▲雨水▲啓蟄▲春分▲晴明▲穀雨▲立夏▲小滿▲芒種▲夏至▲少暑▲大暑▲立秋▲處暑▲白露▲秋分▲寒露▲霜降▲立冬▲小雪▲大雪▲冬至▲小寒▲大寒の說明
土用の說明……一〇八
土公神の說明……一〇八
天一天上の說明……一〇九
社日の說明……一〇九
彼岸の說明……一〇九
八十八夜と半夏至の說明……一一〇
入梅と三伏日の說明……一一一
二百十日と八專の說明……一一一
十方暮と三隣亡の說明……一一二
養蠶家每年の吉日と方位……一一二
七曜星、六曜星日々吉凶の說明……一一三
曆の中段の詳解……一一四
建、除、滿、平、定、執、破、危、成、納、開、閉の日の說明
曆の下段の說明……一一七
受死日、十死日、五墓日、歸忌日、血忌日、重日

復日、天火日、地火日、歳下食日、大禍日と狼籍日と滅門日、時下食、凶會日、神吉日、大明日、往亡日、母倉日、天恩日、天赦日、大空亡日、不成就日
毎月の吉日表……一二二
毎日の天氣豫報……一二四
期米相場鑑定法……一二六
期米毎日の相場を鑑定する法……一三〇
九星判斷期米相場の觀測法……一三四
九星にて當用判斷の仕方……一三七
▲望み事の占ひ▲家出したる人の占ひ▲待人の占ひ▲旅行の占ひ▲失物の占ひ▲盗難の占ひ▲緣談の占ひ▲訴訟の占ひ
九星にて判斷するに就ての注意……一四七
掛合事勝負事に當る日取……一四八
產所の向きと胞衣を納むる心得……一四八
有卦無卦の事……一四八
病氣を全治する秘訣……一四八
四目十目の事……一四九
凶緣を吉緣とする秘法……一四九
妊娠月を知る法……一五〇
胎内の女男を知る法……一五〇
裁判にて勝利を得る法……一五〇
災難を前知する奇法……一五一
善き主人を撰む法……一五一
觀相秘傳人心鑑定術……一五二
▲人相の見方……一五三
▲三停の說明……一五三
▲五嶽の說明……一五四
▲十二宮の說明……一五四
▲十三部位の說明……一五五
▲顏面其他の穴所說明……一五七
▲貴相の說明……一五九
▲富相の說明……一六〇
▲威相の說明……一六一
▲壽相の說明……一六二
▲貧賤相の說明……一六三
▲孤獨相の說明……一六四
▲惡相の說明……一六五
▲天相の說明……一六六
▲紋理と黑子の見方……一六七
▲女子の紋理の圖……一六八
▲男子の黑子の圖……一六九
▲貞婦の相の圖……一七〇
▲女子の黑子の圖……一七一
十字相方の秘傳……一七三
▲由字相▲甲字相▲申字相▲田字相▲同字相……
▲王字相▲圓字相▲目字相▲用子相▲風字相の說明
手相鑑定法……一七八
▲手相八宮の圖▲手相紋理の圖
姓名判斷名前のつけ方……一八二
姓名鑑定及び撰名の方式……一八二
▲姓名讀下しの意義……一八三
▲乾坤の配置……一八四
▲陰陽配列の吉凶表……一八五
▲天地の配置……一八六
▲五氣の配合と方式……一八七
▲五氣の配合にて特有の病の見方……一八九
▲姓名字劃の運數……一八九
▲字劃運數吉凶の說明……一九〇
名乘字集……一九七
改名の手續……二〇二

目次終

高島易斷所本部神宮館編輯部編

# 九星判斷術講話

（全三冊）半紙 四百九十八頁

定價金五圓……送料十八錢（すべてひらかな付）

この書は、三元九星の初段法より九段法に至る、奧義秘密に屬する事項を網羅して、其原理を講述せしものにして、尙九星術の擬議ある事項には、例證を以て讀者は自ら試驗して其擬議を氷解し得る仕組みなるが故に、所謂天秘を窺知すると云も過言に非らず、然して、所謂天秘なる五行活動の理を知る所以の原理を、初學者に速に應用なさしめんと欲して、讀易きを旨として傍訓を施しあれば、之に憑て災禍を避け且つ慶福を得、怒濤を航するが如き優勝劣敗の劇しき社會に、處世の艱難を容易に涉り得る、羅針盤乃至燈臺とも見做すべき寶典なり。

要目

○社會に九星必要の辨○九星の起原附河圖理數の辨○洛書理數の辨○伏羲八卦方位の辨○文王八卦方位の辨○三元九星の辨○年三元九星の起例附中宮の圖○月三元九星の起例附中宮の圖○日三元九星の起例附擬議例證及中宮圖○時三元九星の起例附中宮の圖○本命的殺方の辨○暗劍殺方の圖○附訣解の例證○五黄殺方の辨○生氣方の辨○死氣方の概略辨○一白九星巡輪定座の辨○九星天地人三道の辨附三角法起原の圖○各人性質の異る辨○五黄納音の起例○五行活動の辨○納音の性質の差異○一生運氣の概略辨○九紫な事る者に至る○干支の陰陽幷地支の辨○幹枝納音の起例○幹支配數の辨○納音性數○三元九星巡輪納音辨○音名附略解○相性吉凶の辨○商業擇の辨○運氣盛衰の辨○運氣變動時期の辨○月の凶神○天月德○德合○陰陽貴人○歲德神方○破大凶方○月破大凶方○都天凶方○金神○大將軍○太陰○黃幡○豹尾○歲刑○年の吉神○月の吉神圖○諸殺感化制伏之辨○佛所○方位吉凶○大上感應○月々交節の辨○凶方を避る活法○午中○定例動作の辨○方樂に因て發病の辨○座床向樣の辨附衣納地の辨○全圖操法附四季土用の辨○取除樣の辨○方位擇の辨○地造祭祀の修法附燒地土殺除法○樹木伐木の辨○掘井築竈附廁井戸堀埋樣の方位吉凶○家宅方位擇○方災解除附毎月毎日の吉凶○運土砂薛法附方位時間の圖○運氣の判定法○凶前項に樣逃に準しく、運氣盛衰の辨○運氣盛衰の辨○相性就の輕重に準く、運氣の吉凶○吉凶○生年月日に因て運氣盛衰の辨○運氣盛衰判斷し、井毎月毎日吉凶○前項第一章の辨○年々方位○の辨○同運氣判斷法○十二宮吉凶豫知法○十二星の總論○方位源理の辨○年々方位○凶豫知法○生日に因て吉凶豫知法○生時に因て壽命豫知法○十二宮値年吉月の吉凶數附實驗附辨○運氣循環に値年附の辨○十二支應用○害○十二時間吉凶捷徑知法○四字捷徑占附書掌中十二支の圖○周易大意○同六十四卦の概要上經の部下經の部○時刻取私の法○五命の忌日附十二支五行配



## ●一代の開運法を説明す

●人間の一生のことは生れるも死ぬるも幸福も薄運も皆悉く天命で定まるもので如何なる英雄豪傑賢人學者才子美人も天の命ずる運命の支配を受けないものはない然らば天は如何なるものかと云ふに全智全能にして見ざる所なく聞かざる所なく至大至高の德を備え春夏秋冬節をたがへず萬物の生々存々するも皆天の至德の致すところである然らば善を作したるものは榮え惡をなしたるものは大に苦しみ四時の序違ふことなかるべきに世の中の事は堅石の浮んで木の葉の沈むような一寸道理に合はないように思はれることが多い秋冬は冷寒なるべきに反つて温暖に春夏なほ綿衣を欲する樣な不順の氣候もある如く朝夕汗を流し骨を碎きて働けども思ふところ爲す所悉くいすかの嘴のくひちがひ一生を煩悶の中に送る人もあればさしたる學藝もなく才智も乏しきに案外なる機會を得て一朝にして富豪の身となり一代の榮華を極めて子孫繁昌の基を開くなど世間其例少なくない善者必ずしも榮えず惡者必ずしも苦しまず是は何等の理由によるか

凡そ人の運命には二樣ある一を天運と云ひ一を人運と云ふ天運とは天より命せられし運命を云ひ人運とは自己の努力によりて造り出す運命を云ふのである如何に天運がよいからと云ふて寢て居ては棚の牡丹餅は喰えない踏臺をするなり階子を懸くるなりして棚の牡丹餅を取らねばならぬ是が自己の努力である然し天は何時でも棚に牡丹餅は置いてないそれを置く時期がある然らば其時期を知りて是を取らざれば徒らに努力しても其甲斐がない天の造られし運命の棚は一寸肉眼にて見ることが出來ぬ故幾尺の踏臺幾丈の階子を要するかを知ることが困難であるこの運命の棚に自分の幸福なる牡丹餅が何時乘せてあるかと云ふことを知ることが成

功を爲すの一要素である。

次には人の運勢と云ふものは恰も月の盈虧潮の滿干があるように盛衰がある如何なる人にも順逆二樣の境遇があつて人によりて順境に永く續くのと逆境の甚しく來るのとある世間の人は之を星の廻り合せが善いとか惡いとか云ふ其の星の廻り合せとは何にを云ふか是が前に述べし天運を司配する所の九星と云ふて九ツの星命がありて諸士の一代の運勢より一年一日時々刻々の吉凶まで司るのであるそれを調べる術を九星術と云ひて古く漢土より我國に傳り或時代には宮中の陰陽寮にても之を用ひしが昔は多く秘密なり奥傳なりと云ふて其術を修する少數の人にのみ之を傳へ一般の人士は神秘的にして容易に知ることは出來ないものだと思ふて居たが近頃九星術の流行につれ杜撰粗本の書多く坊間に流布したれば斯道を研究せんとする熱心なる諸士は彼の本も求めた此本も買ふた然し何れも大同小異で

讀んでも更らに要領を得ず反つて迷ひを生じ其讀まざるの勝れる樣なのが多いこれは何んによるかと云ふに畢竟其書を著すものが斯道に造詣淺きか或は秘傳奥傳を秘して記さざる故讀者には恰も演劇の招牌のみを見るが如く大意は解し得るも其妙術の面白味は知ることが出來ない本館は之を遺憾に思ひ本書には九星の定位より說き出し其運行によりて年々の吉凶を示し猶ほ奥儀秘傳とせる天盤、地盤の組方及び其掛り、或はそれによりての吉凶禍福の判斷の仕方等丁寧親切に解說してある希くば大方の諸君士熟讀玩味して是を日用萬般に應用し凶を避けて吉に向ひ宜しく天授の幸運を享けらるべし古語にも人事を盡して天命を待つと云へば諸君の實力を發輝してより努力し以て天運の命ずる好時機を捕捉えなば薄幸非運に悲しむことなく大成功大發達を得て一身一家の顯達繁榮より上は祖先の名を輝やかし下は子孫に幸福を及ぼすのである



# ●五行の理を說明す

●彼の蒼々たる天には日月星辰懸り此の渺茫たる地には河海山澤がある四時の序寒暑の往來錯綜常なきが如きも自ら其間に條理ありて是を統ふる所のものがなければならぬ昔時聖人河圖洛書を得之に則り五行の生尅の理を明かにしたのである何をか五行と云ふ

## 木、火、土、金、水

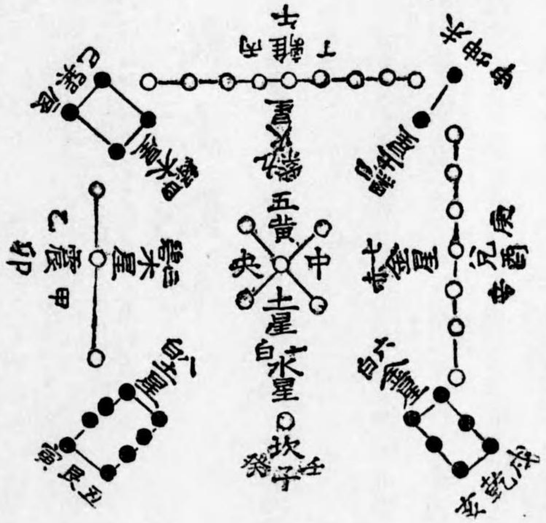
の五ツである天象の運行四時の序其他萬般のもの皆是に因らざるものはない

夫れ洛書九星の數は東方の三碧の木に起る是れ說卦傳に帝震に出づ震は東方なりと以て證とすることが出來る其三と陽數の三（易にては參天兩地と云ふて天を三數にし地を二數になす故に三は陽數の代表二は陰數の代表的の數である）と相乘じて三三が九となりて九紫を南方に配して火を司る次に三九二十七（盈數二十を除き其餘の七を用ゆ）則ち七赤を西方に配し金を主る次に三七二十一（盈數二十を除き其餘の一を用ゆ）則ち一白を北方に配し水を主る次に一三が三にて又元の三碧に還る而して陽數は皆東西南北の正位に配すのである又陰數は坤の二黑に起る（南は陽の極である陽の極まる所是陰の始まる所である、是に陰數の二を乘じて二二が四と逆轉して東南の巽に四綠を配す次に四に二を乘じて八白を得て東北の艮に配し次に八に二を乘じて二八十六（盈數の十を除き其餘の六を用ゆ）の六白を得て西北の乾に配す次に六に二を乘して二六十二（盈數十を除き其餘の二を用ゆ）の二を得て元の二黑に還る而して陰數は皆四隅に置き陰陽の數二と三とを合したる五を中央に配し以て九星の定位則ち洛書の圖が出來るのである

而して五行の相生とは則ち木生火。火生土。土生金。金生水。水生木の五ツである又相尅とは木尅土。土尅

水。水尅火。火尅金。金尅木。の五ッである而して其相生の理を洛書によりて之を示せは木は東方に位して春を主る故に草木は春に至つて發生暢茂す既に木氣旺

## 洛書の圖




にして火を生ず火は南に位して夏を主どる故に酷暑炎熱盛んである既に火氣旺んにして土を生ず土は中央に位して四季に應ずるのである故に土用は春夏秋冬始終の境界にありて四季に配當せらる既に土氣旺んにして金を生ずるのである金は西方に位して秋を主どる其氣物を殺伐するが故に草木秋風に遇ふて黄落するのである金氣旺んにして水を生ず水は北方に位して冬を主どる故冬候寒冷である既に水氣旺んにして木を生ずるのである如斯五氣相生して息まず行きて止まることがない故に之を五行と云ふのである實に五行は天地萬物の元素元氣とも云ふべきものにして人事に取りては仁義禮智信の五常となり味によりて甘酸苦辛鹹の五味となり色にとりては青黄赤白黒の五色となるのである故に天神地祇を祭るときは五味を供へ五色の旗を建てゝ以て五行の表徴となすのであるされば其理に順ふものは榮え其の理に逆らふものは衰ふるは天地自然の理にして又疑ふ餘地はないのである而して相尅なるものは所謂逆にして四時の序に悖る故に凶となるのである吉とは五行の順を云ひ凶とは五行の逆をいふのであるされ



ば方位の撰擇宅地の結構又は主從の間夫婦の配遇朋友の交際等に至る迄宜しく五行の生尅を察して吉に就き凶を避け以て世に處するの一助となすこと緊要である

## ●九星の調べ方

●九星と云ふものは今より凡そ三千年も昔支那に禹と云ふ人がありて洛と云ふ河より一匹の神龜を得た其背文に基きて一より九迄の奇偶の數の五を中央にして四方四隅に配置し何れより見るも其數十五に數えらる是を洛書と云ふのである、其配置の仕方は一白水星は北方坎宮に配し二黒土星は西南方坤宮に配し三碧木星は東方震宮に配し四綠木星は東南方巽宮に配し五黄土星は中央に配し六白金星は西北方乾宮に配し七赤金星は西方兌宮に配し八白土星は東北方艮宮に配し九紫火星は南方離宮に配す圖に示すが如くである、これが九星の定位と云ふて人々の運勢を司配する星の定位である

しかし此星が年々月々日々時々に運行して中央に居たものが乾に行き艮に居たものが南に行くように皆此星が動くのである其動いて寄留して居る星座によりて運勢はよくもなればあしくもなる幸福も來れば災難も來るのである其動き方は後に記す

毎年九星巡り方早見と云ふところを見れば詳しく分る。

又其吉凶を判斷するには五行生尅の理に基き、その上各宮の象意等を考えて數々なる判斷が出來るのである五行の生尅とは木、火、土、金、水の五ッが相生し相尅することである、木は火を生じ、火は土を生じ、土

は金を生じ、金は水を生じ、水は木を生ずるを相生と云ひ、木は土を尅し、土は水を尅し、水は火を尅し、火は金を尅し、金は木を尅するを相尅と云ふのである又一白は水、二黒五黄八白は土、三碧四緑は木、六白七赤は金、九紫は火に屬するのである、これをよく心得てをれば方位、相性、運勢其他の良否を判斷することが出來る、なほ詳しい事は後の章を見れば判然する。

## ●九星判斷天盤地盤の組方

●九星にては人事の吉凶禍福運勢の隆盛消長を鑑定しなほ其人が如何な事件に占斷を乞ふにやと其來意を知らうとするには天盤地盤と云ふものを置きて鑑定するのである天盤とは年の盤と日の盤とを上下に重ね置くのである地盤とは月と時の盤を上下に重ね置くのである天盤と地盤を左右に並べ置きて先づ第一に鑑定する人の本命星が何處に居るかと云ふことを見、それに上下の盤にて何の星が掛かれるやを見て其相生相尅による狀態や又其本命の座する宮に依つて吉凶禍福又は運氣の善惡を鑑定するのである今茲に一例を示せば

一白の人が四緑の年八白の月、七赤の日、九紫の時に身の上を鑑定するとすれば

本命坤宮に居り四緑掛る

本命艮宮に居り七赤掛る

本命兌宮に居して二黒掛る

本命乾宮に居して九紫掛る

天盤（盤星九の年）

| | | |
|---|---|---|
| 三 | 八 | 一 |
| 二 | 四 | 六 |
| 七 | 九 | 五 |

（係）

| | | |
|---|---|---|
| 六 | 五 | 四 |
| 五 | 七 | 九 |
| 一 | 三 | 八 |

（盤星九の日）

地盤（盤星九の月）

| | | |
|---|---|---|
| 七 | 三 | 五 |
| 六 | 八 | 一 |
| 二 | 四 | 九 |

（係）

| | | |
|---|---|---|
| 八 | 四 | 六 |
| 七 | 九 | 二 |
| 三 | 五 | 一 |

（盤星九の時）



右の如き天盤、地盤を置くのである

此一白水星生れの人の本命星は天盤にては坤宮と艮宮に居りて四緑と七赤の掛りあり、又地盤にては乾宮と兌宮に居して九紫と二黒の掛りがある、されば天盤にては七赤四緑の相生を受け、地盤にては九紫二黒の相剋を受けてをる是れによりて判定するときは本命星が艮宮坤宮に居る故田畠山林或は家屋敷の件である又本命星が兌宮乾宮に居る故金錢上の件と見る然して雙方を綜合しなほ本宮に九紫、三碧、四緑、五黄などの居るところを見ると田地山林か家屋敷等を賣りて金錢に替えんと欲し且つその速かならんとを希ふも中間に邪魔するものがありて自分の思ふように運ばず甚だ不利であると鑑定することが出來る。

右は其一例に過きざるも、九星鑑定法は斯の如くなすものであると云ふことは、之れによつて了解することが出來るよろしく類を推し萬般に應用し以て處世上の顧問ともなすべきである。

## ●九星術判斷法の說明

●前例によりて九星術上鑑定の仕方は大略了解したると信じる故次には鑑定上最も緊要なる天盤、地盤を組みて各人の本命星が中宮に居るか或は各八宮に居して他の星の掛りたる時は如何なる吉凶を生ずるかと云ふことを章を追ふて解說してある須らく熟讀玩味して人事百般に應用なすがよい。

## ●本命中宮に居る時の判斷

●本命中宮に居りて一白かゝるときは、家内の不和、損失、業務の迷ひ、家内に病人などがある。

●本命中宮に居りて二黒掛る時は、他人の苦情を引受け家内不和合を來すか、目下の事に心配がある

●本命中宮に居りて三碧掛るときは、金錢問題にて困難する事あるか、又色情の爲に失敗損失がある

●本命中宮に居りて四緑かゝるときは、家内不和合にて物事纏らず失敗を見るか、業務不振の兆がある

●本命中宮に居りて五黄かゝる時は、家内に揉め事ありて其處置に迷ふか、又は家業衰微の兆がある

●本命中宮に居りて六白かゝるときは、表面よりも内實が凶るい、且つ頭部の病ひにて惱むことがある

●本命中宮に居りて七赤かゝるときは、家内に口舌迷ひ事多く落付ぬものである、又色情のなやみもある

●本命中宮に居りて八白掛るときは家内不和合口舌多く身の處置に困難する、又病人は注意を要する

●本命中宮に居りて九紫掛る時は人事に付て苦勞多く家を外に奔走する事あるか、相剋なれば火難注意

## ●本命乾宮に居る時の判斷

●本命乾宮に居りて一白掛るときは、目的に付て迷ひあるか住所に付て心配がある、相生なれば吉

●本命乾宮に居つて二黒掛るときは、金談の苦み住所の心配あれど相生なれば吉である

●本命乾宮に居りて三碧掛るときは、住所の心配又金談の苦勞或は目上の不信用を受くる事がある

●本命乾宮に居りて四緑かゝるときは、家内不和合か或は住所の動きに就ての心配がある

●本命乾宮に居りて五黄かゝるときは、住所に付て迷ひあるか、金談に付て奔走する事がある

●本命乾宮に居りて六白掛るときは金錢上の心配か、住所に迷ふ事がある、又病人は甚だ危篤である

●本命乾宮に居りて七赤かゝるときは金談口舌住所などの動き迷ひがある、然し相生なれば吉である

●本命乾宮に居りて八白かゝるときは、思はぬ災難を受け辛勞する事ある金談の如きは成る樣にて成らず

●本命乾宮に居りて九紫かゝるときは色情の爲めに損失あるか目先の利益でやり損なひ苦勞する



## ●本命兌宮に居る時の判斷

●本命兌宮に居りて一白掛るときは、口舌事或は身分變更に就て心配が起る、相生なれば左程でもない。

●本命兌宮に居りて二黒かゝるときは、金談相談事か口舌事である、然し何事も永引くことゝなる。

●本命兌宮に居りて三碧かゝるときは、人の爲に緣談事口舌事を引受ける、又思はぬ詐僞にかゝる

●本命兌宮に居りて四緑かゝるときは、金融の相談を受くるか、又金錢上の掛合事がある

●本命兌宮に居りて五黄かゝるときは、金談など大抵は纏る、然し人事なれば破れて口舌を生ずる

●本命兌宮に居りて六白かゝるときは、金談は大抵調ふ人事なれば口舌を生ずる、女難を注意するがよい

●本命兌宮に居りて七赤かゝるときは、表面よろしく見へて其實心配多く他人に欺かるゝとがある

●本命兌宮に居りて八白かゝるときは、談判事あるか思はぬ利益する事あれ共後に面白くない事になる

●本命兌宮に居りて九紫かゝるときは、思はぬ利益を見て喜び忽ち心配事出づるか、人事にて苦勞する

## ●本命艮宮に居る時の判斷

●本命艮宮に居りて一白掛るときは、目上と爭ふか又は是迄と變つた事を爲して損失することがある

●本命艮宮に居りて二黒かゝるときは、營業の損失又は家内不和の爲に甚しく煩悶することがある

●本命艮宮に居りて三碧かゝるときは、營業上の心配あるか、又は人の爲に苦勞することがある

●本命艮宮に居りて四緑かゝるときは、損失災難度々ありて苦辛困難する事がある

●本命艮宮に居りて五黄かゝるときは、住所の心配か營業の失敗ありて何事も面白く行かぬ

●本命艮宮に居りて六白かゝるときは、人と仲惡くなるか、又は盜難にかゝる事がある

●本命艮宮に居りて七赤かゝるときは、望事あるも失敗に終るか、新事業につきて其先を心配する

●本命艮宮に居りて八白かゝるときは、重なる不幸を見るか、病人の爲めに心配がある

●本命艮宮に居りて九紫かゝるときは、他人の爲に損失を受けるか、又自分の業務に付心配がある

## ●本命離宮に居る時の判斷

●本命離宮に居りて一白かゝるときは、文書の事か他人の爲に損失がある、又家人に眼疾の人がある

●本命離宮に居りて二黑かゝるときは、表面をかざりて散財損失を見る、又人の爲に苦勞する事がある

●本命離宮に居りて三碧かゝるときは、散財多しと雖それは將來の信用をつくる下地となる

●本命離宮に居りて四緣かゝるときは、兎角勢ひにまかせて任俠を出しのちに一寸迷惑する事がある

●本命離宮に居りて五黃かゝるときは、外出多く家内に心配事起るか、又遠行の志あるも遂げられない

●本命離宮に居りて六白かゝるときは、色情に付き損失を受け不信用を招くか、火難を注意するがよい

●本命離宮に居りて七赤かゝるときは、訴訟事或は文書類の事にて爭論あるか家内の口舌事がある

●本命離宮に居りて八白かゝるときは、離別の悲みあるか、一時遠く離れる事ありて金錢の損失がある

●本命離宮に居りて九紫かゝるときは、人世話多く又色情の爲に苦勞するか、家内に口舌がある

## ●本命坎宮に居る時の判斷

●本命坎宮に居りて一白かゝるときは、新事業計畫か又は姙娠にて心配することがある。



●本命坎宮に居りて二黑かゝるときは、血族の不和か家内の病人などにて心配が絶えない

●本命坎宮に居りて三碧かゝるときは、家庭の事に付て煩悶するか、姙娠につひての心配がある

●本命坎宮に居りて四緣かゝるときは、將來の事に心配し、金錢の出入り甚しく安心せざる事が多い

●本命坎宮に居りて五黃かゝるときは、病人の心配或は住所の動きか、又は親戚の不幸を見る事がある

●本命坎宮に居りて六白かゝるときは、新らたに事を起すか、又は使用人に付て心配する事が生ずる

●本命坎宮に居りて七赤かゝるときは、相談事纏らず困難心配する事あり、又住所のなやみもある

●本命坎宮に居りて八白かゝるときは、目下に付て苦勞し或は病人にて心配することがある

●本命坎宮に居りて九紫かゝるときは、新なる事業を爲して間違起るか又奴僕の爲に損失を見る事がある

## ●本命坤宮に居る時の判斷

●本命坤宮に居りて一白かゝるときは、病難、走人、營業損失住所の苦勞あるか、又は腹痛にて惱む

●本命坤宮に居て二黑かゝる時は、病氣か訴訟事がある、又他人の世話事にて奔走する

●本命坤宮に居りて三碧かゝるときは詐僞にかゝるか又は共同事業の失敗がある、又失物がある

●本命坤宮に居りて四緣かゝるときは、職業替への事にて心配し、住所の苦勞色情の難がある

●本命坤宮に居りて五黃かゝるときは、病人多く心迷ひて定まらない、又訴訟事が起る

●本命坤宮に居りて六白かゝるときは、住所、營業、病人等の心配あるか、又失物などなすことがある

●本命坤宮に居りて七赤かゝるときは、爭論口舌其他何事によらず紛糾が多い、又病人は凶である

●本命坤宮に居りて八白かゝるときは、思ふ事間違ひ易く何事も面白くない、相尅すれば急病人が出來る

●本命坤宮に居りて九紫かゝるときは、住所の變動か業務の變更にて損失する

## ●本命震宮に居る時の判斷

●本命震宮に居りて一白かゝるときは、職業上の事に付て心配あるか、又親戚朋友の事にて苦勞がある

●本命震宮に居りて二黑かゝる時は、新規に何事か始めんと企つるか、又は修造など仕樣とする

●本命震宮に居りて三碧かゝるときは、職業に付て氣迷ひあるか、又は子供の事にて心配がある

●本命震宮に居りて四綠かゝるときは、大に發展せんとして奮鬪する事あり、又遠行せんとする心がある

●本命震宮に居りて五黃掛れば、希望事意の如く運ばず煩悶が多い、又住所の心配がある

●本命震宮に居りて六白掛れば、目上の引立あるも障りて意の如く運ばぬ又爭ひが起る

●本命震宮に居りて七赤掛るときは、業務に付て利益あるも苦情など有勝である、又女難を注意せよ

●本命震宮に居りて八白かゝるときは、目上の引立あるも種々手違ひとなる、又家出の意もある

●本命震宮に居りて九紫かゝるときは、營業を二つにも三つにもせんと考へ奮鬪する、又火難を注意

## ●本命巽宮に居る時の判斷

●本命巽宮に居りて一白かゝるときは、緣談事相談事などある、又住所の心配か營業の改革もある

●本命巽宮に居りて二黑かゝるときは、營業上の苦心あるか、良緣も破談となりて人の恨を受くる

●本命巽宮に居りて三碧かゝるときは、緣談事營業上にて旅行するか、又移轉する事となる



●本命巽宮に居りて四綠かゝるときは、商業發展に就てか緣談にて心を決し兼、迷ふて損失を爲る

●本命巽宮に居りて五黃かゝるときは、營業の失敗色情の災難など面白からぬ事が多い

●本命巽宮に居りて六白かゝるときは、緣談事の口舌あるか、營業を心配して替へんとする事がある

●本命巽宮に居りて七赤かゝるときは、商業發展の爲めに努力するか又副業を求めんとする事がある

●本命巽宮に居りて八白かゝるときは、喜び事ありて後心配事出來るか、營業の爲めに大層心配がある

●本命巽宮に居りて九紫掛るときは、女は緣談か妊娠の喜びあるも、男は家内の口舌又は女難にて苦しむ

以上の判例は、日、時の盤に、年、月の盤より掛れる星によりての鑑定の仕方なれど、又日、時の盤より、年、月の盤に掛れる星に應用して差支ない、又日と時との盤の相掛れる星に應用して判斷することもある、よろしく讀者は研鑽して妙に達するがよい。

●此判斷の仕方は、前章に詳しく述べてあれば、茲に再說せざれども、本命星へ掛かつてくる星が相生であれば、何事件でもその結果は吉となり、もし相尅であればその結果は凶となるのである、これは何宮に居る何星の本命でも皆同じである、よろしく心得置くがよい、又其掛つて來る星が、其本命星の定位にをるなれば縱令ひ相生しても吉とは云えぬ、又其掛れる星が皆相尅なる場合は、凶の極變じて吉となることもある、古語にも物極まれば必ず變ずと云ふ如く、陰の極は陽陽の極は陰となるように、凶の極は吉、吉の極は凶に變ずることなれば、掛れる星皆相生の場合も凶に變ずることあれば、判斷に當つてその活用に注意するがよい、なほ本館發行の「九星極意八百十通り變化奧傳」（定價金二圓）を參考せらるれば、その判斷に當つて大ひに便益を得るであらふ。

# ●三元九星を說明す

●九星術を以て人事百般の事を占斷しやうと云ふには運勢上に係はることでも、方位の吉凶でも、相性の事でも其他凡て九星上に係はることは、此三元九星と云ふて、年、月、日、時に九星を配することを知らねばならぬ、これが九星術上の基礎なれば其積りにて平常記臆する樣努むるがよい。

## ●年家九星起例

九星を年に配することを年家九星と云ひ、又九星の上元中元、下元の三元と、六十干支とを組合せることを、三元六甲と云ふ、五要奇書にも上元一白甲子起る、中元四緑却つて頭を爲す、下元七赤兌の方發す、逆に年分を尋ね把星を流すと記されてある、三元とは一元を六十年とし、百八十年にて一周す、此百八十年は干支は(六十年なれば)三週し、九星は二十週して復び元に戻ることとなるのである。

●上元　甲子の年に一白を起し、九紫、八白と逆に繰るのである（六十年）

●中元　甲子の年に四緑を起し、三碧、二黑と逆に繰るのである（六十年）

●下元　甲子の年に七赤を起し、六白、五黃と逆に繰るのである（六十年）

此起すと云ふ語は、九星術上の熟語にて一白を起すと云へば、其年の中宮に一白を配することを云ふのである我國の曆年に配すれば推古天皇卽位十二年甲子の歲を上元の始めとし、六十年を過ぎて次の甲子の歲を中元の始とし、又六十年を過ぎて次の甲子の歲を下元の始とし、斯の如く上中下三元(百八十年)を繰返し、近古にては貞享元年甲子歲より寛保三年癸亥歲迄の六十年を上元とし、其翌年延享元年甲子歲より享和三年癸亥歲迄の六十年を中元とし、其翌年文化元年甲子歲より文久三年癸亥歲迄の六十年を下元とし、近くは元治



元年甲子歲を復上元の始とし、大正十二年癸亥歲までの六十年を上元となすのである、斯く逐次循環するが故に古人も環の端なきが如しと云はれてある。

## ●年の三元九星表

| 上元 | 中元 | 下元 | 年の干支 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一白 | 四緑 | 七赤 | 甲子 | 癸酉 | 壬午 | 辛卯 | 庚子 | 己酉 | 戊午 | | | |
| 九紫 | 三碧 | 六白 | 乙丑 | 甲戌 | 癸未 | 壬辰 | 辛丑 | 庚戌 | 己未 | | | |
| 八白 | 二黑 | 五黃 | 丙寅 | 乙亥 | 甲申 | 癸巳 | 壬寅 | 辛亥 | 庚申 | | | |
| 七赤 | 一白 | 四緑 | 丁卯 | 丙子 | 乙酉 | 甲午 | 癸卯 | 壬子 | 辛酉 | | | |
| 六白 | 九紫 | 三碧 | 戊辰 | 丁丑 | 丙戌 | 乙未 | 甲辰 | 癸丑 | 壬戌 | | | |
| 五黃 | 八白 | 二黑 | 己巳 | 戊寅 | 丁亥 | 丙申 | 乙巳 | 甲寅 | 癸亥 | | | |
| 四緑 | 七赤 | 一白 | 庚午 | 己卯 | 戊子 | 丁酉 | 丙午 | 乙卯 | | | | |
| 三碧 | 六白 | 九紫 | 辛未 | 庚辰 | 己丑 | 戊戌 | 丁未 | 丙辰 | | | | |
| 二黑 | 五黃 | 八白 | 壬申 | 辛巳 | 庚寅 | 己亥 | 戊申 | 丁巳 | | | | |

右の如く百八十年にして三元一週し、又始めに戻り逐次繰返すのである。

## ●月家九星起例

●月家九星起例とは月に九星を配することにて、月の九星は六十ケ月を以て一元とし、百八十ケ月を以て三元一週することとなるのである。

●子、卯、午、酉の年は舊正月に八白を起し、七赤、六白と逆に繰るのである。

●丑、辰、未、戌の年は舊正月に五黃を起し、四緑、三碧と逆に繰るのである。

●寅、巳、申、亥の年は舊正月に二黑を起し、一白九紫と逆に繰るのである。

注意　子年の正月に八白を起す理由は、正月は寅の月なれば、其前年の十一月が卽ち子の月である、此子の月に一白を配するが故に、十一月一白、十二月九紫、正月八白となるのである。

月に九星を配するには、月の晦朔卽ち晦日から翌月の朔日に移るときを以て替えるのではない、二十四節の節替りを以て其配すべき九星は替るのである、大正十三年にて其一例を示せば二月五日(立春舊正月節)より三月六日(啓蟄舊二月節)の前日卽ち三月五日迄の間は二黑の月にして、三月六日(啓蟄舊二月節)に至りてはじめて一白の月となるのである、之は初めて九星を研究なさんとする人は特に注意するがよい又月家九星の三元は甲子の月より癸亥の月迄六十ケ月を以て一元とし、百八十ケ月を以て三元となすのである、近き一例を示せば、明治四十一年戊申歲舊十一月甲子の月を上元の始めとして一白を起し、大正二年癸丑歲舊十一月甲子の月を中元の始めとして四綠を起し、大正七年戊午歲舊十一月甲子の月を下元の始めとして七赤を起すのであるなほ詳細なるとは次の表にて知らるゝがよい。

## ●月の三元九星表

| 子卯午酉の年 | 丑辰未戌の年 | 寅巳申亥の年 |
|---|---|---|
| 正月 八白 | 正月 五黃 | 正月 二黑 |
| 二月 七赤 | 二月 四綠 | 二月 一白 |
| 三月 六白 | 三月 三碧 | 三月 九紫 |
| 四月 五黃 | 四月 二黑 | 四月 八白 |
| 五月 四綠 | 五月 一白 | 五月 七赤 |
| 六月 三碧 | 六月 九紫 | 六月 六白 |
| 七月 二黑 | 七月 八白 | 七月 五黃 |
| 八月 一白 | 八月 七赤 | 八月 四綠 |
| 九月 九紫 | 九月 六白 | 九月 三碧 |
| 十月 八白 | 十月 五黃 | 十月 二黑 |
| 十一月 七赤 | 十一月 四綠 | 十一月 一白 |
| 十二月 六白 | 十二月 三碧 | 十二月 九紫 |

●正月に八白を配する理由は前に述べてある。



## 月の干支

| 太陽暦の月 | 太陰暦の月 | 月の支 | 甲己の歲 | 乙庚の歲 | 丙辛の歲 | 丁壬の歲 | 戊癸の歲 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 二月 | 舊正月 | 寅 | 丙 | 戊 | 庚 | 壬 | 甲 |
| 三月 | 舊二月 | 卯 | 丁 | 己 | 辛 | 癸 | 乙 |
| 四月 | 舊三月 | 辰 | 戊 | 庚 | 壬 | 甲 | 丙 |
| 五月 | 舊四月 | 巳 | 己 | 辛 | 癸 | 乙 | 丁 |
| 六月 | 舊五月 | 午 | 庚 | 壬 | 甲 | 丙 | 戊 |
| 七月 | 舊六月 | 未 | 辛 | 癸 | 乙 | 丁 | 己 |
| 八月 | 舊七月 | 申 | 壬 | 甲 | 丙 | 戊 | 庚 |
| 九月 | 舊八月 | 酉 | 癸 | 乙 | 丁 | 己 | 辛 |
| 十月 | 舊九月 | 戌 | 甲 | 丙 | 戊 | 庚 | 壬 |
| 十一月 | 舊十月 | 亥 | 乙 | 丁 | 己 | 辛 | 癸 |
| 十二月 | 舊十一月 | 子 | 丙 | 戊 | 庚 | 壬 | 甲 |
| 翌年一月 | 舊十二月 | 丑 | 丁 | 己 | 辛 | 癸 | 乙 |

●此表の見方は、右の端に太陽暦とある、其横列は皆新暦の月、太陰暦とある横列は舊暦の月、月の支とあるは其月の十二支を示し、甲、己の歲とあるは甲の歲又は己の歲、其横列に示す如く新二月(卽ち舊正月)は丙の月、新三月(卽ち舊二月)は丁の月であることを知ることが出來る、餘は之に準ふて知るがよい。

又月の干支を併せて知らんとするには、何々の歲とある横列の干と、及び月の支とある横列の支とを併せれば、其月の干支が瞭然とするのである、例えば乙の歲の二月なれば乙、庚の歲とある横列にて、二月の行の處を見れば戊とある、又二月の支は寅と記しあれば、卽ち乙の歲の二月は戊寅の月又辛の歲の四月は壬辰の月と云ふことが直ちに分る、餘も準ふて知るがよい。

## ●日家九星起例

●日家九星とは、日に九星を配することにて、日の九星は六十日を以て一元とし、百八十日を以て上中下三元一週することとなるのである。

又一年を二期に分ち陽遁期、陰遁期となる、陽遁とは冬至より夏至に至る、日の漸長する期間を云ひ、陰遁とは夏至より冬至に至る、日の漸く短くなる期間を云ふ、陽遁の間は日に配する九星を一白、二黒、三碧と順に繰り、陰遁の間は日に配する九星を九紫、八白、七赤と逆に繰るのである、其陽遁より陰遁に替る日は夏至の前後に於て其夏至に最も近き甲子の日を以て替るのである、又陰遁より陽遁に替る日は冬至の前後に於て其冬至に最も近き甲子の日を以て替るのである、陰遁より陽遁に替るときは、陰遁期の癸亥の日は一白にて、陽遁期の起し始めなる甲子の日も一白故、一白と二日重なることとなる、又陽遁より陰遁に替らんとするときも、是と同じく陽遁期の癸亥の日は、九紫にて、陰遁の起し始めなる甲子の日も九紫なれば九紫と二日重なり續くこととなるのである。

右の如くなすときは陽遁百八十日（上中下三元）陰遁百八十日（上中下三元）にて三百六十日となる、これにては地球の運行三百六十五日五時四十八分五十秒なれば、一年に於て五日と五時四十八分餘の過剰が出來るそれ故十一年目乃至十二年目に六十日の日家九星配置の閏を置きて其調節を計るのである、是を九星の置閏法と云ふのである、然るに坊間鬻ぐ所の『オバケ』暦等は此置閏法を知らず、且つ陰遁なれば夏至の前、陽遁なれば冬至の前の甲子の日を以て必ず陰陽遁を起すなど、日家九星の起例に違反したる、九星配置法である、日々新聞に掲載の九星表、又は坊間鬻ぐ杜撰なる九星書は、此誤謬を知らずして『オバケ暦』の日家九星配置を襲踏し、世人も亦此謬れる日の九星を以て日常の判断を爲すが故に、其的中を得ることが難いのである



### 日家九星表

●此繰り樣は例えば陽遁なれば冬至に近き甲子の日に一白を起す故立春前後迄は甲子、癸酉、壬午、辛卯、庚子、己酉、戊午の日は皆一白の日である、又雨水前後の甲子の日に七赤を起すが故に前の七干支の日は七赤の日である又穀雨前後の甲子の日に四緑を起す故前の七干支の日は四緑となりて順に繰のである●陰遁なれば夏至に近き甲子の日に九紫を起す故前の七干支の日は皆九紫の日である餘は準じて知るがよい

| | | | | | | | 陽遁 冬至、小寒、大寒、立春、 | 陽遁 雨水、啓蟄、春分、清明、 | 陽遁 穀雨、立夏、小満、芒種、 | 陰遁 夏至、小暑、大暑、立秋、 | 陰遁 處暑、白露、秋分、寒露、 | 陰遁 霜降、立冬、小雪、大雪、 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 甲子 | 癸酉 | 壬午 | 辛卯 | 庚子 | 己酉 | 戊午 | 一白 | 七赤 | 四緑 | 九紫 | 三碧 | 六白 |
| 乙丑 | 甲戌 | 癸未 | 壬辰 | 辛丑 | 庚戌 | 己未 | 二黒 | 八白 | 五黄 | 八白 | 二黒 | 五黄 |
| 丙寅 | 乙亥 | 甲申 | 癸巳 | 壬寅 | 辛亥 | 庚申 | 三碧 | 九紫 | 六白 | 七赤 | 一白 | 四緑 |
| 丁卯 | 丙子 | 酉 | 甲午 | 癸卯 | 壬子 | 辛酉 | 四緑 | 一白 | 七赤 | 六白 | 九紫 | 三碧 |
| 戊辰 | 丁丑 | 丙戌 | 乙未 | 甲辰 | 癸丑 | 壬戌 | 五黄 | 二黒 | 八白 | 五黄 | 八白 | 二黒 |
| 己巳 | 戊寅 | 丁亥 | 丙申 | 乙巳 | 甲寅 | 癸亥 | 六白 | 三碧 | 九紫 | 四緑 | 七赤 | 一白 |
| 庚午 | 己卯 | 戊子 | 丁酉 | 丙午 | 乙卯 | | 七赤 | 四緑 | 一白 | 三碧 | 六白 | 九紫 |
| 辛未 | 庚辰 | 己丑 | 戊戌 | 丁未 | 丙辰 | | 八白 | 五黄 | 二黒 | 二黒 | 五黄 | 八白 |
| 壬申 | 辛巳 | 庚寅 | 己亥 | 戊申 | 丁巳 | | 九紫 | 六白 | 三碧 | 一白 | 四緑 | 七赤 |

されば眞に九星術を研究せんと志ざす諸士は、日家九星配置には置閏法のあることを心得て置かねばならぬ。

## ●時家九星起例

●時家九星とは、時に九星を配するとにて、時の九星は六十時を以て一元とし百八十時を以て上中下三元一週するととなるのである。

茲に時と云ふのは現今普通に用ゆる時間の午前十時とか又は午後二時とか云ふ稱呼ではなくして、往昔の一日を十二時卽ち子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥の十二刻を云ひ、是に九星を配するを時家九星と云ふのである、又一日は十二時、五日にして六十時なれば三元一週なすは丁度十五日間となるのである。

時家九星も日と同じく陰遁陽遁の二期に分ち、陽遁は舊十一月中冬至に近き甲子の日に日の陽遁を起すと同時に時の陽遁も起すのである、卽ち陽遁となりたる甲子の日の子の刻（午後十一時より午前一時迄）に時の一白を配し、丑の刻二黑、寅の刻三碧と順に繰るのである、又陰遁は舊五月中夏至に近き甲子の日に、日の陰遁を起すと同時に時の陰遁を起すのである、卽ち其陰遁となりたる甲子の日の子の刻（午後十一時より午前一時迄）に九紫を配し、丑の刻八白、寅の刻七赤と逆に繰るのである。

●此十二刻卽ち十二支を時刻に配して子の刻、丑の刻など呼ぶは現代の如く、晝夜二十四時間を以て一日となし、午前何時、午後何時と呼び慣れたる人々には解し難かるべきも往昔は一晝夜を十二時刻に分ち、夜の午後十二時を正子の刻となし、晝の午前十二時を正午の刻となす（往昔の一時刻は今の二時間なり、故に子の刻は午後十二時を正中として前の一時間卽ち午後十一時より、後の一時間卽ち午前一時迄を子の刻となすのである、餘は準ふて知るがよい）現今にても晝の十二時を正午と云ふは正午の刻の稱呼の殘れるのである。



## ●時間の九星早わかり

冬至に最も近き甲子の日より夏至に近き癸亥の日迄用ゆ

夏至に最も近き甲子の日より冬至に近き癸亥の日迄用ゆ

| 時間と時刻 / 日と九星 | 陽遁 子午酉の日 | 陽遁 丑未戌の日 | 陽遁 寅申亥の日 | 陰遁 子午酉の日 | 陰遁 丑未戌の日 | 陰遁 寅申亥の日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 子の刻（午後十一時より一時前） | 一白 | 四綠 | 七赤 | 九紫 | 六白 | 三碧 |
| 丑の刻（午後一時より三時前） | 二黑 | 五黃 | 八白 | 八白 | 五黃 | 二黑 |
| 寅の刻（午後三時より五時前） | 三碧 | 六白 | 九紫 | 七赤 | 四綠 | 一白 |
| 卯の刻（午後五時より七時前） | 四綠 | 七赤 | 一白 | 六白 | 三碧 | 九紫 |
| 辰の刻（午後七時より九時前） | 五黃 | 八白 | 二黑 | 五黃 | 二黑 | 八白 |
| 巳の刻（午後九時より十一時前） | 六白 | 九紫 | 三碧 | 四綠 | 一白 | 七赤 |
| 午の刻（午前十一時より一時後） | 七赤 | 一白 | 四綠 | 三碧 | 九紫 | 六白 |
| 未の刻（午後一時より三時後） | 八白 | 二黑 | 五黃 | 二黑 | 八白 | 五黃 |
| 申の刻（午後三時より五時後） | 九紫 | 三碧 | 六白 | 一白 | 七赤 | 四綠 |
| 酉の刻（午後五時より七時後） | 一白 | 四綠 | 七赤 | 九紫 | 六白 | 三碧 |
| 戌の刻（午後七時より九時後） | 二黑 | 五黃 | 八白 | 八白 | 五黃 | 二黑 |
| 亥の刻（午後九時より十一時後） | 三碧 | 六白 | 九紫 | 七赤 | 四綠 | 一白 |

## 時の干支

| 時刻 | 現時の時間 | 甲の日 己の日 | 乙の日 庚の日 | 丙の日 辛の日 | 丁の日 壬の日 | 戊の日 癸の日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 子の刻 | 午後十一時より午前一時迄間 | 甲 | 丙 | 戊 | 庚 | 壬 |
| 丑の刻 | 午前一時より同三時迄間 | 乙 | 丁 | 己 | 辛 | 癸 |
| 寅の刻 | 午前三時より同五時迄間 | 丙 | 戊 | 庚 | 壬 | 甲 |
| 卯の刻 | 午前五時より同七時迄間 | 丁 | 己 | 辛 | 癸 | 乙 |
| 辰の刻 | 午前七時より同九時迄間 | 戊 | 庚 | 壬 | 甲 | 丙 |
| 巳の刻 | 午前九時より同十一時迄間 | 己 | 辛 | 癸 | 乙 | 丁 |
| 午の刻 | 午前十一時より午後一時迄間 | 庚 | 壬 | 甲 | 丙 | 戊 |
| 未の刻 | 午後一時より同三時迄間 | 辛 | 癸 | 乙 | 丁 | 己 |
| 申の刻 | 午後三時より同五時迄間 | 壬 | 甲 | 丙 | 戊 | 庚 |
| 酉の刻 | 午後五時より同七時迄間 | 癸 | 乙 | 丁 | 己 | 辛 |
| 戌の刻 | 午後七時より同九時迄間 | 甲 | 丙 | 戊 | 庚 | 壬 |
| 亥の刻 | 午後九時より同十一時迄間 | 乙 | 丁 | 己 | 辛 | 癸 |

●此表の見方は、甲、己の日とあるは、甲の日にても、己の日にても子の刻の十干は甲なれば、此日は甲子の刻、乙丑の刻と順に繰るのである、又子の刻とは現今の時間にして午後十一時より午前一時迄の間を云ふのである餘は之れに準じて知らるゝがよい。

又甲の日、己の日とは、甲子の日、甲寅の日己卯の日、己酉の日など其日の干に甲、又は己のつく日を云ふのである、其餘の乙、庚の日、丙、辛の日も皆同じである。

●昔時は一晝夜を十二時刻に分ちて、これに十二支を配し子の刻、丑の刻など呼び、なほ之を分ちて子の上刻(午後十一時より零時迄)子の下刻(零時より午前一時迄と云ひ)、又丑の上刻(午前一時より二時迄)、丑の下刻(午前二時より三時迄)など稱せしのである。



## ●干支納音の說明

●支那の古代に黃帝の臣大橈と云ふ賢人が、北斗星の建する所を占ふて甲乙を作り以て日となし之を干と云ひ、子丑を作つて以て辰と名づけ之を支と云ふ、是れ六十干支の始めである、其後春秋戰國の頃に鬼谷子と云ふ人があつて其應用を考えられたのが此納音である

さて人の天稟の性質は皆五行の氣を受けて各々偏癖ありて和平なると能はざるものである、五行の氣とは卽ち木火土金水の五つの氣にして、之を精神に稟けるときは、木氣は仁愛、火氣は猛烈、金氣は殺伐、水氣は溫柔、土氣は寬大となる、此等は要するに皆天地化生の自然の性質にして本命納音の關據する所である、故に古人も性は天に稟け質は地に稟くと云ふてある、言を換えて云へば人には精神卽ち魂魄と云ふものがある本命は天の性の陽にして魂、納音は地の性の陰にして魄である、元來人の本性は至善のものなれば、物慾の私に敝はれて邪惡を恣にしやうとするは、畢竟魂魄に優劣あり、本命納音に强弱ある所以である、天の道の干と地の道の支と相合して、各人の魂魄に感通するが故に、各人賢愚善惡の別あるも亦免れ得ぬものである、干は幹にしてみき、支は枝にしてゑだ、魂と魄とは性と質、俗に云はゞ氣と心にして、分つて云ふときは二ツなれども元是一體の精である、譬えば陰陽と云ふときは二ツなれども元是宇宙の一元氣にして恰も影と形の如く一致して分離散亂せざるものである、本命納音は五行の氣より出でたるものなれば其判斷に當つても五行の相生相尅は離るゝとは出來ない、本命納音の相生するものは思慮明かに決斷力あるも、相尅なるものは思慮蒙昧にして疑心多し、比和するものは思慮中庸を得柔順偏固ならざる特質がある、此眞理を會得して各人其特癖を矯むる樣心掛けるがよい。

# ●納音の解説

## ●甲子 乙丑 海中金

海中の金とは江州中の沙金にして山金の廣大に及ばず甲乙は天干元始の氣にして其質强健ならず、子丑は幽陰の地にあつて陰中に包まれるゝが故に此年の人は世用を達し難き處がある

## ●丙寅 丁卯 爐中火

爐中の火は煮炙、防寒の用をなすも盛大の火氣なし丙丁は天干旺壯の氣にして、寅卯は東方の木氣に宿す故に木の助けを得て陽氣盛んなる功用をなす、故に此年の人は人に引立られ衣食に不自由することが少ない

## ●戊辰 己巳 大林木

野外に樹木密茂せる地を大林と云ふのである戊己は天干變化の土氣にして辰巳は東南の木氣なり故に二氣相合ふて樹木長壽繁茂競秀し大林となるのである、此年の人は心正直なれば家門繁榮の運がある

## ●庚午 辛未 路傍土

路傍はミチバタと訓す、貴賤の別なく往來する所を云ふ庚辛は天干備成の氣にして、午未陰陽の土離火に生せられ金干を得て象を爲す、これ開通するの土氣である此年の人は萬事敏捷に交際も巧みなれば世用をなす

## ●壬申 癸酉 釼鋒金

釼はツルギ鋒はホサキと訓し殺伐の用を爲す具を云ふ壬癸は天干終盡の氣にして申酉金氣旺盛の地に加はるが故に萬物を枯らし殺伐を逞ふする意がある、此年の人は短氣にして其德を損ずるとあれば慎しむがよい

## ●甲戌 乙亥 山頭火

山頭火は硫黃分を含む山上の陰火を云ふ甲乙は天干の始めにして其氣微弱なり、戌亥は金氣休息の位故火氣陰々として物を燒滅する力乏し、此年の人は氣位高くして無用の財を費すことが多い



## ●丙子 丁丑 澗下水

澗は山間に流るゝ谷水にて岩間より湧出する清水を云丙丁は天干旺盛の氣にして、子丑は幽陰坎水の鄕に行く其流出勢ひ微なるも混々として渴きざる意がある、此年の人は狹量なれども福分は相應にある

## ●戊寅 己卯 城頭土

城頭はシロノホトリと訓す戊己は天干化育の氣にして寅卯は陽勢の地である、繁華發生の化を得て自ら廣濶なる土氣となる、此年の人は兎角見得を飾りて內實は苦しむことが多い

## ●庚辰 辛巳 白鑞金

白鑞とは金屬を接合する白鑞のことである庚辛は天干收成の金氣、辰巳は木にて火を生ずる、金は火氣を受けてよく和らぎ其用をなすものなれば白鑞の金と名づけたのである、此年の人は氣質柔和にして交際も巧みなれど女色を慎しむがよい

## ●壬午 癸未 楊柳木

楊柳とはカワヤナギと訓す枝葉共に軟弱である壬癸は天干納終の氣にして水氣終りて木氣に移らんとし午未南方離火の氣を受け、夏季繁茂すると雖も幹枝共に脆弱である、それ故此年の人は柔弱にして些細の事にも恐怖の念を生じ易い

## ●甲申 乙酉 泉中水

泉は地中泉脈より湧出する水なり又井泉の水とも云ふ甲乙は天干初發の氣にして微弱なれども申酉金氣の地に行く、金よく水を生じて盡くることなし、此年の人は心正直にして擧止靜平なればよく人の愛を受くる

## ●丙戌 丁亥 屋上土

屋上とは屋根のことである、瓦又は其下のふせ土を云ふ丙丁は天干の旺氣なれど戌亥は金氣休息の位火氣墓絕の地によるを以て精氣なき土氣である、故に此年の人は進取の氣象に乏しきが缺點である

## ●戊子 己丑 霹靂火

霹靂とは雷火にして卽ちイナビカリのことである

戊己は天干應化の氣子卯幽陰の地に因るが故に火氣微弱なれども反つて變化を生じて霹靂の火となる、此年の人は身を忘れて危險を犯す癖あり注意肝要である

## ●庚寅 辛卯 松柏木

松や柏は霜雪を畏れず共に多壽の樹木である

庚辛は天干濟成の氣、寅卯長生の地木の旺方である成旺の氣相和し獨り秀でゝ千歳を保ちよく霜雪を凌ぎ枯凋せざるものは松柏である、故に此年の人は約束を守り志操堅固にして艱難辛苦に堪ゆる質である

## ●壬辰 癸巳 長流水

江河などの流域數十里に及び流勢至つて緩かなるを云ふ

壬癸は天干終納の氣にして辰巳長陽の氣による水氣長陽に乘じて日夜流れて止まらず、此年の人は心廣く交際家なれば他人の爲に世話奔走が多い

## ●甲午 乙未 沙中金

砂金のことにて卽ち砂中に埋れた金と云ふ義である

甲乙は天干元始の氣なれど勢微弱、午未は南方火旺の地、微弱の金氣剛旺の火氣と和すること能はずして其質燥碎して砂中に埋まり窃かに藏るの金氣である此年の人は其才能を見出して引立らるれば發展が出來る

## ●丙申 丁酉 山下火

山麓幽陰の地に燃出る火にして陰火である

丙丁は天干の旺氣にして申酉秋陰の地に行く火氣陰中に包まれ物を焚くことが出來ない、此年の人は常に煩悶多く不如意勝なればよく神佛の加護を待つがよい。

## ●戊戌 己亥 平地木

平かなる田畠道路など平地に生ずる木を云ふ

戊己は天干轉化の氣にして戌亥老陽休息の地に行く故に獨り淋しく平穩無事朴々として成長する木を云ふ此年の人は心靜かに鬪爭等は好まぬ質である



## ●庚子 辛丑 壁上土

壁上とは壁のホトリと讀む卽ち風雨を防ぐ壁土を云ふ

庚辛は天干成熟の氣にして子丑水陰の地に行く、土氣の功を成すと雖も活氣を失ふ、此年の人は自己の才能を充分發揮する努力の足らぬのが缺點である

## ●壬寅 癸卯 金箔金

金箔は薄く打延したる金にして裝飾の用にもちゆる

壬癸は天干終迫の氣にして寅卯は陽氣發顯の地である故に雜用の功はあるも暢達の榮を嫌ふ傾きがある、此年の人は性質虛弱にして進取の氣象に乏しい

## ●甲辰 乙巳 覆燈火

覆燈とは燈籠行燈の如く覆圍を設け明を包む火を云ふ

甲乙は天干の始氣にして其勢微弱なれど辰巳陽盛の地に行くが故に自ら貴しと雖も性微乏なるが故に赭々たる光明を發する事が出來ない故に覆燈火と名けたのである此年の人は强健の氣象を保てば大成功を得る

## ●丙午 丁未 天河水

天河水は天地に於ての化育を助ける雨露霜雪を云ふ

丙丁は天干の旺氣にして午未陽明火旺の地に行き陽氣旺盛相親しみよく天地の氣を升降して普く潤澤の德を施すが故に天河の水と名けたのである、此年の人は氣位高くして人に敬まはれるが常に物思ひが絶えない

## ●戊申 己酉 大驛土

驛はムマヤジと訓し、旅中傳馬を替ふる所を云ふ

戊己は天干化成の氣にして申酉は金位土氣長生の地に行くが故に、財集群聚大驛の如くである、此年の人は福分備はるが故萬事温和なればよく人の同情を得る

## ●庚戌 辛亥 釼釧金

釼釧とはカンザシ又は腕輪などの裝身具を云ふ

庚辛は天干成就の氣にして戌亥休息の地に行く温柔の金氣にして上に位ゐし其所に止まつて物の亂れを防ぐ此年の人は温柔にして福德なるも人の嫉妬を受け易い

●壬子 癸丑 桑柘木

桑はクワ柘はヤマクワなれど桑柘にてクワと讀む

壬癸は天干終極の氣にして子丑幽陰の地に行く、氣沈み伸びずと雖も春更らに發生繁茂する木氣である、此年の人は心靜かに度量大きく希れに大成功を收める

●甲寅 乙卯 大溪水

溪は溪流など云ふて谷の水ある所を云ふ

甲乙は天干の始少弱の氣にして寅卯發陽の地に行く、微弱なる水氣も發陽の盛德に乘じて勢を得江河の壯んなるには及ばざるも水勢強きを以て大溪水と名けたのである、此年の人はよく人の信用を得て立身する

●丙辰 丁巳 沙中土

石の小なる砂と濁陰の凝れる土と相交れるを云ふ

丙丁は天干旺氣にして辰巳陽盛乾燥の地に行く故に乾きて精氣を失ひ死灰の如く物を養育する德を失ふ、此年の人は兎角孤立になり易く厭世的の氣を起し易い

●戊午 己未 天上火

天上の火とは極陽の火卽ち太陽の火の如きを云ふ

戊己は天干變化の氣にして午未陽明の地に行く離陽に會して照明し四方に發揮する火氣である、此年の人は物の長となる德は備えるも慢心を起して失敗をする

●庚申 辛酉 柘榴木

柘榴とは萬物成熟し實の多きより名付けたのである

庚辛は天干備成の氣にして申酉秋陰寂寞の地に行く外素にして內全備せる象を具えてをる、此年の人は他人の信用を得財產多く子孫も亦繁榮である

●壬戌 癸亥 大海水

海は廣大にして百川之に注ぐとも溢るゝことがない

壬癸は天干終納の氣にして戌亥休息の地に行く急波逆浪の質なりとも滿ち溢るゝことはない、此年の人は度量廣大にして堪忍强く至つて柔和の性質なれど一度怒るときは人を驚かせる特質がある

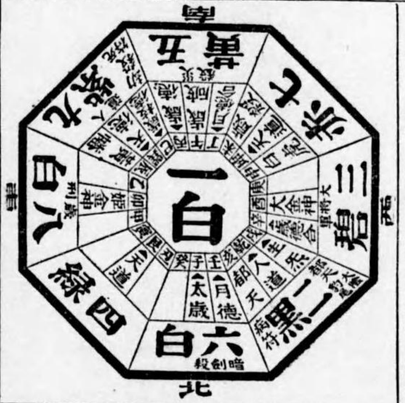


# ●干支、九星、納音を調べるに就ての注意

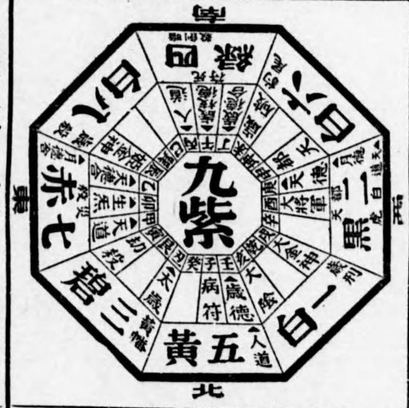
●各人の運勢の消長を調べるに於て、陰陽學中にて現今多く行はれるは、其人々の生れ年干支、九星、納音によりて調ぶるのである、然るところ此陰陽學は皆五行生尅の理に基きて吉凶を判斷するが故に、例えば茲に甲申、八白、井泉水の生れの人があるとせんか、干の甲は木、支の申は金、九星の八白は土、納音の井泉水は水である、然らば其干支九星納音を續けて見るときは、木、金、土、水となる、斯るときは其運勢を考察する折は別として、相性又は方位、撰名などなすときに當つて、或人は干支に重きを置き、或者は九星に重きを置き、或は納音を重視して云々する人もあり、其占考をなす人によりて千差萬別である、故に素人より視れば甚だ怪しみ惑ふことが多い、之は何によつて然るかと云ふと、今の占斷を業となす人々は、易を究めたるものは易に偏し、九星を學びたるものは九星に偏し、干支淘宮を修めたるものは干支にのみ重きを置くが故に、各々其因つて來る所以を究めずして、徒らに枝葉に就てのみ是非を論ずるが故に、其正鵠を失するのである、此干支、九星、納音は支那にても年代によりて、活用に顯晦行藏ありしも、紙數に限りある斯る冊子に於て、之を詳說せんとは不可能なれば、茲には其活用の範圍のみを示さん、干支は各人の先天的の性癖を見て其長短を知り、九星は年、月、日の運行に連れて自己の運命の消長を詳かにし、納音は撰名の際に當つて撰字は之に基き、相性は干支と九星と納音とを綜合して、其吉凶を判定なす樣なさば大差ないのである、斯る事は博識なる諸士は既に知悉せることなれど、初心者の爲に婆心を以て一言添えるのである。

# 毎年の九星盤巡り方

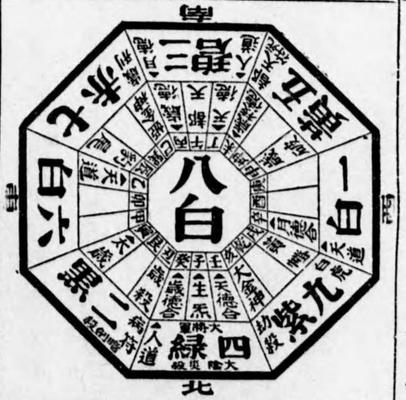
昭和十一年 丙子 一白水星



昭和十二年 丁丑 九紫火星

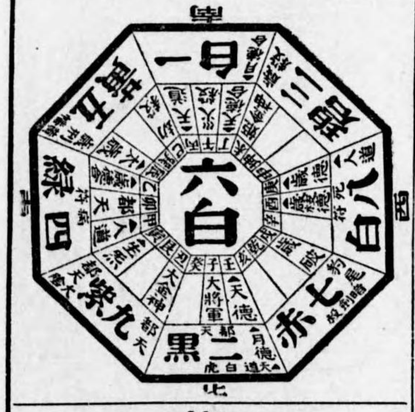


昭和十三年 戊寅 八白土星

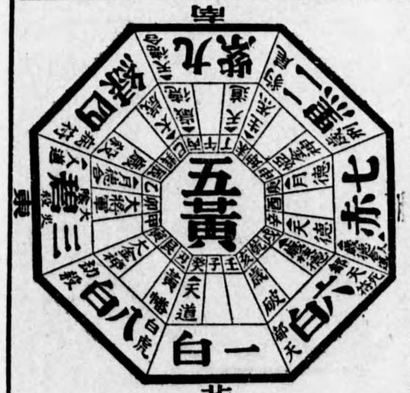


昭和十四年 己卯 七赤金星

昭和十五年 庚辰 六白金星

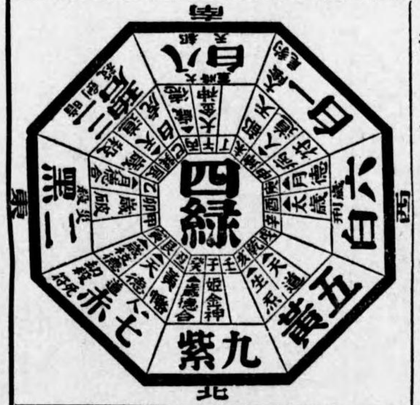


昭和十六年 辛巳 五黄土星

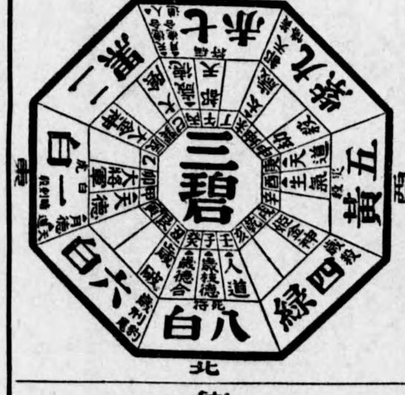


昭和二十年ハ元ノ一白ニ戻ッテ順ニ繰ルノデアル

昭和七年 壬午 四緑木星



昭和八年 癸未 三碧木星



昭和九年 甲申 二黒土星

●茲に掲げたのは、昭和十一年より昭和十九年迄の年々の九星盤である、九星は九つなれば昭和二十年となれば、復元へ戻りて繰るのであれば、何年には自分の星が何の方位に居り、的殺は何處、五黄殺や暗剣殺は何處と、直ぐ調べられる、又月、日、時の盤に應用も出來る縦令ば一白の月と云へば一白は中宮に居る故、即ち一白中宮の月で、又二黒の日と云へば二黒が中宮する日、三碧の時と云へば三碧が中宮する時（中宮とは中央の座のこと）のことであれば、月日時の九星を調べる場合にも此圖を觀れば、何星は何の方位に居るとか、何星は何宮に居るかゝ直ぐ分る故、方角の吉凶を調べる場合には、此圖によりて本命、的殺、五黄殺、暗剣殺等を知り、併せて吉神凶神の所在をも知悉せらるゝがよい。

●年月の吉神凶殺等は後章に詳しく説明してある故參照せられんことを望む。

# ●生れ年の干支九星を調べるに就ての注意

さて年を繰り數えて何の星に其人の生れ歳が當るかと云ふことを見るのが九星術上緊要のことである世間多くは一月一日が元旦にして年が改まる故其年の運命を司配する九星の星も變るならんと思ふ人あるが是は大いなる誤りである、そも〳〵天の時候には二十四節ありて暑往き寒來り四時の序宜しきを得るのである然るに暦には一月一日を以て改年の始めとなすは是れ國家政治上必要のことでこれあるが爲に政府政務の便利各人約束の履行年代月日或は人々の年齢の計算等便益ならしめるが爲に制定せられしものなるが明治以後舊暦が新暦に改まつて一月一日がちがつても氣候にはさらに變りはない四季の氣候と云ふものは暦に記してある二十四節によりて變るのである然らば人も天地の氣を受けて生れしものなればやはり此二十四節に從はねばならぬそも〳〵九星術は政治或は法律の如く權利の服從や義務の履行を論ずるものではなく各人の天より命ぜられし運勢の消長を論ずるものなればやはり夫の氣候の運行によらねばならぬ然らば如何にして年を數え其本命星を定むるかと云ふに其年の節分を境目とするのである從令ば明治元年生れの人は正月十一日戌の刻三分より立春の節に入りて始めて戊辰六白金星が本命となるのであればそれ以後の人は戊辰六白金星であるが正月十一日戌の三分以前の生れは丁卯七赤金星が本命である或は大正三年生れの人は同年二月五日午前〇時二十九分に立春の節に入りし故其以後の人は甲寅五黄土星が本命なれども二月五日午前〇時二十九分以前の生れは癸丑六白金星が本命であるこれはよく心得て置かぬと九星術判定の上に於て大なる差誤を生ずることがある世間多くの一知半解の九星家はまゝこの誤りに陷り易い故特に斯道熱心の諸君に其秘訣を示すのである、尚ほ詳しくは次に記す生れ年本命星干支の早見と云ふところに明細に記載してある

# ●各人生れ年本命星干支早見

●九星術上年の替り目は其年の立春の節からであると云ふことは前に述べてあるが、毎年何つが立春の節であるかを知る人が少ない故茲に萬延元年より今年迄の年々の立春が其節に入りし時間迄詳細に記してあればこれに就て自分の干支九星を知るがよい

| 生れ年 | 生れたる時間 | 干支本命星 |
|---|---|---|
| 萬延元年 | 萬延元年 正月十三日亥ノ時ヨリ<br>萬延元年十二月廿五日丑ノ八分マデ | 庚申五黄 |
| 文久元年 | 萬延元年十二月廿五日丑ノ八分ヨリ<br>文久二年 正月六日辰ノ八分マデ | 辛酉四緑 |
| 同二年生 | 文久二年 正月六日辰ノ八分ヨリ<br>文久二年十二月十六日未ノ七分マデ | 壬戌三碧 |
| 文久三年 | 文久二年十二月十六日未ノ七分ヨリ<br>文久三年十二月廿七日戌ノ六分マデ | 癸亥二黒 |
| 元治元年 | 文久三年十二月廿七日戌ノ六分ヨリ<br>慶應元年 正月九日丑ノ五分マデ | 甲子一白 |
| 慶應元年 | 慶應元年 正月九日丑ノ五分ヨリ<br>慶應元年十二月十九日辰ノ四分マデ | 乙丑九紫 |
| 同二年生 | 慶應元年十二月十九日辰ノ四分ヨリ<br>慶應二年十二月三十日未ノ四分マデ | 丙寅八白 |
| 慶應三年 | 慶應二年十二月三十日未ノ四分ヨリ<br>明治元年 正月十一日戌ノ三分マデ | 丁卯七赤 |
| 明治元年 | 明治元年 正月十一日戌ノ三分ヨリ<br>明治元年十二月廿三日丑ノ一分マデ | 戊辰六白 |
| 明治二年 | 明治元年十二月廿三日丑ノ一分ヨリ<br>同 三年 正月四日辰ノ一分マデ | 己巳五黄 |
| 同三年生 | 同 三年 正月四日辰ノ一分ヨリ<br>同 三年十二月十五日未ノ一分マデ | 庚午四緑 |
| 同四年生 | 同 三年十二月十五日未ノ一分ヨリ<br>同 四年十二月廿六日戌ノ時マデ | 辛未三碧 |
| 同五年生 | 同 四年舊十二月廿六日戌ノ時ヨリ<br>同 六年二月四日午前二時九分マデ | 壬申二黒 |
| 同六年生 | 同 六年二月四日午前二時九分ヨリ<br>同 七年二月四日午前七時五十九分四十六秒マデ | 癸酉一白 |
| 同七年生 | 同 七年二月四日午前七時五十九分四十六秒ヨリ<br>同 八年二月四日午後一時四十六分四十秒マデ | 甲戌九紫 |
| 同八年生 | 同 八年二月四日午後一時四十六分四十秒ヨリ<br>同 九年二月四日午後七時卅分卅一秒マデ | 乙亥八白 |
| 同九年生 | 同 九年二月四日午後七時卅分卅一秒ヨリ<br>同 十年二月四日午前一時八分廿七秒マデ | 丙子七赤 |
| 同十年生 | 明治十年二月四日午前一時八分廿七秒ヨリ<br>明治十一年二月四日午前七時六分四十二秒マデ | 丁丑六白 |
| 同十一年生 | 同 十一年二月四日午前七時六分四十二秒ヨリ<br>同 十二年二月四日午後〇時五十九分マデ | 戊寅五黄 |
| 十二年生 | 同 十二年二月四日午後〇時五十九分ヨリ<br>同 十三年二月四日午後六時四十九分七秒マデ | 己卯四緑 |
| 明治十三年生 | 同 十三年二月四日午後六時四十九分七秒ヨリ<br>同 十四年二月四日午前〇時卅六分廿秒マデ | 庚辰三碧 |

●注意　明治五年十二月三日ヲ太陽暦明治六年一月一日ト改ムル

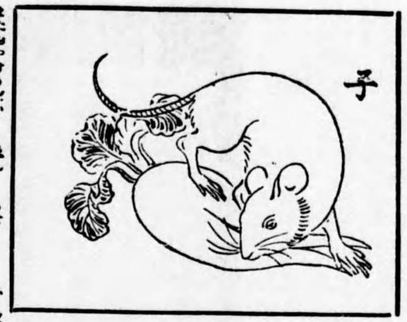
●注意　明治五年十二月三日ヲ太陽暦明治六年一月一日ト改ムル

| | | | |
|---|---|---|---|
| 明治十四年生 | 明治十四年二月四日午前〇時卅六分廿六秒ヨリ同十五年二月四日午前六時廿七分十二秒マデ | 辛巳二黒 | 明治廿八年生 明治廿八年二月四日午前九時五十七分ヨリ明治廿九年二月四日午後三時四十三分マデ | 乙未六白 |
| 十五年生 | 同十五年二月四日午前六時廿七分十二秒ヨリ同十六年二月四日午前三時〇分四十一秒マデ | 壬午一白 | 廿九年生 同廿九年二月四日午後三時四十三分ヨリ同三十年二月三日午後九時二十九分マデ | 丙申五黄 |
| 十六年生 | 同十六年二月四日午前三時〇分四十一秒ヨリ同十七年二月四日午後六時七分五十二秒マデ | 癸未九紫 | 明治卅年 同三十年二月三日午後九時二十九分ヨリ同卅一年二月四日午前三時十五分マデ | 丁酉四緑 |
| 十七年生 | 同十七年二月四日午後六時七分五十二秒ヨリ同十八年二月三日午後十一時五十九分廿秒マデ | 甲申八白 | 卅一年生 同卅一年二月四日午前三時十五分ヨリ同卅二年二月四日午前九時七分マデ | 戊戌三碧 |
| 十八年生 | 同十八年二月三日午後十一時五十九分廿秒ヨリ同十九年二月四日午前五時五十一分四十九秒マデ | 乙酉七赤 | 卅二年生 同卅二年二月四日午前九時七分ヨリ同卅三年二月四日午後二時五十一分マデ | 己亥二黒 |
| 十九年生 | 同十九年二月四日午前五時五十一分四十九秒ヨリ同二十年二月四日午前十一時四十一分マデ | 丙戌六白 | 卅三年生 同卅三年二月四日午後二時五十一分ヨリ同卅四年二月四日午後八時四十分マデ | 庚子一白 |
| 二十年生 | 同二十年二月四日午前十一時四十一分ヨリ同廿一年二月四日午後五時十分マデ | 丁亥五黄 | 卅四年生 同卅四年二月四日午後八時四十分ヨリ同卅五年二月四日午後二時三十八分マデ | 辛丑九紫 |
| 廿一年生 | 同廿一年二月四日午後五時十分ヨリ同廿二年二月三日午前十時五十八分マデ | 戊子四緑 | 卅五年生 同卅五年二月四日午前二時三十八分ヨリ同卅六年二月五日午前八時三十一分マデ | 壬寅八白 |
| 廿二年生 | 同廿二年二月三日午前十時五十八分ヨリ同廿三年二月四日午後四時五十一分マデ | 己丑三碧 | 卅六年生 同卅六年二月五日午前八時三十一分ヨリ同卅七年二月五日午後二時二十四分マデ | 癸卯七赤 |
| 廿三年生 | 同廿三年二月四日午後四時五十一分ヨリ同廿四年二月四日午前十時四十八分マデ | 庚寅二黒 | 卅七年生 同卅七年二月五日午後二時二十四分ヨリ同卅八年二月四日午後八時十六分マデ | 甲辰六白 |
| 廿四年生 | 同廿四年二月四日午前十時四十八分ヨリ同廿五年二月四日午後四時三十五分マデ | 辛卯一白 | 卅八年生 同卅八年二月四日午後八時十六分ヨリ同卅九年二月五日午前二時四分マデ | 乙巳五黄 |
| 廿五年生 | 同廿五年二月四日午後四時三十五分ヨリ同廿六年二月三日午後十時二十四分マデ | 壬辰九紫 | 卅九年生 同卅九年二月五日午前二時四分ヨリ同四十年二月五日午前七時五十九分マデ | 丙午四緑 |
| 廿六年生 | 同廿六年二月三日午後十時二十四分ヨリ同廿七年二月四日午前四時十二分マデ | 癸巳八白 | 四十年生 同四十年二月五日午前七時五十九分ヨリ同四十一年二月五日午後一時四十七分マデ | 丁未三碧 |
| 廿七年生 | 明治廿七年二月四日午前四時十二分ヨリ明治廿八年二月四日午前九時五十七分マデ | 甲午七赤 | 四十一年生 明治四十一年二月五日午後一時四十七分ヨリ明治四十二年二月四日午後七時三十三分マデ | 戊申二黒 |

●注意　明治五年十二月三日ヲ太陽暦明治六年一月一日ト改ムル

| | | | |
|---|---|---|---|
| 明治四十二年 | 明治四十二年二月四日午後七時三十三分ヨリ明治四十三年二月五日午前一時二十八分マデ | 己酉一白 | 大十二年生 正同十二年二月五日午前五時一分ヨリ同十三年二月五日午前十時二十分マデ | 癸亥五黄 |
| 四十三年 | 同四十三年二月五日午前一時二十八分ヨリ同四十四年二月五日午前七時十一分マデ | 庚戌九紫 | 十三年生 同十三年二月五日午前十時二十分ヨリ同十四年二月四日午後四時四十三分マデ | 甲子四緑 |
| 四十四年 | 同四十四年二月五日午前七時十一分ヨリ同四十五年二月五日午後〇時五十四分マデ | 辛亥八白 | 十四年生 同十四年二月四日午後四時四十三分ヨリ同十五年二月四日午後十時卅一分マデ | 乙丑三碧 |
| 大正元年 | 明治四十五年二月五日午後〇時五十四分ヨリ大正二年二月四日午後六時四十三分マデ | 壬子七赤 | 昭和元年 大正十五年二月四日午後十時卅一分ヨリ昭和二年二月五日午後四時十六分マデ | 丙寅二黒 |
| 同二年生 | 大正二年二月四日午後六時四十三分ヨリ同三年二月五日午前〇時二十九分マデ | 癸丑六白 | 同一年 同二年二月五日午後四時十六分ヨリ同三年二月五日午前十時五分マデ | 丁卯一白 |
| 同三年生 | 同三年二月五日午前〇時二十九分ヨリ同四年二月五日午前六時二十六分マデ | 甲寅五黄 | 同三年 同三年二月五日午前十時五分ヨリ同四年二月四日午後三時五十八分マデ | 戊辰九紫 |
| 同四年生 | 同四年二月五日午前六時二十九分ヨリ同五年二月五日午後〇時十四分マデ | 乙卯四緑 | 同四年 同四年二月四日午後三時五十八分ヨリ同五年二月四日午後九時四十五分マデ | 己巳八白 |
| 同五年生 | 同五年二月五日午後〇時十四分ヨリ同六年二月四日午後五時五十八分マデ | 丙辰三碧 | 同五年 同五年二月四日午後九時四十五分ヨリ同六年二月五日午前三時卅九分マデ | 庚午七赤 |
| 同六年生 | 同六年二月四日午後五時五十八分ヨリ同七年二月四日午後十一時五十三分マデ | 丁巳二黒 | 同六年 同六年二月五日午前三時卅九分ヨリ同七年二月五日午前八時五十八分マデ | 辛未六白 |
| 同七年生 | 同七年二月四日午後十一時五十三分ヨリ同八年二月五日午前五時四十分マデ | 戊午一白 | 同七年 同七年二月五日午前八時五十八分ヨリ同八年二月四日午後三時廿一分マデ | 壬申五黄 |
| 同八年生 | 大正八年二月五日午前五時四十分ヨリ大正九年二月五日午前十一時廿七分マデ | 己未九紫 | 同八年 同八年二月四日午後三時廿一分ヨリ同九年二月四日午後九時〇九分マデ | 癸酉四緑 |
| 同九年生 | 同九年二月五日午前十一時廿七分ヨリ同十年二月四日午後五時廿一分マデ | 庚申八白 | 同九年 同九年二月四日午後九時〇九分ヨリ同十年二月五日午前二時五十三分マデ | 甲戌三碧 |
| 同十年生 | 同十年二月四日午後五時廿一分ヨリ同十一年二月四日午後十一時七分マデ | 辛酉七赤 | 昭和十年 同十年二月五日午前二時五十三分ヨリ同十一年二月五日午前八時四十三分マデ | 乙亥二黒 |
| 大正十一年生 | 同十一年二月四日午後十一時七分ヨリ同十二年二月五日午前五時一分マデ | 壬戌六白 | 同十一年 同十一年二月五日午前八時四十三分ヨリ同十二年二月四日午後〇時五十四分マデ | 丙子一白 |

# ●子年生れ一代の運氣




●子年生れの人の天稟の性質は、器用の質にて心氣高く、又細かなことにもよく氣がつく故、天壽の福運を享け相應の財產家となることは出來る、然し局量小さく人を容るゝの度量に乏しい故、親身の友人に乏しく又親兄弟の緣も薄い、平常は隨分節儉に些細の損德をも彼是云ひながら、身分不相應の事業を企てたり、或は期米、株式などに手を出して思はぬ損失を招くことある故注意するがよい、此年の人の運勢は丁度谷河の清水の瀧と落ち、岩に堰かれ種々なる困難をしても末には海に入りて洋々たる大海となる樣に、初年より中年へかけては種々煩悶心配多く又事業上の失敗もあるが、晩年に至るに從ひ、安樂の生涯を送ることが出來る、初年に於ても四歲頃に病氣あるか或は七八歲にして大病か怪我等あり、十三四歲にして目上の引立を受け、一寸好運の時機がある又人により十七八歲に好運來ることもある、十九歲二十歲にして病災あるか身分に變動ありて大に煩悶することがある、二十一歲にして好運來ることあるも色情の爲め失敗を招く又二十六七歲にして大利を得ることあり、二十八歲頃は一寸運氣に滯りあり、二十九歲三十歲は至極よき年廻り故萬事進んで吉である、三十一二歲は諸事控え目にせざれば意外の損失あるか近親に別るゝことがある、三十八九歲は諸事吉運の時であるが四十歲の時と四十三四歲の時は一生中の大厄時期なれば注意せぬと一生取返しの付かぬ事となる四十五歲よりは運氣大に開ける故此時に當り晩年の計を立つれば老年安樂なるも此時に運勢を取損へば終身不幸の生涯を送らねばならぬ故萬事手堅くなして老年安樂の基礎を造るがよい、一生を通じて女難と水難がある故殊に注意せねばならぬ、此年と同じ天稟の性を享けし人は岩崎彌太郎、山本權兵衛、川端玉章、寺內正毅、波見善藏等は皆子年生れの人である、されば其人の奮勵努力と好機良運を捕捉するによりて皆是等の人の如くに成功を得らるゝ故一代の守本尊千手觀世音を尊崇して信心堅固に開運成功を祈らるゝがよい。

毎月十七日には供物を備えて熱心信仰せらるゝがよい此日は雉を食すべからず

## ●子年一白生れの相性と職業

●丑辰未戌の三碧六白は大吉、丑辰未戌の九紫卯午の一白は大凶、子酉の一白、子卯午の四緣、七赤酉の四緣七赤は初緣では治らぬ、寅申巳亥は災難がある。職業、醫師、穀物商、酒屋、金物商、電氣業、染物業、砂糖商、海軍々人、水車業、木材商等は吉である。

## ●子年四緣生れの相性と職業

●丑辰の三碧九紫戌未の三碧九紫は妻の內助によりて家業盛大となる、丑辰未戌の六白、子卯午の一白は凶子卯午酉の七赤四緣は一方が缺ける、寅申巳亥の二黑五黃八白は大凶にして家內に病人絕えず失費が多い。職業、機關師、大工職、湯屋、薪炭商、水車業、船乘業、裁縫師、料理屋、農業、書畫商等が成功する。

## ●子年七赤生れの相性と職業

●丑辰の六白、申の二黑五黃八白は家業繁榮す寅巳亥の二黑五黃八白も吉、辰丑未戌の三碧九紫子酉の一白七赤は大凶にして子供に緣が薄い、午卯の一白七赤は初緣破れる、子午卯酉の四緣は大凶にして病人絕えぬ職業、農業、鐵工師、銀行會社員、金物細工及び販賣鍛冶鑄物師、軍人、珠玉商同細工師等は大吉。

●往古より三世相と云ふ本がありますが、これは過去、現在、未來の三世に渉る因果説より各人の運命を説いたもので吾等の祖父祖母の時代には民俗信仰書として一般家庭に愛讀せられたものです、イヤ現今でも地方によりてはなほ此書を信仰して愛讀せらるゝ人々も相當にあります、此三世相は僧侶の手になつたもので現代から考へると荒誕な妄説と考へらるゝ節も多々ありますが、それは例の佛者の方便説として意に介せず、其内容に就て仔細に驗べますと是又成程と頷かれるところもあれば玆に採録して皆さんの參考といたします。

●子の年に生るゝ人は、一代の守本尊千手觀世音菩薩なり、此人前生にては黒帝の御子にて北斗の貪狼星より白米一石二斗と金五貫目とを受け得て今世に生れたれば衣食に不自由すること尠なし、又前生にて死刑に行はるゝ人を助けたる功德により今世に生れては目上の引立を得て立身成功することあらん、此人常に閑靜なるところに住居するを好む質なり。

又前生にて酒や魚類をば持戒の僧に與へたる報ゐにて、常に胸腹の病にかゝり易きなり、なほ又惣領の子には緣薄く早くより離れて暮すなり、されど前生にて手づから鋤鍬を取る老ひたる農夫を憐み、牛一匹を與へたる功德によりて、中年過ぎは仕合よかるべし。

又子年生れの人は損虫とて、人より惡しみを受け易ければ親戚朋友間の交際には特に注意せらるべし、又夫婦の緣替り易く多くは再緣にておさまるなり、子供は二人乃至四人ありて二番目の子供は力となるべし。

又子年生れの人は、官公吏となりて相當の官位に進み、農工商となりて是又相當の財産家となるも、急激に事を爲さんとするか又は餘り儉約に過ぎて他人より嫌はれ失敗することあらん。

北辰妙見は壽命を守り、彌勒菩薩は智惠を授け、勢至菩薩は福德を與へ給ふが故に、一代の守本尊と共によく〳〵信心して開運を計らるべし。

# ●子年の人生れ月の運勢

**一月生れ**は心正直にして萬事に注意深く日常の業務も至つて勉勵すれば目上の引立ありて中年の折意外の幸福を得て立身成功するも、時に吝嗇の心起り友人の交際圓滿を缺きて折角の幸運を取損なふか、他人の痴みを受けて不幸續きとなり晩年に至り後悔する

**二月生れ**は自負心强く勢ひに任せて一時に大利を得ようと思ひ反つて失敗することがある、又目上の意見を用ひず我意の振舞多くそれが爲に立身出世を妨ぐることあれば注意するがよい、萬事實直堅固にし業務に勤勉なれば中年より運勢は次第に良好となる

**三月生れ**は性質溫柔なれば大なる成功は期し難きも亦大なる失敗もない平常の食物は割合にゼイタクなれども衣服は餘り奢らず、人望は相應にあれども行ひ卑賤の爲に人に彼是批評され甚だ損な質である故なるべく自己の缺點に注意し晩年の安樂を計るがよい

**四月生れ**は表面は剛慢にして人を侮る風あれど内心は吝嗇にして卑しき爲人に憎惡まるゝ質である福運は充分ある故身の分限を知つて目上を尊び人に交わらば中年より運氣次第に開け晩年は安樂である然し子に緣薄ければ老後に至り後悔せぬ樣注意するがよい

**五月生れ**は性質溫順にて愛敬よく萬事に親切なれば目上に引立られ意外の出世することがある又商人なども僅かの利益を捨てず勤儉力行すれば小を積んで大に至り遂に人にも羨まるゝ運勢なれば、彼是と氣迷ひせず一ッ事業を飽まで仕遂げる樣心掛けるがよい

**六月生れ**は小事には至つて吝なれども時々山懸つた事に手を出して失敗を招くことがある、兎角移り氣にして物事一定し難いのは一生の損である、又初年、中年には女色の爲め失敗を招く故宜しく注意して惡癖を改め老年に至りて安樂なることを計るがよい。

**七月生れ**は至つて内氣にして萬事控え目故金錢の貯蓄も出來る、初年より心配苦勞絶えず住所、商

賣屢々替り人には愛せられるも損失多き故獨立して商業か工業を營むがよい、官吏、會社員等は餘り面白くないが宗教家、教育家等になると出世する。

**八月生れ** は移り氣にして、永く一定の業に從事なし兼る樣な質である、然し利を見るに敏けれど、人より狡猾と思はれて人望至つて薄く、それが爲に初年、中年は辛勞多く業務、住所等屢々替ることあるも晩年には氣質も替り大に福德を得て安樂である。

**九月生れ** は至つて怜悧なれば人付合ひ宜しきも利己主義の行ひありて人望を失ふことが多い、それが爲に中年は殊に心勞が多く運勢發展なし難ければ官吏、會社員の如きことは性に適せない、文學或は工業家を志さば中年の辛勞は反つて晩年に至り幸福となる

**十月生れ** は物事輕卒にして氣移り多く卑客の行ひ多ければ人望に乏しきが缺點である、然れば獨立して事を爲すとも人の補助少なく餘り好運は得られない、寧ろ會社、又は官省に勤めるか或は良き主人に從つて實直に勤めなば反つて福運を得るのである。

**十一月生れ** は剛情氣儘にして自負心强く兎角人と爭ふ癖あれば、時には前後の考えなく向ふ見ずの事を爲し、跡にて後悔することが度々ある、それ故初年中年は大程自ら求めし苦勞である、宜しく此癖を改め實直に業務を取る樣努めねば晩年の安樂は得られない

**十二月生れ** は吝嗇にして慾心深く、經濟思想には富むも至つて陽氣の事を好み時々散財する事が多い初年の末より中年の初めは酒色の爲に度々福運を取逃して辛勞多きも中年の中頃より心を改めよくその行ひを愼しむときは晩年には至つて安樂である。

## ●子年の人生れ日の運勢

**子の日生れ** は外見は陽氣にて派手好きなれど內心は至つて吝嗇なれば親戚朋友の爲にも兎角金錢を出し惜み愚痴の多き質である、又目上の忠言を用ひず自分一量見にて時々身分不相應の事を爲しては意外の失敗を招くことがある、親兄弟の緣もうすく初年中年には他國に出でゝ苦勞する事が多い。

**丑の日生れ** は心正直堅固にして所謂石橋を叩ひて渡る質にて、日夜よく稼ぎ萬事注意深き故大なる失敗は少ない、然し卑客の心ある故人との交際上圓滿を缺くことあつて煩悶が多い、初年の末より中年の初めは運氣盛んにて目上の引立がある、晩年は運氣滯る恐れあれば、よく〳〵注意するがよい。

**寅の日生れ** は慾心深く常に大なることを好み相場や賭事に手を出して思はぬ失敗を招くことがある、又外見を張りて身分不相應の交際を爲し後にて後悔することがある、成べく心を締めて手堅く業務を取り追々に禍德を得る考をなさねば初年は運氣よろしきも中年より晩年に至たり辛勞多くなる。

**卯の日生れ** は怜悧にして人付合ひまことによろしく目上の引立もある、衣服よりは食物に奢り、物事遣り放しにする癖あれば失敗が多い、人望は相應にあるも卑しき行ひあれば人の輕蔑を受け易い故氣を付けるがよい、中年は住所や業務の心勞多きも晩年に至る程至極安樂にして幸福である。

**辰の日生れ** は剛慢にして偏屈なれば人望は乏しきも性來勤勉の質故手堅き營業を爲し愛敬よく人と交際する樣心掛けるがよい、中年は辛勞多く住所も屢替ることあるもよく自己の缺點に注意して努むれば老年は中年の勤勞によりて安樂の生涯を送る事が出來る併し運勢は下運なれば、よく〳〵愼むがよい。

**巳の日生れ** は溫順にして萬事に親切なれど、中年は運勢に波瀾多く住所、營業なども自然に屢替ることになる、斯る天禀の運勢故營業なども餘り大事を企てず小より積で大に至る方針を取るが反つて幸福を得るのである、中年は心苦身勞多きも屈せず撓まずよく勵みて晩年の幸福を計るがよい。

**午の日生れ** は無口にて靜かな事を好みながら、反つて山がゝる事を爲しては失敗し兎角金錢の保ち難

賣屢々替り人には愛せられるも損失多き故獨立して商業か工業を營むがよい、官吏、會社員等は餘り面白くないが宗教家、教育家等になると出世する。

**八月生れ** は移り氣にして、永く一定の業に從事なし兼る樣な質である、然し利を見るに敏けれど、人より狡猾と思はれて人望至つて薄く、それが爲に初年、中年は辛勞多く業務、住所等屢々替ることあるも晩年には氣質も替り大に福德を得て安樂である。

**九月生れ** は至つて怜悧なれば人付合ひ宜しきも利己主義の行ひありて人望を失ふことが多い、それが爲に中年は殊に心勞が多く運勢發展なし難ければ官吏、會社員の如きことは性に適せない、文學或は工業家を志さば中年の辛勞は反つて晩年に至り幸福となる

**十月生れ** は物事輕卒にして氣移り多く卑吝の行ひ多ければ人望に乏しきが缺點である、然れば獨立して事を爲すとも人の補助少なく餘り好運は得られない、寧ろ會社、又は官省に勤めるか或は良き主人に從つて實直に勤めなば反つて福運を得るのである。

**十一月生れ** は剛情氣儘にして自負心强く兎角人と爭ふ癖あれば、時には前後の考えなく向ふ見ずの事を爲し、跡にて後悔することが度々ある、それ故初年中年は大程自ら求めし苦勞である、宜しく此癖を改め實直に業務を取る樣努めねば晩年の安樂は得られない

**十二月生れ** は吝嗇にして慾心深く、經濟思想には富むも至つて陽氣の事を好み時々散財する事が多い初年の末より中年の初めは酒色の爲に度々福運を取逃して辛勞多きも中年の中頃より心を改めよくその行ひを慎しむときは晩年には至つて安樂である。

## ●子年の人生れ日の運勢

**子の日生れ** は外見は陽氣にて派手好きなれど內心は至つて吝嗇なれば親戚朋友の爲にも兎角金錢を出し惜み愚痴の多き質である、又目上の忠言を用ひず自分一量見にて時々身分不相應の事を爲しては意外の失敗を招くことがある、親兄弟の緣もうすく初年中年には他國に出でゝ苦勞する事が多い。

**丑の日生れ** は心正直堅固にして所謂石橋を叩ひて渡る質にて、日夜よく稼ぎ萬事注意深き故大なる失敗は少ない、然し卑吝の心ある故人との交際上圓滿を缺くことあつて煩悶が多い、初年の末より中年の初めは運氣盛んにて目上の引立がある、晩年は運氣滯る恐れあれば、よく〳〵注意するがよい。

**寅の日生れ** は慾心深く常に大なることを好み相場や賭事に手を出して思はぬ失敗を招くことがある、又外見を張りて身分不相應の交際を爲し後にて後悔することがある、成べく心を締めて手堅く業務を取り追〳〵に禍德を得る考をなさねば初年は運氣よろしきも中年より晩年に至たり辛勞多くなる。

**卯の日生れ** は怜悧にして人付合ひまことによろしく目上の引立もある、衣服よりは食物に奢り、物事遣り放しにする癖あれば失敗が多い、人望は相應にあるも卑しき行ひあれば人の輕蔑を受け易い故氣を付けるがよい、中年は住所や業務の心勞多きも晩年に至る程至極安樂にして幸福である。

**辰の日生れ** は剛慢にして偏屈なれば人望は乏しきも性來勤勉の質故手堅き營業を爲し愛敬よく人と交際する樣心掛けるがよい、中年は辛勞多く住所も屢〻替ることあるもよく自己の缺點に注意して努むれば老年は中年の勤勞によりて安樂の生涯を送る事が出來る併し運勢は下運なれば、よく〳〵慎むがよい。

**巳の日生れ** は溫順にして萬事に親切なれど、中年は運勢に波瀾多く住所、營業なども自然に屢〻替ることになる、斯る天禀の運勢故營業なども餘り大事を企てず小より積で大に至る方針を取るが反つて幸福を得るのである、中年は心苦身勞多きも屈せず撓まずよく勵みて晩年の幸福を計るがよい。

**午の日生れ** は無口にて靜かな事を好みながら、反つて山がゝる事を爲しては失敗し兎角金錢の保ち難

き質である、又物に厭き易く迷氣が多い故業務もたびたび替え、親兄弟の縁もうすく、殊に中年に至り殊の外心勞あれば餘程勤勉せざれば晩年の安樂は得難い。

**未の日生れ** は至つて偏屈に因循なれば常に金錢を大切にする故大なる失敗は稀れである、そのくせ住所、營業に付いては常に辛勞絶えず、人交際あしきゆへ人望も至つて薄い、斯る質故官吏會社員等は餘り適せない、宜しく、つとめて愛敬よく世辭上手に世渡りをする樣努めねば運勢の發展は出來ない。

**申の日生れ** は恰悧なればよく人の氣を計り、又物の理非得失を早く知る故動もすれば狡猾の所業が多い、また物に厭き易く住所や職業なども屢替えたがる癖がある、然し辯才ありて人との交際も巧みなれば、幾度か困難に陷ることあるもよく其困難を切拔け老年に至り中年の辛苦を昔語りにすることもある。

**酉の日生れ** は取越苦勞多く何事を爲すにも前に彼是と利害、得失を考る事が長い故折角の好機を取逃すことが多い、此生れの人は他人に使はるゝより獨立して營業なす方が早く立身成功する中年は住所業務に就て兎角煩悶苦勞多きも老年は子供の爲、安樂を得る

**戌の日生れ** は輕卒にしてあまり先を考えず、何事も安請合に引受け後日に至り後悔することが多い、又手前勝手の行爲多きが故に、親兄弟の間も圓滿を缺くことがある、然し物事辛捧强く堅忍の心厚ければ、常に謙遜の態度を以て長者の言に隨へば萬事成就する。

**亥の日生れ** は我儘の振舞多く事の理非に關らず人の忠言は用ひない、自分の思ひ込むだることは前後の考えもなく、向ふ見ずになす故、時に意外な成功を收むるも多くは失敗勝である、然し性來勤勉の質なれば、よく自分の缺點を自覺して反省すれば成功する。

然し同じ子年にても甲子、丙子、戊子、庚子、壬子の別あり、又一白、四綠、七赤の差ひありて其干支九星の配合により多少の差異あれば、一代の寶開運の秘書（定價金三十錢）に就て詳細に知らるゝがよい。

## ●丑年生れ一代の運氣

●丑年生れの人は落付ありて堪忍力强き故、一端斯ふと思ひ込むだことは何處迄もやり遂げる勇氣がある、それ故些少の困難に遭遇するとも屈せずに爲せば大抵のことは成功するも心偏屈にして人の交際に好き嫌ひ多き故、他國に出づるか生れし家を離れて立身する人が多い、物事は隨分堪忍して事を爲す樣なれども業務經營少しく困難になるとデリ兄弟や目上と何んの相談もなく一了簡にて不意に其事を廢して他の事に移り折角の運を取損ふことがある、されば初年に於ても三歲か五歲頃病氣あり又六歲頃他より養子に望まるゝことがある、七八歲にして大病か怪我することがある、十三四歲の頃良運來る、又十八歲にして意外の利益あるも、十九歲、二十歲頃病災あるか不意の災厄あれば能く〳〵氣を付るがよい、二十一二歲は至極よき年廻りである、然らざれば廿四五歲にして良運が來ることもある、三十一二歲頃は運氣大に沈むことあれば萬事注意するがよい、又三十三四歲にして良運來りて大利益を得る事がある、四十一二歲は平穩なれども、四十三四歲頃は病災或は事業の損失を注意するがよい、四十五六歲は良運の年廻り故宜しく終身の計を立てゝ晩年の幸福を計るべきである、又人により四十九歲五十歲頃に良運の來ることもあれど斯る人は稀れである何れにしても一事一業を怠らず辛抱し、自己の惡癖を矯めれば老年は幸福、安寧を得、人の羨む程の身分となるのである、此年の生れは一生を通じ女難と劍難を氣を付けるがよい、此年と同じ天禀の性を享たる名士は大久保利通、伊藤博文、坂本彌一郎、長谷川泰等は皆此丑年生れの人である、宜しく此等の人に倣ひて奮

勵努力するは勿論、なほ一代の守本尊は虚空藏菩薩なれば朝夕信心して好機良運を捕え立身成功を得らるる樣なさるがよい。

毎月十三日には供物を供へて熱心に信仰せらるゝがよい此日鰻を食すべからず

## ●丑年三碧生れの相性と職業

●子酉の一白四綠は大吉、卯午の四綠一白は賢子生る子卯午酉の七赤は大凶、戌未丑辰の六白大凶にて家内に口舌絶ず、丑戌未の九紫三碧は凶、辰の三碧九紫は子孫に災がある、寅申巳亥の二黑五黃八白は凶にして十年の内に一力が欠ける。

職業　軍人、僧侶、農業、銀行員、蕎麥屋、紺屋、呉服屋、保險會社員、文學者、神官、水菓子屋等がよい

## ●丑年六白生れの相性と職業

●子酉の一白七赤、巳の二黑五黃八白は大吉にして夫婦間睦しく子孫が多い、卯午の七赤一白寅申亥の二黑五黃八白は吉、子酉の四綠、卯午の四綠は凶、丑戌未の六白は大凶にて死別する、辰の六白は小吉、丑辰未戌の九紫三碧は大凶にして十年を出ですして其綠變る

職業　軍人、五十集商、料理屋、燒芋屋、菓子屋、米屋、農業、株式取引店、銀行會社員、青物屋など吉。

## ●丑年九紫生れの相性と職業

●子酉の四綠巳の二黑五黃八白は大吉にして子孫繁榮す寅申亥の二黑八白午卯の四綠は夫婦仲睦しい子酉卯午の七赤一白は凶、丑未戌の三碧九紫は十年の内に一方缺ける、辰の九紫丑戌未辰の六白は家内に爭論が絶えない、然し辰の三碧は小吉である。

職業　材木商、大工木挽業、書畫家、呉服屋、農業、銀行會社員、僧侶、神官、料理屋、外交官など吉なり

●往古より三世相と云ふ本がありますが、これは過去、現在、未來の三世に渉る因果說より各人の運命を說いたもので吾等の祖父祖母の時代には民俗信仰書として一般家庭に愛讀せられたものです、イヤ現今でも地方によりてはなほ此書を信仰して愛讀せらるゝ人々も相當にあります、此三世相は僧侶の手になつたもので現代から考へると荒誕な妄說と考へらるゝ節も多々ありますが、それは例の佛者の方便說として意に介せず、其內容に就て仔細に驗べますと是又成程と頷かれるところもあれば玆に採錄して皆さんの參考といたします。

●丑の年に生るゝ人は一代の守本尊虚空藏菩薩なり、此人前生にては赤帝の御子にて、北斗の巨門星より米一石五斗金子六貫目を受けて今世に生れたるが故に、性質片意地のところあるも萬事に敏く細工ごとに器用なり、平常は言語尠きも氣の向きたるときは辨舌爽かに應對なども平常とは別人の如き態度を爲すことあれば交際上氣を付けるがよい。

又前生にては出家なりしが破戒を爲して鷄を取り喰ひたるが故に、其報ゐにて子に緣薄く且つ育ち難しなほ常夜燈の燈明を吹消したるが故に、眼を疾ふか或は手足の病ひにて惱むことあらん、常に慈善を旨とし善根を施すときは自づから神佛の加護ありて晩年は仕合せよろしかるべし。

又丑年生れの人の夫婦緣は初緣は保たず、再三の緣にておさまる、子供は三人か六人あるも夭折するものあり、老後の力となるは唯一人なり、初年良き運の人は中年困苦することあらんも晩年は仕合せよき人多し、又父母に孝心厚き人は目上貴人の引立ありて衣食に不自由することなし、性來忍耐力强く、靜かなるところに住居するを好む質なり。

釋迦如來は壽命を守り、普賢菩薩は福德を與へ、文殊菩薩は智惠を授け給ふが故に、一代の守本尊と共によく〳〵信心爲して開運を計るべし。

# ●丑年の人生れ月の運勢

**一月生れ**　は心正直なれども、至つて偏屈にして理屈を言ふ癖あれば親兄弟にも縁が薄い、兎角引込思案にて派手な事を厭ひて地味なることを好み氣鬱の病ひを發し易い、斯る質故商ひなども質直に手堅き商賣が適して居る故餘り投機的冒險的の事はせぬがよい

**二月生れ**　は舉動活潑にして勇氣を含み、何事もぐず〳〵したることを嫌ふ質故投機的の事を好むもこれは失敗の基なれば見合すがよい、些細の事にも怒り易く長上に逆ふ爲に運勢發展上支障多ければよく注意して短氣を慎み長上の意に隨ひて事を爲すがよい、

**三月生れ**　は緩慢にして至つて氣長く物事投遣りになす爲時機を失ひ、折角の良運を逃すことがある然し愛敬よく世才ある故、獨立して事を爲すよりはよき長上に隨身すれば相應の立身成功は得られる、されど我儘を慎しまねば人に嫌れ失脚する故注意なさい。

**四月生れ**　は運勢は下運である、性質はあまり活潑過ぎて亂暴の傾あり、前後を顧みず理非に構はず只進むことをのみ好んで、猪突的の行爲を爲し意外の失敗を招くことがある、自己の福運薄きを自覺し、平常に人と口論喧嘩を爲さず、勤めて業務を勵むがよい

**五月生れ**　は派手なることを好むも、卑屈姑息の行ひが多い故、發達することが遲い、又分別を爲し過ぎて時機を失ふことが多い、なほ猜疑心深い爲に、夫婦又は友人の間に口舌爭論することあれば運勢も初年は吉運なれども、反つて中年晩年に心勞が多い。

**六月生れ**　は陽氣にして派手好なれば金錢はよく入るも、出ることも亦た多い、常に大言壯語すれど言責を重ぜず、且つ小利に汲々せざる割合に大利を獲得することも少ない、色情深き故難儀することがあるよく人の面倒は見るも多くは椽の下の力持ちとなる。

**七月生れ**　は正直堅固にして苦勞性なれば平常多く家に閉ぢ籠り詰らぬ取越苦勞を爲すことが多い、然し元來考へ深き質なれば教育ある人には稀れに大なる發明を爲す人も多い、又内氣ゆゑ人との交際餘り圓滿ならずそれが爲に運勢を取り損ふことがある。

**八月生れ**　は氣短かにして怒り易いが然し正直の質ゆゑ、其怒りの解くることも亦早い、物の理非を知る智慧はあるも之を應用することは下手である、又輕々しく人の言を信じて失敗することもある、初年、中年共に苦勞多く老年に至るも常に煩悶が絶えない。

**九月生れ**　は偏屈なれども至つて正直にして、且つ才智藝能を有しあれこれと數々爲したがる癖あるも、氣移り多くして一つも纏まりたることがない、初年、中年の頃に目上の引立を得て立身することあるも自ら身を退き獨立して反つて苦勞困難するものが多い

**十月生れ**　は何事にも不平を云ひ僅かの事にも怒り易きため交際上圓滿を缺き夫が爲に運勢發展上支障が多い、宜しく平常心を快活にして怒氣を去り交際を擴くして、開運を計るがよい、然らば幼年、中年は困難多きも老年は反つて安樂に餘生を送れる。

**十一月生れ**　は方正にして俗に云ふ生丁面の人故僅かの事にも人と爭ひ交際上兎角圓滿を缺くことが多い、又小なる利害には彼是氣を揉みながら、反つて大利を見逃し、それが爲に度々好運を取逃し、中年の盛運も晩年は悲運に陷る故よく〳〵注意するがよい。

**十二月生れ**　は人との交際もまことに柔和ゆえ、人望も相應にありて思はぬ人の助けを得ることあるも俗に云ふ爪で拾ふて箕でこぼす譬の如く投機事業などに手を出して意外の失敗を招くことある故、小を積んで大に至る考を爲せば晩年大に安樂である。

# ●丑年の人生れ日の運勢

**子の日生れ**　は正直にして何事も手堅く、日夜よく稼ぎ、萬事に注意深き故失敗は少ない、然し慾深き性なれば、出すべき事にも金錢を出し吝みする故世間の評判惡しく折角の運勢を取損ひ又他人との交際に圓

満をかく場合が多い、よろしく氣を付けて衆人の信用を得る樣努めねば到底運勢の開發は得られない。

**丑の日生れ**　は偏屈にして人に損を掛けられても其人の前にては、充分に意見を言ふことも出來ず、又涙脆い性にて憐な話を聞たゞけでも直ぐ涙ぐむ程なれば心の良くないものに度々欺かれて損失することあれば常に心を快濶に持ち行動を敏速になす樣心掛くれば中年より次第に運氣大いに開ける。

**寅の日生れ**　は物に激し易く且つ人を見下す風ある爲め兎角世間の評判はよくない、投機事業、請負事業などは適業ではあるが長上と爭ふ氣ある故失敗することが多い官吏會社員其他勤め人となつても此爭ふ氣が出世の妨げとなる故よろしく怒りを愼み目上の引立を受け立身成功を計るがよい。

**卯の日生れ**　は物事緩慢にして氣永く、事を遣り放しに爲す癖がある、福運も人望も相應にあるが兎角氣儘勝にて、一つの事に永く辛抱が出來ず、自分で自分の良運を取り損ふ如き行爲が多い、それが爲に初年中年は諸所流浪することあらん、然し自分の心掛け次第にては老年に至り安樂を得られるのである。

**辰の日生れ**　は活潑にして勇氣はあるが、間々粗暴の行ひありて人に嫌はるゝことが多い、時によりては刑罰に觸れることがある、又理非を構はず進むことのみ知りて尻ぬけの行ひあれば努力の割に成功を見ることが少ない、よく注意して其惡癖を改むれば人の羨望ほどの身分となることが出來る。

**巳の日生れ**　は溫順にして至つて派手好きである人交際もまことに圓滑であるが、好嫌ひをなしてそれが爲に人に惡まるゝことがある、男女とも色情の爲に身を過つことが多い故注意が肝要である、中年は殊の外心勞多いが老年仕合せよく餘生を送ることが出來る

**午の日生れ**　は至つて陽氣にして賑かなることを好み、人付合もよく福運もあるが常に大言を吐き、其實半分も實行したることなき爲め、遂に人の信用を落し思はぬ失敗を招くことがある故氣を付けるがよい、中年は住所の苦勞多く、且つ一生を通じて女難或は火難を注意するがよい。

**未の日生れ**　は至つて物堅く、正直ではあるが、不活潑にして因循なる爲萬事取越し苦勞が多く常に心勞が絶えない、何事にも着手するに遲い爲め人に先鞭を着けられ後悔することが多い斯る質故初年より中年へかけ運勢至つて振はず辛勞多きも中年の末より晩年に至り至極幸福である。

**申の日生れ**　は短慮にして少しの事にも怒りを發し、前後の考へもなく振舞ひては自分も後に悔ゆることあるも、性來腹に惡氣はない故、其割合に人より憎まれることは少ないが、それが爲に良運を取り損ふことは屢ある、初年中年は浮沈多く心に煩悶が絶ない。

**酉の日生れ**　は機敏にして才智ある故、思慮分別に富み、參謀官や會社などの支配人頭取となりて名聲を揚げる人もある、又手先きの事も器用なれば美術家などにも適するが、社會に名聲の揚がる割合に福運薄き故初年中年は殊に辛勞が多い、然し心正直なれば老年は割合に安樂である。

**戌の日生れ**　は偏屈にして堅意地なれば親兄弟とも疎遠となり、薄運に嘆くことが多い、宜しく自己の缺點を自覺して平常心を快活に持ち　陽氣に人と交際し、親戚身寄にも親切なれば、自ら幸運來り晩年の幸福は中年の心掛け次第にて得られる。

**亥の日生れ**　は正直一途にして一徹の嫌ひあるも他人の世話事などは骨身を惜まず親切になせば、相應に世間の評判は良い、然し腹立ち易き質にて些細の事にも人と爭ふ故味方と思ひし人が案外敵となることありて、折角の幸運を傷くることあれば注意するがよい

然し同じ丑年にても乙丑、丁丑、己丑、辛丑、癸丑の別あり、又三碧、六白、九紫の差ひありて其干支九星の配合により多少の差異あれば一代の實開運の秘書（定價三十錢）に就て詳細に知らるゝがよい。

# ●寅年生れ一代の運氣

●寅年生れの人に至つて向上心強く隨分思ひ切つたことを爲す故間々意外な大成功を爲すも、それを堅く守ると云ふことが出來ない故兎角運勢に波瀾が多い、又人の爲に兎角損害を受け易い、初年の頃は運勢盛んであるが、七八歳の頃怪我大病あるか、或は十二三歳の頃目上に愛せられ其引立てを受くることあらん、人によりては十八九歳にして以外の出世を爲す人もある、又二十歳前後大に氣を付けざれば運氣に障りあらん、二十五六歳にして大利を得るか、然らざれば三十三四歳頃好運外ることあり、四十三四歳は一生の中最も注意を要する年廻りなれば、輕擧して大失敗を招かぬ樣氣を付るがよい、もし何事もなければ四十五六歳にして一大良運來ることあれば、此時に宜しく心を締めて後年の計を立てねばならぬ、又中年以後は成べく年少の者を憐み引立て能く統御すれば、皆己の用を爲し多くの部下を統御して永く威望を保つことが出來る、然るに老年に至るも尙ほ强情我慢の氣失せずして、年少青年の者を侮り見下し人望を失ふ時は、それが爲に自分の福運を損し、晩年反つて意外の困窮を招くことがある宜しく剛情一克の氣を改め捨て、愛敬よく衆人に交り人德を得て晩年の幸福を計るがよい、此年の人は生涯火難女難を注意すべきである、彼の有名なる大山巖、長谷場純孝、星野錫、床次竹次郎、大石正巳、穗積陳重氏等皆寅年の生れにして其天稟の美質を發揮して、彼の如き成功を爲したのである、されば此年の人も、奮勵努力して好機良運を捕え、且つ一代の守り本尊たる虛空藏菩薩を尊崇なし朝夕祈願なすときは、必ず開運成功すべきである。

毎月十三日には供物を備えて熱心に信仰せらるゝがよい此日鰻を食すべからず。

## ●寅年二黑生れの相性と職業

●戌の九紫、六白、午の七赤は大吉なれば賢子生る、丑、辰、未の九紫、六白、子、卯、酉の七赤も吉にして家業繁榮す、戌の三碧、午の四綠、一白は凶である子、卯、酉の一白、四綠は大凶にして子孫斷絕す、巳申の二黑、五黃、八白、丑、辰、未の三碧も亦大凶である、又亥、寅の二黑、五黃、八白は口舌絕えぬ。

職業　軍人、銀行會社員、僧侶、醫師、石炭商、文學者、理學者、土工夫、農業、食料商など成功する。

## ●寅年五黃生れの相性と職業

●巳、申の二黑、五黃、八白は大凶、亥、寅の二黑、五寅、八白は吉なれども近親に行衛不明か又變死のものが出來る、辰、丑、未の三碧は大凶、子、卯、午、酉の一白、四綠、戌の三碧も亦凶、丑、辰、未の九紫六白、子、卯、酉の七赤は吉、戌の九紫、六白、午の七赤は大吉にて家內和睦す。

職業　軍人、棟梁、質屋、金貸業、銀行役員、職工長鑛山師、農業、法律家、裁判官、警察官等吉。

## ●寅年八白生れの相性と職業

●丑、辰、未の九紫、六白、子、卯、酉の七赤は夫婦仲よろしく子孫多く大吉である、戌の六白、九紫、午の七赤は妻の助けによりて家業繁昌す、戌の三碧、子卯、酉、午の一白、四綠は凶、丑、辰、未の三碧、巳申の二黑、五黃、八白は大凶にして不具者生れる、亥、寅の二黑、五黃、八白は吉。

職業　米相場仲買人、農業、軍人、主計官、鍛冶職、鑛山師、陶器商、左官職、神官、僧侶、辯護士最も吉

●往古より三世相と云ふ本がありますが、これは過去、現在、未來の三世に渉る因果說より各人の運命を說いたもので吾等の祖父祖母の時代には民俗信仰書として一般家庭に愛讀せられたものです、イヤ現今でも地方によりてはなほ此書を信仰して愛讀せらるゝ人々も相當にあります、此三世相は僧侶の手になつたもので現代から考へると荒誕な妄說と考へらるゝ節も多々ありますが、それは例の佛者の方便說として意に介せず、其內容に就て仔細に驗べますと是又成程と頷かれるところもあれば玆に採錄して皆さんの參考といたします。

●寅の年に生るゝ人は、一代の守本尊虛空藏菩薩なり此人前生にては靑帝の御子にて北斗の祿存星より米二石金子六貫目を受け得て今世に生れたるが故に、中年以後仕合せよく金錢財寶にも相當緣あるべし、然し前生にて殺生を好み、多くの鳥獸を殺したる報ゐにて今世に生れ來ては不時の災難多く、運勢も浮沈み多くして夫婦の緣は替り易し、それ故初緣にて治まる人尠し若し夫婦の緣が初緣にて保つときは子供との緣薄かるべし、多くは養子にかゝることとなるなり、是れ前生殺生の報ゐなれば、平常神佛に祈願して子孫の緣厚き樣其加護を祈らるべし。

又此人前世にて神佛を敬ひ崇び、首をくゝらんとする人を助けたる善根によりて、今世に生れては天帝より福德を授かり、甚しき困窮に陷ゐりても救ひ上げらるゝことあるべし、又學問を好む人は聰明にして高位高官に昇るか又は世間に名を揚ぐるなり、手先き器用なるなれば書家美術家となりて名聲を博する人もあるなり、又大なることを好む故商工業者は浮沈多きも、常に細心の注意を怠らざれば人に重ぜられて一生衣食に不自由することはあらざるべし。

毘沙門天は壽命を守り、大日如來は福德を與へ、不動明王は智惠を授け給ふが故に、一代の守本尊と共に深く信心なして開運する樣心懸けらるべし。

# ●寅年の人生れ月の運勢

**一月生れ**は正直なれど高慢の氣風ある故、人附合ひが餘り宜しくない、且つ事を爲すにも大事を取り過ぎ好機を逸することあれば初年より中年の頃に折角の良運を取り損ひ晩年困窮することあれば大抵の事は勇往猛進して時機を失はない樣注意するがよい。

**二月生れ**は氣早にて悤圖々々したることを嫌ひ、大なる事を企つるも、細事に注意を缺き他人の妨げなどありて失敗に終ることが多い、なるべく愛敬よく人と交際し、物事實直に細かな事にも注意すれば次第に運氣開け、老年に至り安樂を得られる。

**三月生れ**は愛嬌ありて人附合ひもよく萬事器用に世渡りを爲すも、至つて物に厭き易く、住所や職業を度々替ることがある、又色情に付き煩悶苦勞が多い、斯る性質なればよく自己の缺點に氣を附けるときは老年は意外の幸福を得られる。

**四月生れ**は强情我慢の心强く、兎角人と言ひ爭ふ爲に人望を失ひ交際上圓滿を缺く事が多い又前へ進むことのみ考えて、守ることを怠たり、意外の失敗を招くことがある、それ故中年運勢盛んなるも、注意せざれば老年困窮することがある。

**五月生れ**は福分も相當にありて人附合ひよろしきも、兎角外見を飾り心にもなき僞りを云ふことがある、然し親切心ある故自から人に立てられ其頭となり意外の出世をする人もある、されど中年は至つて辛勞多けれども老年に至る程意外の幸福を得られる。

**六月生れ**は正直にして愛敬あり交際も上手なれど兎角高慢にしてよく人の缺點を云ふ癖あれば、それが爲に人望を損ずることが多い、中年の頃一時良運來ることあるも女難火難ありて、煩悶懊惱して精神病腦病等に罹ることあれば平常注意が肝要である。

**七月生れ**は片意地にして人の言を用ひず氣位高く附合惡き質である、それゆへ親しき友達も至つて

少く、陰鬱症に罹り易い、又一つの業に永く從事することなきか、或は一定の住所にも永く住居せず、身分に變遷多き故中年の運勢は餘り宜しくない。

**八月生れ**　は世才に長け寛裕に見ゆるも、内心猜疑心深く、兎角事を人に任せがたき質故人の長となることは出來ない、又一時の癇癪にまかせ人情に悖ることをなし後にて悔ることがある、又物事倦易きため中年は業を度々取替え自分から不運を招くことがある

**九月生れ**　は才智ありて、あれこれと氣の廻る質ゆへ、本業以外の事に手を出して失敗困難に陷ることがある、福運は相應にあるも人の爲に損すること多く、又謀計を好む質ゆへ奸計を施して利を得んとし、反つて自己の幸運を損ずることあれば注意するがよい

**十月生れ**　は我儘にして思慮淺き故目先の慾のみ深くして遠き慮りなき故、些細の事にも人と爭ひては自分の發達を妨げ良運を取損ふことがある、よく〳〵氣を付るがよい中年には何歟と苦勞煩悶多く、精神錯亂するものもある、老年の運勢も餘り宜しくない

**十一月生れ**　は正直なれども、氣短かにして腹立易く、又物事思ひ立つ時は前後の考へなく始める故氣の焦る割合に萬事が成就しない又目上の引立もありて立身すれども人との交際上圓滿を缺くことが多い、宜しく注意して人に憎まれざる樣なすがよい。

**十二月生れ**　は正直なれども至つて卑吝の行ひあるため、人より疎んぜらるゝことがある、兎角大なる事を好めども、之を決行する勇氣に乏しい故投機的の事は爲ぬがよい、小を積むで大に爲す樣心掛けなば中年は心勞多けれども晩年の運勢は必ず盛んである。

## ●寅年の人生れ日の運勢

**子の日生れ**　は心正直なれども卑吝の行ひがある爲、人に爪彈きさるゝことがある前後の考ひもなく大慾を出して相場其他の投機的の事に手を出し意外の失敗を招くことがある、又女難を慎まざれば初年の末より中年までは辛勞多く氣の安まる時が少ない、然し老年は運氣大ひに開け至つて安樂である。

**丑の日生れ**　は偏屈にして何事を爲すにも大事を取り過ぎ、それが爲に時期を失ふか又は忍耐力足らずして仕掛けた事も中途にて廢す故成功を見ることが少ない、始終愚痴を云ふ癖あれば知己朋友にも厭きられる、初年より中年は福運薄き故住居營業も、よく變りて心勞多きも老年に至り少しは安樂を得られる。

**寅の日生れ**　は平常粗暴の行ひ多く短氣にしてよく人と喧嘩爭論を爲し、常に大なることを好み、投機事業に手を出し、屢大利を得ることもある又他人の爲に目上に逆ひ或は人と爭論することがある、上流の人は格別、中流以下は福運薄きゆへ、務めて愛敬よく人と交際し、人望を得る樣心掛るがよい。

**卯の日生れ**　は至つて愛敬よく人望もあり交際も廣ければ自然人にも尊敬せられ相應に福運あれど氣儘の行ひ多く且つ忍耐力に乏しき故折角の運氣を取損ひ中年の頃住所業務屢替り辛勞煩悶が多い、然し自らその缺點に注意すれば晩年の運勢は大層盛大となる。

**辰の日生れ**　は剛情にして我儘の振舞多く、兎角人と爭ひ又目上に逆ひ僅かの事にも腹立ちて人に厭はるゝことが多い、宜しく注意して諸事謙遜に愛敬よく人附合ひに氣を付くれば運氣次第に開け、中年以後大ひに幸運である、もしも之に反するときは晩年に至るもなほ困窮することがある。

**巳の日生れ**　は才智ありて人附合よく、世辭愛敬あれば目上の信用を得て相當の地位に登るも、人を好き嫌ひして親友間の評判が惡い、又人の缺點を彼是言ひたがる癖がある故共同事業などは中途にて挫折して親友とも疎遠になり、それが爲に中年の良運を取損ふことがあるゆゑ注意するがよい。

**午の日生れ**　は陽氣にして交際も巧みであるが、兎角氣儘にして自慢を云ふ癖あれば他人の憎しみを受くることがある、又好んで大事を企つるも其爲すことは

尻拔けにて何時も失敗多く、折角の福運を損するのである、宜しく注意して萬事正直に控え目に爲し晩年の幸福を亨くるように心掛けるがよい。

**未の日生れ** は氣位ゐのみ高くして人の事を彼是批評し、なほ世辭愛敬に乏しき故それが爲に人望は至つて薄い、初年より中年へかけ、住居や業務につき心勞多く、運勢餘り宜しくない、然し性質正直の質ゆへ心掛次第にて晩年の安樂を得らるゝ故、他人の親愛を受ける樣努めるがよい。

**申の日生れ** は至つて快濶に交際も上手にて小才も廻り、他人の事にもよく奔走世話するも兎角厭易く中途にて氣乘りせざる爲、先方にはさほどに思はれず至つて損の質である、中年には住居業務に就いて心勞多きも、晩年は子孫の爲に安樂の地位を得られる。

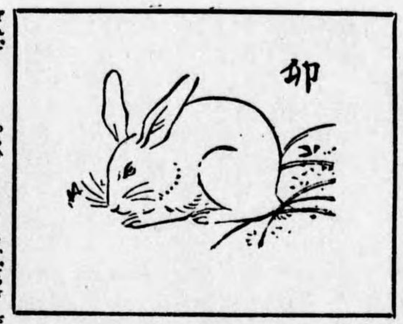
**酉の日生れ** は至つて柔和に、世才もあればよく人より信用せられて重く用ひらるゝことあるも、心中常に不滿を抱き自分より身を退きては困窮の地位に陷るものが多い、又本業以外の事に手を出し失敗することがある、又女難を慎むがよい中年は辛勞多きも晩年に至らば運氣甚だよろしく人の羨む程の身分となる。

**戌の日生れ** は思慮淺く氣短かにして、我儘なればよく人と口論喧嘩を爲し、人望を失ふことが多い、又慾心深くして柄になき投機的の事に手を出し失敗することもある、元來が福運薄き生れ故、よく自己の業務を守り勤勉なる時は晩年良運の時期が來るのである

**亥の日生れ** は至つて正直にして萬事實直に働く故よく目上の引立あるも些細のことに腹立易く前後の考えなく早急になし後にて悔ゆることが多い、小利に汲々たる爲、親密の交際ある友人とも金錢上より不和になることあれば宜しく注意するがよい。

然し同じ寅年にても甲寅、丙寅、戊寅、庚寅、壬寅の別あり、又二黑、五黃、八白の差ひありて其十支九星の配合により多少の差異あれば一代の寶開運の秘書（定價三十錢）に就て詳細に知らるゝがよい。

# ●卯年生れ一代の運氣




●卯年生れの人は世辭愛嬌ありて交際に巧みなる故、他人の愛顧信用を得て意外なる立身成功することあるも、兎角氣儘勝にて思慮決斷の鈍き爲に失敗することあれば注意するがよい、初年の頃は運氣宜しきも十歲前後か、或は十三歲頃怪我又は病氣に罹ることがある十五六歲頃目上に愛せられ、年の割合に早く出世することもある、又二十歲頃にして意外の利益を得るか、或は故郷を離れ遠國に至るものもある、二十二三歲頃酒色の爲に身を過るか、或は病氣災難がある故宜しく注意するがよい、又中年にしては三十二三歲頃か三十五六歲頃は運勢盛大なれども兎角移り氣なれば折角の良運を取損ふことが多い是又注意肝要である、四十一二歲の頃一寸運勢沈滯するも、四十四歲か或は四十七八歲の頃、復良運の來ることもあらん、宜しく此時に晩年の計を爲し、老後の安樂の基礎を造る樣心掛くるがよい、又婦人なども兎角氣儘の爲、良緣を捨てゝ再三緣の替る人もある、しかし心は至つて正直故、人にも好かれ目上にも好かれ引立られて、度々良い機會に遇ふことあれば、一時困難の事あるとも少しく辛抱をするときは漸次に調子好く良運に向ふのである、それ故常に注意して天授の福運を取損はざるようなすがよい、彼の有名なる伊東祐亨、一木喜德郎、神尾光臣、犬養毅、頭山滿、幸田露伴氏などは皆この卯年の生れにして、其天稟の美質をよく發揮して、彼の如き成功を爲し得たのである、されば此年の人は宜しく奮勵努力して、好機良運を捕え、且つ一代の守本尊なる文球菩薩を尊崇し、信心を堅固にして開運成功を祈ることに朝夕努むべきである。

毎月廿五日には供物を備えて熱心に信仰せらるゝがよい此日蓼を食すべからず

## ●卯年一白生れの相性と職業

●戌、未の六白、三碧は大吉なれば業務盛大にして子孫繁昌す、丑、辰の六白、三碧は吉、丑、辰、未、戌の九紫は大凶、子、酉、卯、午の一白は大凶にして家内に口舌が絶えぬ、子、午、卯、酉の四緑、七赤は凶寅、申、巳、亥の二黒、五黄、八白は家内に心配苦勞が絶ぬ故見合すがよい。

職業　神官、僧侶、醫師、藝人、材木商、書籍商、呉服屋、唐物屋、帽子屋、洋服屋、玩具商等は吉。

## ●卯年四緑生れの相性と職業

●戌、未の三碧、九紫は大吉なれば家内和合す、丑、辰の三碧、九紫は小吉、戌、未の六白は凶、丑、辰の六白は子に縁薄くして凶、子、卯、酉の一白は凶なれども午の一白は小吉、午の四緑は夫婦仲睦ましきも十年の内に離別となる、寅、申、巳、亥の二黒、五黄、八白は大凶

職業　醫師、書家、大工、指物業、呉服太物商、塗物職、紙すき業、煙草商、飲食店など最もよろしい。

## ●卯年七赤生れの相性と職業

●戌、未の六白、亥の二黒、五黄、八白は大吉なれば家業繁昌して賢子生る、寅、巳、申の二黒、五黄、八白は吉、戌、未の九紫、三碧は凶、丑、辰の三碧、九紫は大凶なれば家業衰運に向ふ、卯、午の一白、七赤は初縁なれば治まらぬ、子、酉、午の一白、七赤は凶にして九ケ年内に離別となるか死別となる、子、午、卯酉の四緑は大凶である、丑、辰の六白は小吉。

職業　銀行員、飲食店、美術家、醫師、文士、僧侶、藝術家、農業、雜貨商、請貨師、興行師など成功する

●往古より三世相と云ふ本がありますが、これは過去、現在、未來の三世に渉る因果説より各人の運命を説いたもので吾等の祖父祖母の時代には民俗信仰書として一般家庭に愛讀せられたものです、イヤ現今でも地方によりてはなほ此書を信仰して愛讀せらるゝ人々も相當にあります、此三世相は僧侶の手になつたもので現代から考へると荒誕な妄説と考へらるゝ節も多々ありますが、それは例の佛者の方便説として意に介せず、其内容に就て仔細に驗べますと是又成程と頷かれるところもあれば茲に採錄して皆さんの參考といたします。

●卯の年に生るゝ人は、一代の守本尊文殊菩薩なり、此人前生は青帝の御子にて、北斗の文曲星より大豆一石七斗金子七貫目をうけて今世に生れたるが故に、性質物静かにして世辭愛矯あれば目上の引立ありて立身出世を爲せども決斷力に乏しく物事の締括りを怠たる癖あれば、諸事末遂げ難く困窮することあるべし、よろしく注意せらるべし。

又此人前生にて神佛に歸依篤く夥しき寄進をなしたる功德により今世に生れても慈善心ありて人を憐み貴人の引立を得て世間の信用を増し、衣食に不自由せざるなり、然れども前生にて誤つて牛を殺したる報ゐにて父母に早く離れ知らぬ他國で苦勞することあるべし、子供は三人あれども、其うち一人の子供のために心配すること多かるべし。

又卯年生れの人は、萬事を爲すに成功も早ければ又失敗も早けれど、諦らめよきが取得なり、故に中年は浮沈苦勞多きも晩年は割合に安樂なり、夫婦の縁はよろしきも、年若の結婚は破れ易し、又萬事に注意深きところあれど、其反對に無頓着のところありて、他人との交際上厭きらることあれば氣を付くべし。

藥師如來は壽命を守り、虚空藏菩薩は福德を授け、勢至菩薩は智惠を授け給ふが故に、一代の守本尊と共に深く信心なして開運する樣心懸けらるべし。

# ●卯年の人生れ月の運勢

**一月生れ**　は至つて溫順柔和にして人附合ひよきも決斷力に乏しければ物事埒あかず失敗が多ひ、然し情深く人の爲にも隨分骨折る方なれば世間の人望ありて中年は運勢一時盛んのことあるも晩年は甚だ凶なればよく氣を付け盛運の折老年の幸福を計るがよい。

**二月生れ**　は柔和なれども物事に倦き易く、始は何事も熱心に計畫すれども漸々放任になす故成功すべき事も終には失敗に終り、折角の運勢を取り損ふことがある、運勢は中年の頃身に浮沈多くして住所も定らず、又女難等にて失敗あるも晩年は大に盛大となる

**三月生れ**　は兎角物事を放仕にする癖がありて時々思ひ出した樣に活潑の行爲を爲し至つて斑氣の質である、しかし心に惡意なく福運も相應にあれば中年は住居營業等の變る割には金錢其他に不自由は尠ない老年に至らば運勢次第に宜しく人の羨む程である、

**四月生れ**　は慢心强くして人を蔑視し僅かの事にも怒り易く、喧嘩爭論する癖あれば天角良運を取り損ふことが多い、しかし物事器用にして辨才あれば高慢の惡癖を去り愛嬌よく柔順に人と交際なせば目上より引立られ意外の出世をなし晩年は幸福を得られる。

**五月生れ**　は心に落付きありて物事輕卒にせざれば目上の引立ありて出世が早い又物事考え過ぎて時機を失し思はぬ失敗を招く故注意するがよい、官吏會社員となれば上官の信用を得て意外の出世をなし又商人となりても營業繁昌して人の羨む成功が出來る。

**六月生れ**　は心に締括りなく何事にも熱し易く冷め易き故才智ある人に似合ず失敗が多い、兎角人を侮り他人の缺點を彼是と批評する癖あれば交際上圓滿を缺き初年中年の良運を取損じ、反つて苦勞多く晩年に至るも幸福安樂は得難ことゝなる故氣を付るがよい

**七月生れ**　は偏屈にして心狹く人を入るゝ雅量に乏しき故世間の評判は至つてよくない、然し物事念入りにして用心深き故生涯を通じて大なる失敗はないが神經質なれば親身の相談相手に乏しく大事業は成功しがたいが中年の心掛け次第で晩年の安樂は得られる

**八月生れ**　は世才に長じ器用な質故他人の負を受け衣食に困しむ事は少なけれど、兎角迷ひ氣多く厭き易き故何事も創設はすれども守成の忍耐なく、所謂初めありて終りあらざれば、自然浮沈多き身の上である、中年の頃注意せざれば、老年大に困窮する。

**九月生れ**　は輕薄にして癇癪强く自分勝手の行ひ多き質なれば世間の信用を失ふことあれば注意するがよい、然し才智ありて一能に達し機を見るに敏なれば業によりては社會に名を揚ぐることを得るも、輕薄の行ひを慎しまざれば、晩年の幸福は得られない。

**十月生れ**　は强情にして目上の言を用ひず、兎角自分一存にて事を爲し物事に迷ひ易き質である、女などにも凝性にて折角の良運を取り損ふことが多い、斯る質なれば初年中年は一時盛運のことあるも晩年は運氣衰頽することあれば注意するがよい。

**十一月生れ**　は溫順にして人交際よく天授の福運も相應にあるも氣短かにして事柄によりては損德に係らず之を爲しては反つて後に至り悔ゆるなど利口者に不似合の行爲が屢々ある、宜しく注意して萬事を爲さざれば生涯の幸福は得られない。

**十二月生れ**　は溫和にして交際上手なれば衆人の負引立ありて商人又は官吏會社員等になりても立身成功は意外に早い、然し中年多くは色情の爲に意外の失敗を招くか或は投機的の事業にて大失敗をなし晩年大ひに困窮することあれば宜しく注意するがよい。

# ●卯年の人生れ日の運勢

**子の日生れ**　は溫順柔和にして世辭愛嬌あれば衆人の愛敬を得交際も至極圓滿である、それ故目上の引立ありて官吏會社員などは意外に出世が早い又商人も諸人の負を受けて營業繁昌する、斯く天授の福運は

相應にあるが初年の末又は中年の頃色情の爲折角の運氣を取り損ふことが度々あるゆえ注意するがよい。

**丑の日生れ**　は溫順なれば人望も相應にありて衣食に困ることは少ない、しかし物事等閑に爲す癖ありて目上に厭きらるゝか、又は女難を慎しまざれば、中年にして思はぬ失敗を招き心勞の結果病を發し、それが爲に折角の福運を取り損じ、老年に至りて運勢殊外惡しく甚しく困難する故注意するがよい。

**寅の日生れ**　は活潑にして陽氣である、他人の事にも至つて親切なれど兎角物事倦易く始めは大層熱心に爲すが中途より漸々投遣りに爲し、遂に失敗に終ることが間々ある、よく〳〵注意して何事も忍耐して爲さゞれば中年の運勢は勿論布ひては晩年の不運を招く故よろしく注意すべきである。

**卯の日生れ**　は至つて斑氣の質にして緩漫に事を爲すかと思ふと俄かに性急な事を爲すなど行爲が平等一定しない故自然他人との交際上にもふけさめがある然し世辭愛嬌ある故、夫程人の信用を墜すことはないが何事にも倦き易き爲め運勢を取逃すことが度々あるよろしく注意して萬事爲すべきである。

**辰の日生れ**　は擧動活潑にして傲慢なれば兎角人を侮り且つ人の缺點を彼是言ひたがる癖あれば交際上圓滿を缺きそれが爲に出世を妨げ成功を損ずることがある、宜しく注意して謙讓の態度を以て衆人に交際すれば、元來一技一藝に達し得らるゝ性故中年の末より晩年に至り大なる幸福を得ること必然である。

**巳の日生れ**　は性質落付いて鷹揚に些細の事には頓着せず福分も相應にある、人事に付ても至つて親切によく世話する爲衆人の最負評判は良い、又至つて派手好きにて衣服器具等も華美を好む癖がある、官吏會社員等は上官の引立により意外に出世が早い、又商人は意外の利益を得て營業盛大となることがある。

**午の日生れ**　は陽氣にして少しの事にも外見を飾る癖あれば、つひ心にもなき事を言ひては後に取返しの付ぬことを仕出かし後悔することが多い、又遊惰にして酒色に耽り折角の好運を取り損ひ中年は浮沈多く住所營業も屢々替り辛勞多きも、心掛け次第にて晩年は至つて幸福である。

**未の日生れ**　は偏屈にして心至つて狹まく僅かの事も氣に懸けるゆえ親身に交際する人も至つて少なく孤獨になり易い福運は相應にあれども餘り大事を取り過ぎて大なる發展は出來難いけれど考え深き質ゆへ大なる失敗も少なく唯小氣樂に世を送る人である。

**申の日生れ**　は活潑にして才智深く世辭愛嬌ありて、よく人と交際する爲め世間の評判至つてよい萬事器用にして間々新奇な發明などもするが、兎角物に倦き易く彼れ是れと手を出し一つも纏まりし事なく多くは失敗である、それ故中年は運勢に浮沈ありて、煩悶辛勞多きも元來怜悧の質なれば晩年は幸福である。

**酉の日生れ**　は氣短かの樣なれど內心至つて優長である、兎角自分勝手の行ひ多き爲度々交際上圓滿を缺くことあるも、性來一能ありて才智優れたれば衆人の最負引立を受けて意外の幸運に向ふことがあるそれ故中年の末より晩年に至りて運勢は甚だ盛んである。

**戌の日生れ**　は剛情にして偏屈なれば人附合ひあしく、且つ氣變り易ければ萬事に失敗が多い、その癖女などには凝り性にて思はぬ失策を招き世間の物笑ひとなることもある、よろしく偏屈の心を去り實直の行爲をなさば晩年に至り安樂な餘生を送ることができる

**亥の日生れ**　は溫順柔和にして他人の事にも至つて親切である、福運も相應にあれども、正直の結果頑固の處ありて、些細の事にも人と爭ひ後悔することがある、よろしく寬容にして、人の忠言を用ひ又交際もなるべく圓滿になすよう注意するがよい。

然し同じ卯年にても乙卯、丁卯、己卯、辛卯、癸卯の別あり、又一白、四綠、七赤の差ひありて其干支九星の配合により多少の差異あれば、一代の寶開運の秘書（定價金三十錢）に就て詳細に知らるゝがよい。

# ●辰年生れ一代の運氣

●辰年生れの人は氣位ゐ高けれど福運は相應にありて傲慢勝氣なれば、初年の頃より友達の長となりて遊ぶ故、味方もあるが又敵も多いと云ふ質である、されば其教育宜しきを得れば非常に優れたる人物となるが、もし其教育惡しき時は甚だしき徒者となることがある蛇は寸にして人を呑む氣ありと、諺にもある如く此性の人は幼年の頃より年上の者の缺點を見付けては彼是言たき癖あれば長上の者にも忌嫌はれ親兄弟の憎しみを受ける者もある、又中年に至り身分不相應の事を企て、才智あるに任せ數々なる事を計畫するも、細き事に注意せざる爲に意外の失敗をなし、遂には破れ被れとなりて不正の行爲を企てゝ法律に觸るゝものもある又それ程にはあらざるも、友人や親戚に迷惑を懸け、自分から世間を狹くして晩年の不運をかこつものもある、中年にして自己の性癖によく注意し開運成功を計るよう努めるがよい、それ故初年にては五六歳の頃・怪我或は大病にかゝることがある、十三四歳の頃目上の引立を受け、立身の緒ちを開くことがある、十六七歳頃病難あるか、或は十八九歳頃良運の來ることもある、廿四五歳は運氣に變動の多い時にして、良ければ人の羨む程の大運來り、又惡しければ非常に惡るい、何れにせよ善惡ともに運勢が極端に奔る時期である、三十歳前後或は四十三四歳の頃に又々運氣の變動がある、殊に四十三四歳より五十歳頃迄の間は此年の人の最も活動すべき時期である、此時に當りて宜しく老後の計を爲さば、晩年大に幸福とならんも此時期に運氣を取損ずると老年殊外困窮する、何れにせよ此年の人は運勢に波瀾の多き人である、彼の有名なる原敬、花井卓藏、尾崎行雄、大岡育藏、原富太郎などの諸氏は皆辰年の生れにして、其天稟の美質をよく發揮して彼の如き大なる成功を爲し得たのである、されば此年に生れた人は皆一代の守本尊普賢菩薩を信仰し、宜しく勤勉努力して天授の福分を享受し、大成功を爲さい

毎月廿四日には供物を供えて熱心に信仰せらるゝがよい此日猪肉を食べからず

## ●辰年三碧生れの相性と職業

●子酉の一白四綠は大吉、卯午の四綠一白は吉、子卯午酉の七赤、辰戌の六白、丑未の三碧は大凶、殊に辰戌の三碧九紫、寅申巳亥の二黑五黃八白は凶にして九年の内に離別となるか死別れとなることがある。

職業　材木商、青物商、菓物商、飲食店、軍人、主計官、司法官、法律家、農業、蠶業家、製糸家、船員、土木請負業、新聞記者、鑛山師等は大吉

## ●辰年六白生れの相性と職業

●子酉の七赤申の二黑五黃八白は大吉、卯午の七赤一白、寅巳亥の二黑五黃八白は小吉、子酉卯午の四綠、辰戌の三碧九紫は大凶、丑未の三碧九紫辰戌の六白は大凶にて行衛不明の者か狂人が出來る。

職業　仕事師、酒屋、陶器業、鍛冶屋、雜穀商、活版石版及び出版業、乾物商、茶商等は成功す。

## ●辰年九紫生れの相性と職業

●子酉の四綠申寅巳亥の二黑五黃八白、午卯の四綠は大吉、子卯の一白七赤、辰戌の六白は大凶、又丑未辰戌の九紫三碧、丑未の六白は一度の緣で治らぬ。

職業　銀行會社員、演藝家、文士、經師屋、植木屋、化粧品商、乾物屋、辯護士、電氣業等適業です。

永く交際する者がない、それ故中年は住所や業務を度度變ることがある、宜しく圓滿の交際をなさば假令ひ中年には辛勞多くとも、老年には反つて幸福を得らる

**八月生れ** は活潑にして器用であるが、至つて倦き易く辛抱が出來ない故成功を見ることが遲い、且つ自慢して人を罵言することが多い爲め、交際上圓滿を缺き運勢にも障りがある、又中年にして住所業務に變動あるも心掛け次第にて晩年は安樂が出來る。

**九月生れ** は福分も相應にありて辨才も巧なれば自然交際も上手にして業務の發展、身分の向上も人より速けれど、兎角移氣にして永く一事に辛抱出來ず彼是と業を替え、折角の運勢を取り逃すことがある、注意して天授の福運を完ふするよう心掛けるがよい。

**十月生れ** は剛情一克にして、人の言葉を聽き入れず、時により粗暴の行ひある故、成功すべきことも失敗に終ることが多い、其癖人事には賴まれもせぬに隨分骨折り世話することもあるが、多くは椽の下の力持ちとなりて先方には左程には思はれない。

**十一月生れ** は正直なれど口輕にして、兎角人の事を彼是れと言たき癖あれば、交際上圓滿を缺き、他人の憎みを受け初年より中年までの良運を取り損ふことが多い、宜しく注意して愛矯よく人と交り中年の良運を逸せざるよう心掛けるがよい。

**十二月生れ** は蓄財の念強ければ中年にしてよく成功するものもあれど間々吝嗇の行ひありて親兄弟とも仲違ひすることがある、又色情の爲に損失あらん、それ故德義を重んじ交際に注意せざれば老年に至つて甚しく困窮することがある。

## ●辰年の人生れ日の運勢

**子の日生れ** は相應に福運あれど些細の事にけちけちして兎角出し吝みする故大成功は爲し難い、又親兄弟の緣薄く住所の心勞も多い、中年は至つて浮沈多く、投機的事業又は色情の爲に思はぬ失敗を招くこともある、然し信義を守り實直に萬事を爲せば、晩年は意外の福運を招くことゝなる。

**丑の日生れ** は至つて活潑剛情なれば隨分苦勞艱難にも忍耐して大事を爲す人もある、又慈善心に富み他人の事もよく世話すれど、兎角些細の事にも人と爭ふ質故、交際永く續かず、反つて自分の不利益となることがある、初年中年は辛勞多きも勤勉の生れ故老年に至つて安樂の餘生を送るものが多い。

**寅の日生れ** は剛情我儘にして自分勝手の振舞多く、兎角人の言葉を用ひず、唯進むことのみを知りて尻の始末を付けぬ故、夫れが爲意外の失敗を招くことがある、宜しく短氣を慎しみ事の善惡を考へ、穩和を主として萬事を爲せば、自づと人望を得運勢も次第に開けて立身成功し、晩年大に安樂の身となる。

**卯の日生れ** は表面柔和にして愛敬あれども斑氣のために交際上圓滿を缺くことが多い、物事締くゝりなく至つて緩漫い性なれば酒色なども程を過し身を破ることがある、よく〳〵慎しむがよい、中年は身分に變遷多く又人世話などにて何歟と苦勞心配あるも、心掛けにより老年は反つて安樂である。

**辰の日生れ** は活潑强情にして自惚心强く何事にも自分の意見のみ言ひ張りて人と爭ふ故交際上圓滿を缺くこと多く、他より注意せらるゝも是を改めぬ故、人に厭はるゝことがある、然し心は正直にして男氣あれば、隨分人の世話もなす故、中年の運氣は割合に盛んなれど、晩年は反つて困窮することがある。

**巳の日生れ** は怜悧なれども、至つて片意地にして輕薄なれば、人望薄く天授の福分を損することが多い、又派手好きにして衣類道具を華美にする癖あるも自慢氣强く愛敬に乏しき故、親密の交際を爲すものが至つて少ない、それ故中年は一時運氣盛んなることあるも、晩年は甚だ良くない故注意せねばならぬ。

**午の日生れ** は陽氣にして常に大言を吐けど言行一致せず約束せしことを違約しても更らに意に介せぬ

癖がある、しかし心に惡意なきゆゑ、左程人に憎まることも少ない、又福運も相應にありて金錢の融通よきも、身分不相應の山氣を出すか、又は色情の爲に中年の運氣を損することがある。

**未の日生れ** は正直なれども、陰氣にして實意あらざれば親密の朋友は至つて少ない、又親兄弟の緣も薄い、擧動不活潑にて因循なれば好機を逸し初年より中年頃辛勞ありて住處の心配が多い、宜しく誠實を以て人に交り他人の助けを得る樣心掛けるがよい。

**申の日生れ** は一見才子の樣に見ゆるも、自慢の心强ければ永く交際するものが少ない、又文才藝術に秀づる者あるも孤獨生活を送る人が多い、よろしく正直にして自慢氣を出さず、一藝を以て人に用ひらるゝよう心掛けなば晩年は至つて幸福である。

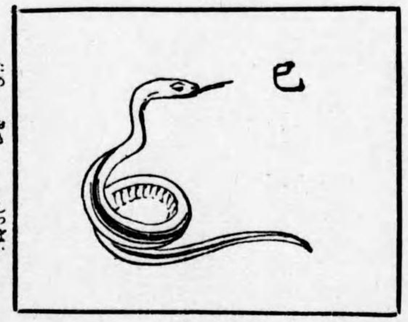
**酉の日生れ** は智慧藝能ありて世才に長じ能く人と交際して人望を得るか、又は目上の相談相手となりてよく企業し相應の地位を得るものもあるが、氣の多き質故兎角一業にて滿足出來ず本業以外に彼是と手を出し失敗することが多い、よろしく注意するがよい。

**戌の日生れ** は實直にして口數すくなけれど、一克强情の爲兎角亂暴の行爲あれば親兄弟の良薄く、知らぬ他國で苦勞するものが多い斯る性質なれば普通の商人などよりも文藝を以て身を立つるか、神官、僧侶などゝなれば、晩年意外の幸福を得ることがある。

**亥の日生れ** は正直にして强情ゆゑ、自分の言分のみを通そうとして、兎角人と爭ふ故反つて人に憎まれ失敗することがある、されど人の氣を計り人に取り入ることは巧み故、中年の頃度々目上の引立を得て良い運勢を得ることあるも、初年中年は何歟と辛勞多ければ宜しく注意するがよい。

然し同じ辰年にても甲辰、丙辰、戊辰、庚辰、壬辰の別あり、又三碧、六白、九紫の差ひありて其干支九星の配合により多少の差異あれば一代の寶開運の秘書（定價三十錢）に就て詳細に知らるゝがよい。

# ●巳年生れ一代の運氣




●巳年生れの人は表面は至つて柔和なれど內心は剛氣にして且つ考え深き故屢々目上の引立を受けて身分不相應の出世を爲すこともあるが、兎角疑ひ深くして人の出世や、成功を猜む氣性故交際上の圓滿を缺きてそれが爲に思はぬ失敗をすることもある、又一技一藝に達し發明心もある故、專賣特許などを得ることあるも引込思案にて世間に出す時期を失ひ損失することがある、人德も金德も相應にあれば、中年に心を締めて勤勉努力すれば晩年の運勢は大に宜しい、然し子供には緣が薄い故、老年にいたりて子孫の爲めに心配苦勞多き運勢である、されば十三四歲の頃、人の愛顧信用を得て立身の緖を開くものがある、又十六歲前後には病氣にて惱むことあらん、二十一二歲か或は二十五六歲頃長上の引立を得るか、或は獨立して意外の利益を得ることあれど、又其前後に於て、女難色情の爲に身を過まることがある、宜しく注意するがよい、三十三四歲か或は三十七八歲又は四十五六歲にして良運の來ることがある、宜しく此時に晩年の計を爲さば、老年に至つて幸福であるが、もし此時期を過まると、終身取返しの付かぬ困窮に陷ることがある、宜しく注意するがよい、彼の有名なる後藤新平、角田眞平、久原房之助、福澤桃介、仙石貫、增田義一、伊藤巳代治氏などは皆巳年生れにして、其天稟の美質をよく發揮し彼の如き成功を爲し得たのである、されば此年の人は宜しく一代の守本尊なる普賢菩薩を朝夕尊信なし、其加護を受け奮勵努力して天授の福分を享受し、好機良運を捕え、大成功を爲すやう、眞心こめて、心に掛ける樣なすがよろしい。

毎月廿四日には供物を供えて熱心に信仰せらるゝがよい此日猪肉を食べからず

## ●巳年二黒生れの相性と職業

●丑の九紫、六白、酉の七赤は大吉にして夫婦仲睦しく家運繁榮す、辰、未、戌の九紫、六白、子、卯、午の七赤は吉、丑の三碧、酉の一白、四綠は凶、子、卯午の一白、四綠、辰、戌、未の三碧は大凶、寅、申の二黒、五黃、八白は凶にして家業衰ふ、亥、巳の二黒五黃、八白は大凶である。

職業　書畫骨董商、銛屋、袋物商及び製造業、メリヤス製造業及び販賣商、敎師、宗敎家等適業です。

## ●巳年五黃生れの相性と職業

●辰未戌の九紫六白子卯午の七赤は大吉なれば家業繁昌す、子卯午の一白四綠辰戌未の三碧は大凶にして末永く添遂げ難し、丑の三碧酉の一白四綠は凶、寅申の二黒五黃八白は凶、亥巳の二黒五黃八白は大凶、丑の九紫六白又は酉の七赤は子孫繁榮である。

職業　神官、醫師、書家、畫家、文學者、理學者、僧侶、敎員、米穀商、砂糖商、塗物師等は吉。

## ●巳年八白生れの相性と職業

●子卯午の一白四綠辰戌未の三碧は大凶にして子孫夭死す、丑の三碧、酉の一白、四綠は凶、辰未戌の九紫六白又は子卯午の七赤は吉にして子孫多く家名盛大となる、丑の九紫六白又は酉の七赤は大吉なれば富貴にして子孫繁榮す、寅申の二黒五黃八白は不仕合にして病人絶えず、亥巳の二黒五黃八白は凶にして九年を經ずして死に別れとなるか離縁となる。

職業　意匠家、美術家、音樂家、外交員、農業、製糸家、呉服屋、染物屋、綿糸商及び職工、神官等適業です

●往古より三世相と云ふ本がありますが、これは過去、現在、未來の三世に渉る因果說より各人の運命を說いたもので吾等の祖父祖母の時代には民俗信仰書として一般家庭に愛讀せられたものです、イヤ現今でも地方によりてはなほ此書を信仰して愛讀せらるゝ人々も相當にあります、此三世相は僧侶の手になつたもので現代から考へると荒誕な妄說と考へらるゝ節も多々ありますが、それは例の佛者の方便說として意に介せず、其內容に就て仔細に驗べますと是又成程と頷かれるところもあれば玆に採錄して皆さんの參考といたします。

●巳の年に生れたる人は、一代の守本尊普賢菩薩なり此人前生にては白帝の娘にて、北斗の武曲星より大豆二石と金子六貫匁を受得て今世に生れたるが故に性質穩かに外見も亦柔和なれど、內心は剛毅の氣象を備へ諸事派手になしたき氣質なり、されど疑ひ深く物事遠慮勝のところあり、又他人の成功出世を嫉む僻あり、これ前生にては女人にて其業も深かりし故今世に生れ來て常に思ひ惱むこと多し、よく〳〵心を正しく持ち神佛を信心なされて其加護を得るよふ心掛くべし。

又此人前生にて寺院の物を借りて返さゞりし報ゐにて、今世に生れきて父母兄弟に早く離れ、子供は二人あれども一人も力とならず、それがため運勢にも浮沈み多し、よく〳〵神佛を敬ひ、難義する老人を憐みたはり、衣食を施し善根を積むときは、晩年に至り安樂なる生涯をおくることを得るなり。

此巳の年に生れたる人は、心正直にして外見柔和なり、派手なることを好み、平常の衣類持物なども美しく爲したき氣分多し、初年は衣食意の儘なれど、中年は甚しく難義するなり、されど初年中年の心掛け次第にて晩年は他人の美む程の富貴安樂を得べし。

地藏菩薩は壽命を守り、虛空藏菩薩は福德を授け給ひ、勢至菩薩は智惠を授け給ふが故に、一代の守本尊と共によく〳〵信心なして開運を計らるべし。

# ●巳年の人生れ月の運勢

**一月生れ**　は物に落着ありて辛抱強き故、手堅き營業に精出せば大に發達成功する、然し間々卑吝の行ひありて人の氣を損じ、思はぬ失敗を招くことあれば平常よく注意するがよい、中年は福分相應にありてさしたる心勞なきも晩年は衰運となる。

**二月生れ**　は正直にして活潑なれば萬事敏捷に處理し人事にも親切なれば人望も相當にある、又運氣も至つて強き爲投機的の事業を爲して間々成功することがある、然し卑劣の行ひをなし或は賤しき業に從事するときは勞して功なく終身困苦が絶えない。

**三月生れ**　は殊の外柔順に自から品位もありて人の頭となるの福分がある、又商人となりても大に發達成功する運勢あれど兎角尻拔けにて諸事始めは熱心なれども、何時とはなしに其事を怠り遂に失敗に終ること多く反つて困窮することあれば注意するがよい。

**四月生れ**　は剛情一克にして人の言葉を聽き入れず、我儘勝手の行ひ多き爲め他人の評判はよくない然し中々辛抱強く艱難に打勝つ性故、間々成功する人がある、中年は兎角住所に付て心配あるも、よく艱難に堪えて刻苦奮勵するときは晩年の運勢はよろしい。

**五月生れ**　は派手好きにして身の廻りも至つてサッパリとし交際も亦巧みである、然し至つて神經質の性故些細の事も氣に掛け陰氣に傾き徒らに煩悶することが多い、されば常に心を快活に持たざれば、神經病に掛る人が多い、よく〳〵注意するがよい。

**六月生れ**　は福分ありて金錢の入ることも多いが兎角外見を飾りて徒費多く、それが爲に反つて困難することがある、又好むで人世話をなし、常に大言を吐きて人に誇りたき性質なれば、不正の輩に煽動せられて意外の損失を招くこともある。

**七月生れ**　は福分ありて金錢には不自由することと少きも、氣鬱症にて擧動活潑ならず、些細の事にも氣病して男子は神經病、女子はヒステリーを起し、中年のころ自ら求めて住居の苦勞をなすものが多い、宜しく心を快活に持ちて諸事敏活になすがよい。

**八月生れ**　は溫順實直にして世才あり、且つ交際に巧みなれど常に心勞多く、又人よりも世話事を持込まれて心配を增すことが多い、中年のころ屢々住所を替え又は職業を改めて反つて天與の財産を損することがある、よろしく注意するがよい。

**九月生れ**　は才智ありて能く人の心中を計り間々身分不相應の大業を企てる事あるも、大抵は考え過ぎて反つて好き結果を得ることは少ない、至つて氣が多くあれこれと學び、多藝なれども奥儀に達することは稀れである、宜しく一技一藝を專念に勉めるがよい

**十月生れ**　は剛情偏屈にして、氣に向かざれば家内の者とも口をきかず平常心に思ふことも言葉に出さず、或は考え過ぎて時期を失ひ、折角の運勢を取損ふことあれば大に心を快活に持ちよく目上の意見を聞き、機敏に活動なして、晩年の幸福を計るがよい。

**十一月生れ**　は溫和にして實直なれば目上の引立あれどあまり正直過ぎて世才に通ぜざる傾きあれば交際上兎角圓滿を缺く事が多い、然し萬事實直になす故學藝か工藝の技術を修めなば相當の地位を得て中年より安樂なる境遇に身を置くことが出來る。

**十二月生れ**　はよく細事に氣つく質なれば小金に不自由することは少ない、しかし時々卑吝の行ひありて人に疎んぜられ、交際上甚しき不利益がある、よろしく吝嗇の行ひを慎み注意するときは元來福分多き生れなれば、中年には意外の幸運を得ることが出來る。

# ●巳年の人生れ日の運勢

**子の日生れ**　は物事細かにして儉約なれば、商人などは家業漸々繁昌に盛大となす福分がある、然し節儉の結果兎角吝嗇に流れやすき故、注意せざれば交際上に圓滿を缺く事多く他人の信用を損じて中年には度

々住所を替え他國に流浪することがある、又女難を慎しまざれば老年甚しく困難することゝなる。

**丑の日生れ**　は落着ありて物に動ぜざれど少しく剛情の所ありて一寸附合ひ惡き質である、それが爲に交際上圓滿を缺き損失する事が多い、宜しく務めて人附合ひは快活になして活潑に事業を爲さば、中年の運勢には少しく滯ることあるも、大なる失敗なく相應の福分を得て老年至つて安樂を得られる。

**寅の日生れ**　は才智人に優れたれど兎角自尊心强く已れが〳〵と自惚る癖ある爲、人望を失ひ爭論喧嘩を爲すことが多い、然し運勢强き故隨分難事業をも成し遂げ間々大成功を爲す人もある、然し卑賤の業は勞して功なきため困窮の結果自暴自棄となるものがある

**卯の日生れ**　は愛敬よく人附合ひも巧みなれば、商人などは間々大成功する人がある、しかし熱し易く冷め易き故、本業以外の事業に手を出だし失敗することもある、宜數注意して氣を替へず一業に熱心なれば晩年は幸福の餘生を送ることが出來る。

**辰の日生れ**　は剛情にして人の忠言も聽き入れず己れが欲するまゝになすゆゑ他人より彼是批難攻擊を受くることが多い、然し俠氣ありて人の憐れを見ては身を忘れて是を救ひ、反つて思はぬ心配苦勞を求むることがある、それ故中年の運勢は浮沈み多く老年の運氣も滯り勝なれば、よく〳〵注意するがよい。

**巳の日生れ**　は溫柔にして潔癖なれば些細の事にも氣に懸くよ〳〵と神經を惱すことが多い、恪氣嫉妬の念强く、それが爲に家內に不和を生じ又交際上面白からぬ事が多い、宜しく注意して此惡癖を改むるよう努めなば性來の福運は相應にある故、假令ひ初年は困難なりとも中年の末より晩年に至りて幸福である。

**午の日生れ**　は至つて派手にして物事陽氣を好み常に大言壯語を吐きては他人の事を彼是と批評する故人の憎しみを受ることが多い、又人世話多くして苦勞心配が絶えない、投機事業を好んでなし稀れに成功することもあるが多くは失敗勝にて中年住居に變動多く老年困窮することがある。

**未の日生れ**　は柔和にして內氣なれば、何事も遠慮勝にて時期を失ふことが多い、常に憂苦辛勞絶えざれば自然陰氣にして人附合ひあしく、親身の相談相手なく住所も一定せず度々變ることがある、宜しく心を快活に持ちて諸事活潑になすよう努めなば中年の末より運氣自から開け晩年は幸福である。

**申の日生れ**　は世才ありて交際に巧みなれども、兎角才智に任せ僞りを言ふ癖がある、物事安請合ひなればそれが爲人事にも世話苦勞が多い、兎角目上の引立あるも氣儘にて自ら運氣を取損じ反つて困難に陷ることあれば、宜しく着實にして開運を計るよう努めねば晩年の良運は得られない。

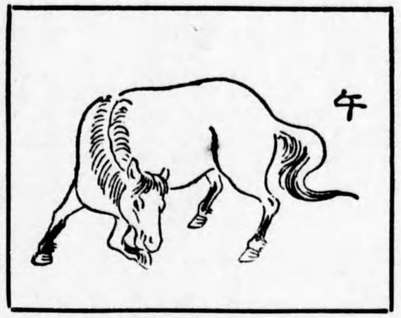
**酉の日生れ**　は正直にして溫和なれども平穩無事を好まず兎角事を謀り工らむ性故飛んだ失敗を招き自ら苦しみを求めることがある、又彼是と氣移りしてよく職業を變じ或は本業以外の事に手を出して損失することが多い、然し綴密の事が好きにて物に綿密なれば美術家などは大に名聲を博することが出來る。

**亥の日生れ**　は偏屈にして融通の利かぬ質である又婦人は殊更嫉妬深ければ一家の不和を生ずることが多い、兎角物事案じ過して時期を失ひそれが爲に自づと自暴自棄に陷りて天與の運勢を損する者がある、宜しく凡ての事に注意して開運成功する樣努むるがよい

**戌の日生れ**　は短氣の爲思はぬ失敗が度々ある、又俠氣ありて弱を扶け强を挫ぐ性故隨分人の爲に苦勞が多い、正直過ぎて世才に乏しき傾きあれば他人に欺かれ後にて腹立ち怒ることがある、然し元來上運なれば晩年は子孫の爲に安樂の餘生を送ることが出來る。

然し同じ巳年にても乙巳、丁巳、己巳、辛巳、癸巳の別あり、又二黑、五黃、八白の差ひありて其干支九星の配合により多少の差異あれば、一代の寶開運の秘書（定價三十錢）に就て詳細に知らるゝがよい。

# ●午年生れ一代の運氣




●午年生れの人は心陽氣にして陰氣なることを嫌ひ、進退動作も自から快濶にして交際も巧みなれば意外に早く成功を爲すことあるも多くは酒色の爲に身を過り四十歳前後に於て再び困窮することとなる、又投機的の事業を好み諸事派手になしたき性質なれば身に浮沈多く中年にして家を外に出歩きて暮す故自然金錢は出勝である、又早く生家を離れて他郷にて暮す人が多いされば其運勢の徑路を云へば初年に於ては七八歳の頃養子に望まるゝことがある、又十三四歳の頃怪我するか病氣に罹ることがある、十八歳或は二十歳前後に於て、良運來り意外の人の援助引立によりて思はぬ出世を爲すか、或は大なる利益を得ることがある、二十五六歳の頃色情か酒の爲に身を過ることがある、しかし三十四五歳に中年の良運來るも三十七八歳にして大失敗あるか四十二歳の頃一大災難あらん、四十四歳頃より、四十七八歳頃迄の間に再び良運來ることあれば、其時期を失はず、業務を堅固に守り、常に經濟に氣を付て萬事に細心の注意を怠らざれば元來が天稟の運氣盛んなる生れ故、世間の信用人望等もありて晩年大に幸福なる餘生を送ることが出來るのである。

彼の有名なる勝海舟、松方正義、奥大將、東郷元帥井上圓了、伊藤大八、巖谷小波氏などは皆午年の生れにして、其天稟の美質をよく發輝して、彼の如き大成功を爲し得たのである、それ故此年の生れの人はよく奮勵努力して好機を捕え良運を逸せず大成功を爲す樣心掛けねばならぬ、且つ一代の守本尊は勢至菩薩なれば宜しく平常信心堅固にして終身の安寧幸福を祈らば必ず其加護によりて開運成功を得らるゝのである。

毎月廿三日には供物を供え熱心に信仰せらるゝがよい此日鳥を食すべからず

## ●午年一白生れの相性と職業

●戌、未の三碧、六白は大吉なれば家業繁昌す、丑、辰の三碧、六白は吉なれど、妻の身内より厄介がある戌、未の九紫は凶にして離縁となる、丑、辰の九紫は病災がある、子、午、卯、酉の一白は凶、子、卯、午酉の四緑、七赤は凶、寅、巳、申、亥の二黒、五黄、八白は凶である。

職業　米株仲買、輪出入商、銀行員、指物職、桶屋、木挽職、大工職、下駄商、金銀細工、鐵類商等吉。

## ●午年四緑生れの相性と職業

●丑、辰、未、戌の三碧、九紫は大吉にて一家繁昌す、戌、未の六白は子に縁薄く又病身勝となる、丑、辰の六白子、卯、酉、午の一白は凶、七赤は干支を問はず大凶子、酉、午の四緑は九年を經へずして別れる、卯の四緑は小吉、寅、申、巳、亥の二黒、五黄、八白は大凶。

職業　材木屋、土木請負業、大工建具職、薪炭商、煙草屋、荒物屋、紙商及び製造業、電氣事業等皆成功す

## ●午年七赤生れの相性と職業

●戌、未の六白、寅の二黒、五黄、八白は大吉にして家業盛大となり生るゝ子聰明である、申、巳、亥の二黒、五黄、八白は吉、未、戌の九紫、三碧は凶、丑、辰の三碧、九紫は大凶なれば夫婦仲睦しからずして離縁となる、子、卯、午、酉の一白、七赤は子供に縁うすくして苦勞あり、子、卯、午、酉の四緑は大凶なれば夫婦何れか病身勝である、丑、辰の六白は吉である

職業　銀行會社員、鹽物商、豆腐屋、荒物商、藝人、料理店、陶磁器商、左官職、鍛冶職などは適業です。

●往古より三世相と云ふ本がありますが、これは過去、現在、未來の三世に渉る因果説より各人の運命を説いたもので吾等の祖父祖母の時代には民俗信仰書として一般家庭に愛讀せられたものです、イヤ現今でも地方によりてはなほ此書を信仰して愛讀せらるゝ人々も相當にあります、此三世相は僧侶の手になつたもので現代から考へると荒誕な妄説と考へらるゝ節も多々ありますが、それは例の佛者の方便説として意に介せず、其内容に就て仔細に驗べますと是又成程と頷かれるところもあれば玆に採錄して皆さんの參考といたします。

●午の年に生れたる人は、一代の守本尊勢至菩薩なり此人前生にては赤帝の御子なり、北斗の破軍星より粟一石と金子七貫匁を受得て今世に生れたるが故に、性質世辭愛嬌ありて交際も巧みなり、義侠心強きが故に他人の世話厄介を引受けること多し、諸事掛引上手なれば身分不相應なる事を計畫して失敗することあらん又此人早くより父母の手元を離れ他國に出づるなり、親戚よりは他人の援け引立てによりて意外の立身成功を爲すことあらん、然し初年中年は辛勞多く、老年に及むで仕合よろしく安樂なるべし。

又此人前生にて神佛の堂宮建立の際夥しき寄進を爲したる功德により、今世に生れ來て衣食に不自由なく、手に藝ありて金銀財寶意の如く集まるべきも、前生にて出家に酒肉を薦めたる報ゐにて、父母妻子兄弟の緣は薄かるべし、宜しく神佛を敬ひ慈悲善根を積みて晩年の安樂を計らるべし。

此午の年に生れたる人は、初年より中年の中ば頃までは、しば〳〵衣食に窮する樣な凶運に出遭ふことあらんも、中年以後は追々と財寶集り幸福なる生涯を送ることを得べし。

藥師如來は壽命を守り、毘沙門天は福德を授け給ひ文殊菩薩は智惠を授け給ふが故に、一代の守本尊と共によく〳〵信心なして開運を計らるべし。

# ●午年の人生れ月の運勢

## 一月生れ

は敏活のように見ゆるも時々身分に似あわぬ大業を爲して失敗し困難することがある、平生は吝嗇の行ひをなしながら、女色の爲に損失することもある、宜しく身の分限に應じて事を爲し、萬事注意せば中年は辛苦多きも晩年の幸福を得らるのである

## 二月生れ

は資性活潑に勇氣あれば、間々大事を企てゝ成功することがある、然し餘り高慢過ぎて勢ひに乘じ無謀の事を爲せば意外の失敗ある故注意せねばならぬ、兎角善惡共に極端に奔る質故何事も中庸を得るよふ心掛けて萬事を爲さば大なる失敗はない。

## 三月生れ

は愛嬌ありて世間の人望はあれども兎角物事放任にして締括りなき爲、人に厭きられ折角の福運も永く保ち難い中年には屢々住居を替るか、或は一業にて辛抱出來ず彼是と氣移りして自ら苦勞を求め中年の良運を損することあれば注意するがよい。

## 四月生れ

は勇氣あれども、兎角慢心強く我儘にして自分の言ひ出したる事は理非に係らず押し通徹そうとする癖あれば世間の人望は至つて薄い、宜しく注意して品行を慎まざれば折角の福分を保つことが出來ず、晩年反つて困窮することがある。

## 五月生れ

は金錢には餘り不自由せざれど、物事に倦き易く又人の好き嫌ひ多ければ人望を失ふことがある、衣類身の廻りを派手になし虛飾を張る癖あれば金錢も隨分入るが出ることも多い、斯る質なれば中年の末より晩年の始めに當り甚しく困難する事がある

## 六月生れ

は福分も相應にありて金錢の出入も繁けれど、兎角虛飾をかざり心にもなき大言を吐きては意外の失敗を招き良運を逸することあれば、よろしく酒色を慎しみ節儉に爲し、天授の福運を獲得するよう心掛ければ晩年は安樂である。

## 七月生れ

は溫順なれども少しく卑屈行爲あれば何事にも引込思案多く、それが爲に折角の運氣を取

逃すことが多い、中年の頃住所の苦労多く、人によりては早く親の手元を離れて艱難する者もある、宜しく常に勇氣を出して萬事を爲せば相應の幸運は得られる

**八月生**れ　は世辭愛嬌ありて交際も廣けれど、辯才に任せて常に大言を吐き人に憎まるゝことが多い又物事倦き易き爲め一業を永く保つこと難く、彼是と手を出しては失敗することがある、中年の頃運氣一時盛んなることあれば、其折老後の考えをなすがよい。

**九月生**れ　は人を見下す故兎角人望を失ふことが多い、又投機事業をなして思はぬ失敗することがある、宜しく分外の僥倖を希はず人事にも親切にして何事も着實になさば、一時は甚しき困窮に陷ることあるも晩年は他人の羨望する程の幸福を得られる。

**十月生**れ　は口數少なけれども偏屈にして動もすれば粗暴の振舞ありて些細の事にも人と爭ふ癖あれば人望薄くそれが爲に物事失敗が多い又酒など過す時は狂人染みし行ひを爲すことがある、宜しく注意して愛嬌よく交際し、天授の福運を失はざる樣なすがよい

**十一月生**れ　は正直にして偏屈なれども、勇氣ありて負ず嫌ひの質なれば稀には大なる成功をなす人あれど多くは人に嫌はれ孤立となりて中年の頃は住居や妻緣の替ることも屢々ある、宜しく常に交際に注意して萬事謙讓に目上の引立を得て立身成功を計るがよい

**十二月生**れ　は溫柔にして運氣强く福分も相應にありて交際も巧みなれば目上の引立により年若くして相應の出世を爲すものもある、自分の衣類や身の廻りには氣を付れども、親兄弟の間柄でも金錢のことには客なれば親戚身内とも仲違ひすることが多い。

## ●午年の人生れ日の運勢

**子の日生**れ　は福運も相應あれば、目上の引立又は知人の助けを得て好運に向ふことが多い、物事至つて節儉に仕末よき結果、兎角吝嗇に流れ易く人望を失ふことが多い、又中年にして女難あるか、身分不相應の事を爲して意外の損失を招き晩年の運勢に支障を來すことあれば宜しく注意するがよい。

**丑の日生**れ　は正直にして物堅ければ他人よりは愚物のように思はるれど、我慢强くして意志も堅固なれば、成功を見るに相當永き年月を要する事業をも必ず仕遂げるも、時々一時的僥倖なる事に手を出して失敗することが多い、宜しく注意して身分相應の事を爲さば、中年には辛苦多きも晩年は必ず幸運である。

**寅の日生**れ　は俠氣あればそれが爲に人世話多く金錢の出費も隨分夥しい、然し此生れの人は兎角目上と逆ふ質なれば、賤しき業は反つて運氣に滯りあつてよろしくない、なるべく活潑に男子らしき業を爲さば中年には艱難心苦多きも、遂には成功して世間に名を知られ晩年は大に幸福である。

**卯の日生**れ　は柔和にして相應の福分がある、愛嬌ある故よく目上の引立ありて思はぬ立身をすることあれど、思慮決斷に乏しく動もすれば物事等閑にして締括りあらざれば成功すべきことも、その努力のたらざるため反つて不成功に終ること多く、折角の運氣も取はづすことがある、よろしく注意するがよい。

**辰の日生**れ　は向上心强く傲慢の氣性ありて、人に高振らんとする癖あれば人事にも隨分世話奔走を爲せど兎角人望は得られない又短氣にして些細の事にも人と爭ひ怪我するか、夫婦の緣もしば〳〵替ることがある、宜しく粗暴の行爲を慎めば元來運勢よろしき質なれば意外の立身を爲すことが出來る。

**巳の日生**れ　は物事華美を好み、衣類持物まで派手になしたき癖がある、人事にも至つて親切なれど兎角人の成功を羨みそれが爲め人望を失ふことが多い、中年には兎角苦勞多く夫婦の緣も替れども常に氣を付くれば晩年の運氣は至極幸福である。

**午の日生**れ　は表面陰氣の樣に見ゆれど內心まことに陽氣の事を好み、他人との交際も甚だ上手にして口前うまく兎角外見を飾る癖がある、それが爲相當の

收入あるも自然出費多くして金錢は保ち難き質である又旅行好きにて商賣しても出商賣を好み旅にて暮し女難にて心勞することがある。

**未の日生れ**　は柔和にして正直なれども、少しく卑屈にして活潑の行動に乏しければ人氣家業などは不適當である、又涙脆く始終取越苦勞多く、何事も因循姑息の行爲ありて自分から福運を薄くすることが多い宜しく大に元氣を出し勇氣を振ひ、活潑に活動なさば自然天運開け晩年は大ひに幸福となる。

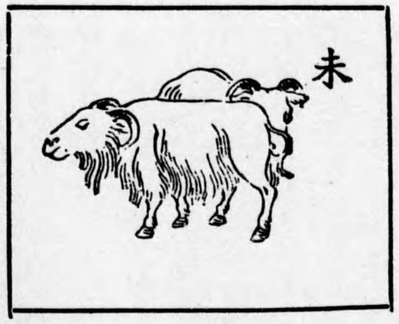
**申の日生れ**　は世才に長け辯才ありて怜悧なれども、度量俠隘にて人を容るゝ雅量なければ他人を使ふことも出來ず、又目上の引立を受くるも永く辛抱出來ずして、立身出世を妨ぐること多く、それが爲に度々好運を取損ずることがある、隨つて中年は住所業務を變更して晩年の運氣に滯りがある。

**酉の日生れ**　は擧動敏活なれば目先もよく利き、談判事又は掛引など至つて巧みである、又名譽心强ければそれが爲に金錢を捨つることが多い、中年は至つて心勞多き運勢なれば宜しく投機的の事業を慎しみ晩年の幸福を計るよう爲すがよい。

**戌の日生れ**　は正直にして忍耐力あるも少しく偏屈である、始終心に不平不滿を抱く故兎角人の爲す事に逆らひて陰險他を計らんとすることが多く、それが爲に人望を失ひ福運を薄くすることがある、よろしく注意すれば晩年は安樂の餘生を送ることが出來る。

**亥の日生れ**　は剛情にして負ず嫌ひ故よく人と爭ふことがある、しかし至つて正直に且つ淡白なる質なれば其割合に人に恨まるゝことが少い中年の頃辛苦多きも、官祿福祿共に相應にあればよく目上の言に從ひ天授の幸運を得て、晩年は子孫の爲に安樂が出來る。然し同じ午年にても甲午、丙午、戊午、庚午、壬午の別あり、又一白、四綠、七赤の差ひありて其干支九星の配合により多少の差異あれば一代の寶開運の秘書（定價三十錢）に就て詳細に知らるゝがよい。

# ●未年生れ一代の運氣




●未年生れの人は慈悲心深くしてよく人世話を爲し、又神佛を信仰する念も篤く物事手堅き方なれば割合ひに失敗や甚しき困難は少ない、然し取越苦勞多く何事も念を入過ぎて大事を取る故發展の好機會を失ふことが多い、斯る惡癖は此年の婦人は殊に有勝故、宜しく我儘と偏屈を捨て、快濶に爽快の心を持ち柔順を旨とするときは人にも愛せられ意外の幸福が得られる、又身の上兎角定まらず住所も變り易く他國へ移ることあれど、餘り中年に住所を替え此處彼處と遷り替るは人の信用を損じ、老年の運氣も滯り勝なれば氣を付けるがよい、されば初年に於ても七八歳或は十二歳頃には他人より養子に望まることがある、又十三四歳頃怪我或は病氣に罹るか、又は近親目上に別るゝことがある十五六歳頃か二十歳前後に於て既に老年の如き考へを起し、それが爲に利益を得ることもあるが又不利益を生ずることもある、三十一二歳前後か又は四十三四歳の頃に終身中の良運來ることあれば、此時に當りよく心を締め老年の計を立つれば晩年に困窮することは少ない、兎角此人の缺點は引込思案の爲折角の好運を取損ずること多ければ宜しく注意するが肝要である、彼の有名なる松方正義、高島嘉右衛門、益田孝、井上角五郎、片岡直溫、坪内雄藏、飯田新七などの諸名士は皆未年の生れにして其天稟の美質をよく發輝し、彼の如き大成功を得たのである、されば此年の人も宜しく奮勵努力して好機を捕え、良運を逸せしめず大成功を爲す樣心掛けるがよい、又一代の守本尊は大日如來なれば平素信心堅固にして、終身の幸福を祈らば其加護により開運成功すること疑ひない。

毎月八日には供物を供え熱心に信仰せらるゝがよい此日牛肉は食すべからず

## ●未年三碧生れの相性と職業

●卯、午の一白、四綠は大吉にして、家富み榮え、子孫長久である、子、酉の一白、四綠は吉なれど生るゝ子善良にして家名を揚ぐ、子、午、卯、酉の七赤は凶にして死別れとなる、丑、辰、未、戌の九紫、六白は凶、丑、辰、未、戌の三碧は大凶なれば十年を出ずして離緣か死別れとなる、又近親に潰れ家出來る、寅、未、申、亥の二黑、五黃、八白は凶にして夫婦仲至つて惡しく常に家内に紛紜がある。

職業　建築家、美術家、油屋、藥屋、書畫骨董商、機械師、材木商、薪炭石炭商、雜穀商等は成功す。

## ●未年六白生れの相性と職業

●卯、午の一白、七赤、亥の二黑、五黃、八白は妻の内助にて家業繁榮す、寅巳申の二黑五黃八白子酉の一白七赤は夫婦仲至つて睦まし、子酉の四綠は大凶、丑戌未の六白は一家不和にして身内に家名斷絶の家がある、辰の六白は小吉、丑辰未戌の三碧九紫は凶。

職業　鍛冶工、鑛山師、理化學者及技師工夫、金物商左官、土木請負業、醫師等最も成功する。

## ●未年九紫生れの相性と職業

●卯午の四綠亥の二黑五黃八白は大吉にして一家榮え子孫多し、子酉の四綠寅巳の二黑五黃八白は良子生る卯午の七赤一白は凶、子酉の一白七赤は大凶、丑辰未戌の九紫は一家一門に變死或は家出の者がある、丑辰未戌の三碧は凶、辰の三碧は小吉。

職業　神官、僧侶、醫師、藥劑師、軍人、農業、蠶業製糸業、機織業、哲學者等は必ず成功す。

●往古より三世相と云ふ本がありますが、これは過去、現在、未來の三世に渉る因果說より各人の運命を說いたもので吾等の祖父祖母の時代には民俗信仰書として一般家庭に愛讀せられたものです、イヤ現今でも地方によりてはなほ此書を信仰して愛讀せらるゝ人々も相當にあります、此三世相は僧侶の手になつたもので現代から考へると荒誕な妄說と考へらるゝ節も多々ありますが、それは例の佛者の方便說として意に介せず、其内容に就て仔細に驗べますと是又成程と頷かれるところもあれば玆に採錄して皆さんの參考といたします。

●未の年に生れたる人は、一代の守本尊大日如來なり此人前生にては黃帝の御子にて、北斗の武曲星より米一石二斗と金子五貫匁を受け得て、今世に生れたるが故に、性質至つて溫和にして且つ忠孝の心深く、又神佛を尊とぶ心深くして慈悲心も厚ければ、他人の難義を救ふこと屢あるが故に、自づから衣食に不自由なく衣類諸道具等も派手に爲す氣風なり。

又前生にて生物の命を多く斷ちしかば、其報ゐにて今世に於て子の緣薄き故、常に心懸けて生物の命を助け、なほ神佛を祈りなば其加護によりて良き養子授かり晩年は幸福なる餘生を送ることが出來る。

又此人前生にて產神に杉の木十本植ゆる願をかけながらそれを果さず、又寺院より油九升を借りて返さゞりしかば、今世に生れ來ても其報ゐにて兎角取越苦勞多く氣の晴れ〳〵すること少なし、宜しく平常心にかけて神佛を念じ、前生の罪障を拂ふようなさるべし。

此未の年に生れたる人は、若き時に得たる財寶は身につき難し、又初緣は離れ易し、中年以後に及びて其心懸け次第にて妻緣も定まり、諸事心の儘に運び晩年は他人の美む程の富貴安樂を得るなり。

阿彌陀如來は壽命を守り、摩利支天は福德を與え、觀世音菩薩は智惠を授け給ふが故に、一代の守本尊と共によく〳〵信心なして開運を計らるべし。

# ●未年の人生れ月の運勢

**一月生れ**　は正直にして口數少なく何事も實直に務むる故、目上の引立あるも、元來陰氣の質なれば引込思案多く餘り將來を考え過ぎて反つて好機良運を取り損じ、それが爲め中年の頃心配苦勞が絶えない、宜しく心を陽氣に持ちて萬事敏捷快濶になすがよい。

**二月生れ**　は剛勇の氣性ありて氣位高きも敎育なきものは人に傲り高振り反つて人望を失ふこと多く發達せんと焦れども妨げありて願望達せず、中年の頃浮沈みありて進退に窮する程の困難がある、宜しく平常謙讓にして他人の同情あるよふ心掛けるがよい。

**三月生れ**　は溫順にして愛嬌あれば好運も度々來れども、兎角事を放任になしては失敗を招き、折角の良運に障るような行爲が多い、されど生れつき人に取り入る事は巧みなれば一意心業務に勉勵すれば中年の末より運氣追々開け晩年は大に幸福を得らる。

**四月生れ**　は內氣の樣なれども內心癇癖强ければ兎角目上に逆ひ親兄弟とも云ひ爭ひ、それが爲に早く生家を出て他家他鄕にて困難することがある、しかし生來運氣よろしき生れなれば萬事忍耐して勉勵すれば、天授の福運を全ふし晩年は幸福である。

**五月生れ**　は至つて派手好きにして交際も至極上手なれば自然人望ありて早く福運の開けることもある、兎角妬み嫉む心ありて人の立身成功を羨み彼是と批評する癖あれば反つて運氣に障ることがある、宜しく平常の言行に氣を付くるがよい。

**六月生れ**　は陽氣に見ゆるも內心至つて陰氣なれば、物哀しき話や悲哀なる小說などに耽り獨り殃々として默座獨居することが多い、それ故萬事が因循姑息に流れ兎角良機會を逸し反つて中年の運氣に滯りあれば宜しく注意して晩年の幸福を計るがよい。

**七月生れ**　は溫順にして正直なれどもはきゝせざる故、他人との交際上至つて損が多い、よく一能一藝には達すれど癇癖强くして人の言を用ゐず且つ人情にも薄き故、中年にして住所の苦勞多く他鄕に流寓する人もある、宜しく氣分を爽快に持つがよい。

**八月生れ**　は世才に通じ目上の引立ありて、初年より中年の始めに當り良運に遭遇することがある、然し兎角人の缺點を見出しては、彼是言ひたき癖ある爲め、自ら運氣を損じ、辛苦を招くことが多い、宜しく平常の言行に注意して良運を逸せざる樣爲すがよい。

**九月生れ**　は考へ深く能く人の氣を計り物事を企畫することが好きである、それ故貴人に見出され意外の幸福を得ることがあるも餘り先を見越し過ぎて自ら彼是と氣移りし反つて自巳の利益を損ずることあれば宜しく注意して餘り考え過ぎざる樣なすがよい。

**十月生れ**　は口數少なく陰氣にして剛情なれば些細の事にも腹立易く、それが爲交際上圓滿を缺き好機を取損ずることが多い、宜しく剛情一克の心を棄てゝ、短氣を愼しみ愛嬌よく人と交らば目上長上の援助ありて中年より晩年に至り幸福である。

**十一月生れ**　は短氣一克にして自分の氣に入らぬ時は、前後の考へもなく言ひ過ぎて後にて悔ゆることが多い、然し物には凝り性にて藝能なども上達早けれども中年の頃は身分の變動多く浮き沈みありて隨分辛勞あるも、晩年は案外幸福である。

**十二月生れ**　は至つて緻密にして細き事に氣がつき骨身惜まずよく働く故、目上の引立ありて相應の福運を得らるれど、中年の頃女色の爲に身を過り運勢を損ずる人もある、然し自己の缺點をよく注意すれば晩年は大いに幸福を得ることが出來る。

# ●未年の人生れ日の運勢

**子の日生れ**　は至つて正直にして人に媚び諂ふことを嫌ひ萬事によく氣が付き大事業よりも小事にて成功する人が多い、形振りかまわず賤業をも厭はざれば中年は困難辛苦することあるも、晩年には至つて安寧

幸福の餘生を送ることが出來る。

**丑の日生れ**　は表面至つて呑氣のようなれど、考へ深くして意志堅固なれば一ト度心に決したることは辛抱して成し遂げる質である、平常は言葉少なきも爲す事に實意ある故、目上の者に引立てられ意外の出世を爲すことあれば、氣移りせず萬事實直になして開運成功を計る樣心掛けるがよい。

**寅の日生れ**　は勇氣ありて快濶に事を爲せども、一度失敗する時は氣鬱を生じて心變りし中途にて廢止することがある、斯る質故商人などはよく氣を付けざれば成功を見ること難く至つて損である、運氣は中年にして意外の發達を爲すことあるも、晩年の計をなさゞれば老年反つて困窮することがある。

**卯の日生れ**　は柔和にして愛敬あれば相應の福運はある、交際も巧みなれば人望ありてよく他人に用ひられ、度々好運に向ふことあるも、兎角移り氣にして物に熱し易く又冷め易き質にて自ら運勢を損ずる如き行爲が多い、宜しく一事に辛抱して天より享けし福運を失はざる樣心掛けるがよい。

**辰の日生れ**　は表面沈着にして內心剛情である、且つ世辭愛嬌に乏しければ交際上圓滿を缺くことが多い、又一徹短慮なれども人世話はよくなす故割合に世間の評判は良い、中年の頃目上の引立ありて立身することあるも、女難の爲に失敗して晩年の運氣は少しく滯ることあれば注意するがよい。

**巳の日生れ**　は篤實にして人事にも能く世話をなせど、兎角人の善事を羨み妬む心ある爲め、其身の德を損じ運氣にも障りあれば注意するがよい、福分相應にあれば行爲を愼しみ家業に勉勵なさば、自然人望を得衆人の尊敬を受けて中年の未より運氣次第に開け晩年は大に幸福を得るのである。

**午の日生れ**　は表面陽氣の樣なれど內心偏屈にして兎角人の言に反對する癖がある、又世辭愛嬌は上手なれど人の缺點を彼是云ふ爲め反つて人望を失ひ運勢の障りとなれば注意するがよい、中年の頃一時運氣盛んなることあるも、それが爲めに酒色に耽りて身を破ることあるも、之を愼しめば晩年は必ず幸運である。

**未の日生れ**　は萬事物哀しき質にて始終心配苦勞絕えず至つて涙脆い故人事にも心配苦勞することが多い、何事を爲すにも至つて丁寧に謙遜の風あれども兎角疑ひ深く且つ取越苦勞をなすが瑕である、よく一技一藝に達し名を爲す者もあれど福分薄くして住所なども屢替り、中年は何歟と辛勞多き性である。

**申の日生れ**　は世才ありて辯舌も巧みなれど、量見至つて狹ければ人の過失を見ては大袈裟に之を吹聽し、反つて自分の怜悧を誇る如き行爲あれば、人に怨まれ度々好運を取逃すことがある元來が世才に長ずる質故自己の惡癖を改むれば必ず成功が出來る。

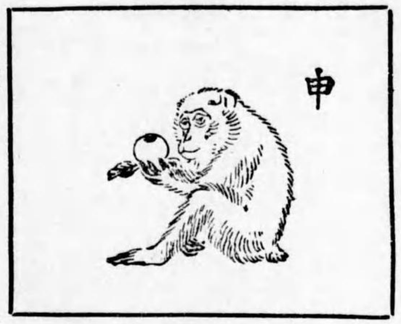
**酉の日生れ**　は物事至つて緻密にして手先の事も器用なれども彼れ是と手を出し反つて何事も成功を見ざるが缺點である、宜しく何事も氣迷ひせず一業に從事して專心に勉强なさば、性來怜悧の質故、思ひ掛けざる貴人の引立を受けて晩年の運勢は幸福である。

**戌の日生れ**　は何事にも不平多く、心中常に怒氣を含み陰險にして人を謀らんとし、又短氣一克にして薄情の處爲あれば他人の恨みを受けることがある、宜しく注意して剛情浮薄の心を捨てゝ正直なる行爲を爲すときは晩年には自から人望を得て幸福である。

**亥の日生れ**　は義俠の氣性あれば目下の者の人望を得れども兎角目上に逆ふ行爲多き故運氣は滯り勝である、又業務の上にも前後の考へを爲さず進み過ぎて反つて後悔することがある、中年の頃酒と婦人の爲に失敗し折角の好運を取損ずることあれば、宜しく此欠點に注意して實直に勉めなば自然に運氣開ける。

然し同じ未年にても乙未、丁未、己未、辛未、癸未の別あり、又三碧、六白、九紫の差ひありて其干支九星の配合により多少の差異あれば、一代の寶開運の秘書(定價三十錢)に就て詳細に知らるゝがよい。

# ●申年生れ一代の運氣




●申年生れの人は快活にして因循の事を嫌ひ、世才にも長する故によく人に取入ることは巧みなれど、自分勝手の行ひ多く、且つ物事尻のまとまりを付けぬが缺點である、又至つて器用にて發明好き故、數々なる物を考案することもある、又人より數々なる事件を持込まれ、輕卒しく之を引受け後にて自分に不利益なるときは口汚なく云ひ罵るなど、怜悧の者に不似合の事が多い、又兎角移り氣にして一事に永く辛抱すること少なき故、四十歳前後にして身分職業等を變更するか女色の爲めに身を過ることを注意するがよい、此年に生れた人は彼是と心變り氣移りせず又猥りに他人を誹謗することを慎しめば、元來が俠氣ありてよく人の世話を爲し才智も優れたれば晩年の安寧幸福は必然得られる此年生れの人は十歳前後に目上より望まれて養子などに行くことあらん、又十五歳前後に病氣あるか怪我することあれば、氣を付るがよい、十九歳頃より二十二三歳頃に至る間に一大好運の來ることがある、又二十七八歳頃に事業に失敗するか、病災あれば注意するがよい、三十三四歳頃から四十四五歳頃に大好運の來ることがある、此時に宜しく注意して老年の計を爲さざれば、晩年大に困窮することあらん、何れにせよ終身を通じ浮沈の多い運勢である、彼の有名なる中野武營、根津嘉一郎、奥田義人、服部金太郎、嘉納治五郎、神田雷藏の諸士は皆申年の生れにして其天稟の美質を發揮して、彼の如き成功を爲したのである、されば此年の生れの人は一代の守本尊大日如來を信仰し、天授の福分を享受し、大成功を爲すやう朝夕怠らず、祈願するようなすがよい。

毎月八日には供物を供えて熱心に信仰せらるゝがよい此日牛肉を食すべからず

## ●申年二黒生れの相性と職業

●辰の六白、九紫、子の七赤は大吉なれば家業繁昌し夫婦仲至つて睦ましい丑、戌、未の九紫、六白、卯、午、酉の七赤は家内和睦して子孫多し、辰の三碧、子の四綠、一白は凶である、丑、戌、未の三碧、卯、午酉の一白、四綠は大凶にして四年目か七年目に離別となる、亥、寅、巳の二黒、五黃、八白は凶なれど再緣なれば差支ない、然し申の二黒、五黃、八白は小吉にして家業繁榮す。

職業　金銀銅鐵商と其職工又は技師、遊藝者、外交員銀行員、會社員、通辯業、新聞記者等必ず成功す。

## ●申年五黃生れの相性と職業

●子の七赤、辰の九紫、六白は一家和睦す、卯、午、酉の七赤、丑、戌、未の六白、九紫は吉、子の一白、四綠、辰の三碧は凶、卯、午、酉の一白、四綠、丑、未、戌の三碧は生別れとなる、寅、巳、亥の二黒、五黃、八白は十年を出ず死別れとなる、申の二黒、五黃八白は小吉である。

職業　軍人、辯護士、鐵工、金物商、荒物屋、醫師、外交員、藥劑師、音樂家等は吉。

## ●申年八白生れの相性と職業

●辰の九紫六白子の七赤は家業繁昌子孫長久なり、卯午酉の七赤丑戌未の六白九紫は吉、子の一白四綠辰の三碧は凶、丑戌未の三碧卯午酉の一白四綠は生別れる寅巳亥の二黒五黃八白は凶、申の二黒五黃八白は吉。

職業　教師、軍人、醫師、機械技師、書畫骨董店、雜穀店、瀬戸物商等必ず成功する。

●往古より三世相と云ふ本がありますが、これは過去、現在、未來の三世に渉る因果說より各人の運命を說いたもので吾等の祖父祖母の時代には民俗信仰書として一般家庭に愛讀せられたものです、イヤ現今でも地方によりてはなほ此書を信仰して愛讀せらるゝ人々も相當にあります、此三世相は僧侶の手になつたもので現代から考へると荒誕な妄說と考へらるゝ節も多々ありますが、それは例の佛者の方便說として意に介せず、其內容に就て仔細に驗べますと是又成程と頷かれるところもあれば玆に採錄して皆さんの參考といたします。

●申の年に生れたる人は、一代の守本尊大日如來なり此人前生にては白帝の御子にして、北斗の廉貞星より米十五石と金子五貫匁を受け得て今世に生れたるが故に、性質快活にして因循の事を嫌ひ、萬事敏捷く處理なすなり、又交際上手にて且つ世話好きなれば、他人の爲に金錢や時間を空費すること多し、世才にたけ辯舌に巧みなれど輕々しく他人の言を信じて損失することあり、又前生にて人を殺したる報ゐにて目を疾ふか中氣にて惱むことあるべし、或は他國に出でゝ苦勞爲すこと多かるべし、子供には緣薄く、あれども一人も賴りとならざるなり、よく〳〵神佛を祈りて子孫の緣厚きよう加護を受けらるべし。

又此人前生にて主人の施行の錢を掠めたる報ゐにて今世に生れ來て屢〻思ひよらざる災難損失を招くことあるべし、又早く故郷を離れて苦勞すること多し、よく〳〵神佛を念じて罪障を拂ふよふなさるべし。

此申の年に生れたる人は、父母兄弟の力は得がたしされど女子は良き夫を持ちて衣食に不自由することなかるべし、男子は常に口舌事絕えざるか又は訴訟爭ひ事多かるべし、神佛を信仰するがよい。

觀世音菩薩は壽命を守り、勢至菩薩は福德を與え、北辰妙見は智惠を授け給ふ故、一代の守本守と共によく〳〵信心なして開運を計らるべし。

# ●申年の人生れ月の運勢

**一月生れ**は怜悧なれども剛情にして我意を言張る癖あれば粗密なる朋友に乏しい、又些細の利益を彼是と爭ひ、大なる事には反つて無頓着ゆゑ中年には艱難苦勞多く度々業務を變ずるか本業以外の事に手を出して大失敗をなし、自暴自棄に陷ることがある。

**二月生れ**は仁俠の氣風ありて常に大なる事を好み、隨分役に立つ人物ではあるが、間々奸智を圍らして不正の行爲をなし國法に觸るゝこともある、それ故中年の運勢は波瀾多く晩年の運勢なども善ければ大層よく、惡しければ意外の困難に遭ふことがある。

**三月生れ**は溫順にして怜悧なれば衆人の愛敬を受け目上や貴人の引立ありて意外の立身出世を爲すことがある、然し物事緩慢にしてなげやりに爲す癖あれば長き年月にわたる事業は成功を見ること出來ず、折角の良運を損ふゆゑ注意するがよい。

**四月生れ**は活潑なれども癇癪强ければ知らず知らず慘酷の行爲をなし世間の評判惡しく意外の災難を招くことあれば言語を愼しみ行動を穩やかになすよう注意するがよい、中年の頃運勢一時盛んのことあれば、其時心を締めて晩年の開運を計るがよい。

**五月生れ**は愛敬ありて交際も巧みなれば自然人望ありて福運强く、中年の頃貴人目上の引立ありて思はざる出世を爲すことがある、又投機的の事は好きなれど、多くは失敗勝なれば小を積んで大と爲すよう心掛れば中年晩年共に良運である。

**六月生れ**は自己の力を量らずして常に大なることを好み、大言を吐きては間々心にもなき虛言を云ひ自ら信用を損ふ行爲がある、然し中年の頃一時人の羨む程の盛大なる運勢に遭遇することあるも注意せざれば晩年は甚しく困難することがある。

**七月生れ**は生れつき實直にして至つて人世話多くそれが爲に意外の損失がある、又物事一時的の熱

心なれば何事にも器用であるが奥儀に達することは稀である、斯る質なれば中年の頃住所業務の心配多く、且つ人の爲に判證文に係はる意外の損失がある。

**八月生れ**　は活潑にして俠氣あれば、身を忘れて人を救ふことが多けれど、椽の下の力持ちの如き行爲が多い、又何事にも熱し易く又冷め易き質故締括り付かず不成功に終ることが多い、それ故中年の運勢にも浮沈多ければ注意するがよい。

**九月生れ**　は世才に長け世間の交際も甚だ巧みであるが、少しく不利の事に出遇ふときは他人を煽動し、自分は其利益のみを得んと謀る故、人より怨みを受け反つて自已の發達に障りがある、宜しく自已の欠點を慎まざれば晩年は大に困難する。

**十月生れ**　は溫順なれども、兎角片意地にして人を輕蔑し目上の意見も表面は從ひし樣に見せて其實反つて反對の行爲をなすなど兎角他人の嫌ふことを好むで爲すことありて交際上至つて損の質なれば此惡癖を改めねば終身の運勢に障りとなる。

**十一月生れ**　は活潑剛毅の氣性あれば稀には大事をなし成功する人もあれど大抵は自ら進むで入らざる人事に關係して身分不相應の散財をなすか爭論の爲に怪我することがある、初年は運勢至極よろしきも中年の頃女難の爲に失敗がある。

**十二月生れ**　は偏屈にして人を容るゝ度量なく至つて人望に乏しければ親兄弟の緣薄く、又親密なる友人も少ない中年の始め一時運氣の盛んなることあれば此時に當り注意せざれば晩年に至るも、なほ非運に悲むことあれば注意するがよい。

## ●申年の人生れ日の運勢

**子の日生れ**　は輕薄にして辯舌爽かなれば間々目上の引立によりて立身なすものあれど、多くは人の事を彼是と批評し、自已の福運を損ずる人が多い、慾心深く何歟と本業以外の事に手を出し意外の失敗をなすことあれば氣を付けるがよい。

**丑の日生れ**　は考へ深く才智あれば福分の薄き割合には甚しく困難することはない、少しく强情の質故目上の言を用ひず我意をのみ通さんとし反つて終身の運氣に支障を來すことあれば注意するがよい、宜しく他人の忠言を用ゐ着實に適業に從事なさば、中年の末より晩年に至り、運勢次第に幸福となる。

**寅の日生れ**　は活潑にして勇氣あれば間々投機的の業を爲して成功することあるも、自慢心强き故、勢に乘じ過ぎ反つて失敗すること多ければよろしく注意するがよい、生來强氣の質なればよく百難を排して成功し中年の頃殊の外運勢盛んなることあれば晩年の運氣に支障なきよう氣を付けるがよい。

**卯の日生れ**　は物靜かにして世才あり、他人との交際も巧みなれば相應に人望ありて運勢も至つて盛である、然し物事放任になす性なれば諸事企畫なす割には何事も纏りつかず、それが爲に折角の運勢を取損ふことがある、宜しく心を堅固にして其欠點を改めなば中年の運勢は勿論晩年も亦幸福である。

**辰の日生れ**　は活潑なれど我儘一克にして他人の言を用いず、又向上心のみ强くして兎角尻の始末を付くることを忘るゝ故それが爲折角の好運を取り損ずることが多い、然し因循姑息を嫌ひ何事もテキパキとなす質ゆゑ、中年の頃意外の成功を爲すことあれば、晩年の幸福を計るよう心掛けるがよい。

**巳の日生れ**　は表面至つて柔和に見ゆるも、內心は勝氣にして負くる事を嫌ふ故、身分不相應の大事も隨分辛抱なしてまゝ成功なす人もあれど、天禀の性質上なるべくは、大事より小事を怠らず爲すよう努めなば自然長上の引立を得、又他人の信用を得て、天授の福運を完ふすることが出來るのである。

**午の日生れ**　は活潑にして愛嬌あれば人付合ひ至つてよろしく、人望も相應にあれど實意の少なきが欠點である、萬事派手にして隨分身分不相應の事業を爲

すも間々成功することがある、然し多くは自慢心強く人を輕蔑し、それが爲に中年以後の運勢に障ることがある、宜しく注意するがよい。

**未の日生れ**　は才智ある爲反つて何かと取越苦勞多く煩悶絶ざる質である、中年の頃は人世話多ければ損失散財を注意するがよい、又住所の心配ありて大事を爲さうとする志望を持ちながら兎角奮勵して行ふ勇氣に乏しければ大なる發展は出來ない。

**申の日生れ**　は怜悧にして義俠の心あれば自ら進むで人事に付き世話心配をなせども熱し易く冷め易き質故徹底的になさず中途にて厭氣を生じ、反つて其人を罵ることなどありて自己の運勢に障ることあれば注意するがよい、諸事器用にて辨才巧なれば正實に事を爲せば目上の引立を得て成功することが出來る。

**酉の日生れ**　は世才に長け諸人の人望を得、屢好運に遭遇することあるも、あまり先を見越し過ぎ或は他人を僞るなど、兎角權謀術數を好みそれが爲に反つて運氣を損じ中年は何歟と辛勞多きも、諸事實直になせば晩年は至つて幸運である。

**戌の日生れ**　は正直にして要心深き故他人より見れば諸事偏屈の樣である又內心人を輕蔑する氣あれば人望を損ずる事多く、布ひて運勢上にも何歟と支障が多い、宜しく注意して常に愛敬よく交際上圓滿を計るよう努めなば、初年中年は辛苦艱難多くとも、晩年は自から幸福を得て安樂なる餘生を送ることが出來る。

**亥の日生れ**　は活潑にして勇氣あるも、あまり潔白に過ぎて人を容るゝの雅量に乏しき故兎角人望は薄い、然しよく人の氣を計り長上に取入ることは巧みなれば、さして衣食に不自由はないが初年中年の頃、喧嘩爭論で怪我する故注意するがよい。

然し同じ申年にても甲申、丙申、戊申、庚申、壬申の別あり、又二黑、五黃、八白の差ひありて其干支九星の配合により多少の差異あれば一代の寶開運の秘書（定價三十錢）に就て詳細に知らるゝがよい。

# ●酉年生れ一代の運氣

●酉年生れの人は考え深くして彼是と本業以外の事にて利益することがある変際も至つて巧みに且つ人の世話も親切なれど氣移り勝にして物事締括りがつかぬ、されど運勢は惡いほうではないが、氣の多き質故、屢業務を變更するか、或は本業以外の事に手を出して失敗し、折角の運氣を取損ずることが多い、宜しく注意緊要である、又中年にして女難を愼しまざれば生涯の運勢に障りありて意外の災厄來ることあれば、是又氣を付くるがよい、又投機的の事業は性來好めるところなれば、細心の注意を爲さば大なる失敗もなく、まゝ成功することあれど多くは餘り先を考え過ぎて失敗することが多い、此年の生れの人は、八九歲の頃他より養子に望まるゝか、十一二歲にして目上の引立を受け幸ひを得ることがある、又十三四歲頃病災あるか、又は怪我することあれば注意するがよい、十七八歲頃か二十一二歲頃運氣宜しく、長上の引立を受けて意外の出世を爲すか、又獨立して一大利益を受くることがある、二十五六歲頃近親に別るゝか、又は人事の爲に意外の損害がある、三十五六歲頃中年の幸運來ることあらん、又四十四五歲頃か五十三四歲前後に再び良運の來ることがある、此時に當り心を締めて晩年の計をなさば老年大に安寧幸福を得るのである、彼の有名なる河野廣中、大倉喜八郎、板垣退助、戶水寬人、安川敬一郎の諸士は皆酉年の生れにして、其天稟の美質を發揮し彼の如き成功を爲し得たのである、されば此年の生れの人は一代の守本尊不動明王を信仰し朝夕祈願を込めて、天授の福分を享授し大成功を爲す樣一心に心掛けるがよい。

毎月廿八日には供物を供え熱心に信仰せらるゝがよい此日四ツ足を食べからず

## ●酉年一白生れの相性と職業

●丑、辰の三碧、六白は家門榮ゆ、戌、未の六白、三碧は吉、丑、辰、戌の九紫は大凶、酉、卯の一白は十年を出ず死別れとなる、子、午の一白は子に縁薄し、卯、酉の四綠、七赤は家に紛紜絶えず、子、午の四綠七赤は子孫育たず、寅、申、巳、亥の二黑、五黃、八白は凶である。

職業　醬油屋、金物商、金銀細工職、氷屋、料理屋、旅人宿、飲食店、藝人などは必ず成功する。

## ●酉年四綠生れの相性と職業

●丑、辰の三碧、九紫は家業盛大にして子孫長久である、戌、未の三碧、九紫は家内和合す、丑、辰、未、戌の六白は凶、酉、卯の一白は大凶なれば夫婦の間は睦じきも多くは死別れとなる、子、午の一白は小吉、子、卯、午、酉の七赤は大凶、酉、卯の四綠は大凶にして十ケ年の緣は保たない、子、午の四綠は小吉、寅申、巳、亥の二黑、五黃、八白は大凶にて子供に緣が薄い

職業　法律家、新聞記者、諸官吏、宿屋業、紙製造業美術家、通ひ番頭、諸會社の外交員等成功す。

## ●酉年七赤生れの相性と職業

●丑、辰の六白、巳の二黑、五黃、八白は富貴繁榮にして仕合よし、寅、申、亥の二黑、五黃、八白は吉、辰、丑、未、戌の三碧、九紫は大凶、子、午、卯、酉の一白、七赤は四年か七年に死別れとなる、子、午、卯、酉の四綠は大凶なれど何れか再緣なれば治まる、未、戌の六白は吉である。

職業　鑛山師、水車業、回漕店、音樂師、金物商、意匠家、保險會社外交員、金貸業及び外交員等成功す。

●往古より三世相と云ふ本がありますが、これは過去、現在、未來の三世に渉る因果說より各人の運命を說いたもので吾等の祖父祖母の時代には民俗信仰書として一般家庭に愛讀せられたものです、イヤ現今でも地方によりてはなほ此書を信仰して愛讀せらるゝ人々も相當にあります、此三世相は僧侶の手になつたもので現代から考へると荒誕な妄說と考へらるゝ節も多々ありますが、それは例の佛者の方便說として意に介せず、其內容に就て仔細に驗べますと是又成程と頷かれるところもあれば玆に採錄して皆さんの參考といたします。

●酉の年に生れたる人は、一代の守本尊不動明王なり此人前生にては白帝の御子にして北斗の文曲星より白米二石と金子七貫匁を受得て今世に生れたるが故に、性質心潔ぎよく忠孝の道をわきまへ、學問を好み是非を辯するが故に他人の世話苦勞多し、されど自分の力量を計らず大なる事を企つるも、兎角厭き易き質にて纏まりのつかざること多し、それ故初年より中年迄は住所も幾度か變り、又他人の爲に損失をなすこと多かるべし、よく神佛を敬ふときは自づから幸福を授かり晩年は意外の福運を招くことあるべし。

又此人前生にて、橋より落ちて水に溺れんとする者を助けたる功德により今世に生れて衣食に不自由することなきも、前生にて神佛に寄進なす金を五兩掠めたる報ゐにて妻緣薄く初緣にて治まらざるなり、子供あるとも早く手元より離れ一人も賴りとならず年老ひて難儀することあるべし、よく〳〵神佛を念じ其加護を受くるよう心懸けらるべし。

此酉の年に生れたる人は、財祿に滿つるも他人の爲に費消すること多からん、又內臟の病にて惱むべし、よく善根を施して無病長生を心懸けらるべし。

毘沙門天は壽命を守り、阿彌陀如來は福德を與え、虛空藏菩薩は智惠を授け給ふが故に、一代の守本尊と共によく〳〵信心なして開運を計らるべし。

# ●酉年の人生れ月の運勢

**一月生れ**　は手先は至つて器用なれば一藝に達するもの多く、福分は薄きも其藝能を活用して衣食に窮することは少ない、然し人を見下す癖ありて人望を損じ中年の頃は波瀾多く住所等屢替ることあるも、さしたる災害もなく、晩年は至つて安樂である。

**二月生れ**　は活潑にして勇氣あれば萬事敏捷に働き、長上の引立を得て立身することがある、然し中年の頃は自ら求めて心勞することあるも元來が運氣良しき生れ故獨立して事を爲しても勇氣果斷なれば一方の長となり立身成功することが出來る。

**三月生れ**　は愛嬌ありて交際も巧みなれば貴人の引立を得ること屢あるも兎角我儘勝手の振舞多き故自分より運勢を取逃すことが多い、中年の始め運勢一時盛んなるも斑氣の爲に取損じ反つて困窮することがある、然しよく注意すれば晩年はさしたる支障はないも考え過ぎて取越苦勞多く、折角の時期を取損ずることが多い、されば商工業等に從事するときは大なる發展は期し難ければ寧ろ文學技藝に身を委ぬるがよい。

**八月生れ**　は至つて恰悧にして世才に長けたればよく人の氣を計り目上に取入ることは至つて上手である、然し才智に任せ常に策略を運らし、他の機會を利用して自分を利せんとする故、人望を損じ中年の運勢は波瀾多く、住所業務も屢變更することゝなる。

**九月生れ**　は手先器用なれども、常に自分の利益のみ考えるため思はぬ失敗を招くことがある、中年の頃は運勢に浮沈多く隨分困窮することあるも衣食に窮する程の事はない、それ故自らよく努めて天賦の薄運を補ふよう心掛けるがよい。

**十月生れ**　は至つて偏屈にして自分の利害の爲には隨分殘酷の所業をなす故處世には巧みなるも人望は至つて薄い、然し何事にも辛抱强き質なれば初年より中年の始めに當りよく人に用ひられ好運來るも偏屈の爲取損じ晩年困窮することあれば注意するがよい。

**十一月生れ**　は勇氣ありて決斷力强く、何事にも勇往邁進し、脇目も振らず熱心なれば間々大事を成すことあれど、元來熱し易く冷め易き質故、中途にて厭氣を生ずることあれば初年の運勢は宜しきも、中年の頃は波瀾浮沈多く晩年の運氣に滯りがある。

**十二月生れ**　は世才に長じ交際も上手である、それ故人望はあるが兎角些細の利益のため自分勝手の行ひ多ければ折角の人望を失ひ、反つて人に疎外せらるゝことがある、然し思慮分別もあり萬事器用故中年の運氣は平穩なれども、晩年は氣を付けるがよい。

# ●酉年の人生れ日の運勢

**子の日生れ**　は溫順にして萬事に綿密なればよく節儉にして蓄財をなすことあるも時に投機的の事業に手を出し失敗なすことあれば心に止めて愼しむがよい初年より中年に至る迄、運氣は至つて平穩にして萬事

**四月生れ**　は高慢にして人を見下す氣風ありて人望薄き爲め人より災害を受くることあれば、氣を付るがよい、初年の末か中年の始め良運意外に早く來ることあるも自負心强き爲め、他人の信用を失ひ反つて困窮するも心掛次第にて挽回することが出來る。

**五月生れ**　は智慧深く數々工夫を運らして發明などなして思ひ掛けぬ目上の愛顧信用を得人の羨む程の身分となることができる然し此の性の人は色情の爲に良運を取り損じ、中年の盛運も一時の夢となることあれば氣を付けるがよい。

**六月生れ**　は活潑にして勇氣あれば何事を爲すにもてきはきとなして至極心持よき質である、然し忍耐力に乏しく何事も長き辛抱出來ず中途にて廢することが多い、されど萬事に器用なれば他人に重寶がられ晩年に至り運氣盛大となる。

**七月生れ**　は表面柔和の樣なれども、內心邪智深くよく人の氣を計り、常に大なることを計畫すれど

順調なれども、晩年の運氣に少しく支障あれば中年の時それに對する心掛けが肝要である。

**丑の日生**れ　は實直にして物堅ければ見掛けは愚直の樣なれども、内心至つて才智あり深く考慮して萬事を企畫する故大なる失敗は少ない、又人によりては遠慮勝にて一能に達するもそれを活用する才に乏しきものが多い、斯る質なれば商人などよりは、技術家又は文士學者或は藝人などが適業である。

**寅の日生**れ　は勇氣ありて活潑に且つ交際も至極巧なれば、よく長上の引立を得て成功するものが多い又投機的の事を好み間々成功するものもあれど、兎角進むことのみを知りて退くことを知らざれば失敗して中年の運勢に波瀾浮沈多く、晩年まで天賦の良運が保てない憾みがある。

**卯の日生**れ　は柔和にして交際も上手なれば、よく長上の氣を謀り之に取入ることは巧み故立身成功も至つて早い、然し思慮決斷に鈍くして萬事決行するに遲く屢良運を逸することあれば中年の盛運時期に於てよく將來を氣を付けるがよい。

**辰の日生**れ　は活潑にして勇氣あれば兎角人を見下し僅かの事にも爭ふ氣風ありて人望を損じ運氣に障りがある、よろしく慎しむがよい、然し弱きを扶ける氣性なれば目下の者の氣受は至極宜しく請負業、人夫頭、職長、或は會社銀行の頭取となりて部下の信用を得大に社會に名聲を揚げる人もある。

**巳の日生**れ　は溫順にして詞少なく外見甚だ柔和なれども、内心剛毅の氣象あれば隨分難澁の事に遭遇するもよく忍耐して間々成功を爲す者もある、それ故初年の末より中年の頃は數々困難あるもよく是に堪え老年大ひに幸福を得る、然し男女共派手好きにて女難色情の爲に身を誤ることを慎しむがよい。

**午の日生**れ　は快活にして人附合ひよく、長上の引立を受け意外の立身出世をすることがある、又常に外出旅行を好み餘り家に落付居らざる質なれば、外交官、地方得意廻りなどは客受よく自然營業繁榮である、然し派手好きにて虚榮を張り過ぎ身分不相應の借財にて反つて困難することあれば注意するがよい。

**未の日生**れ　は正直にして敬神の念厚く人事にも至つて親切なれば、それが爲始終他人事にて難義苦勞が多い、又才智あれども取越苦勞多く先きを案じ過ごして折角の好運を取損ふことがある、よろしく常に精神を快濶にして諸事敏捷に決斷を早くせざれば中年に於て一時盛運のことあるも老年の運氣に障りがある。

**申の日生**れ　は因循姑息のことを嫌ひ、敏捷にして世才あればよく人に用ひられ、又交際も巧妙なれば相應の立身出世を爲すものもある、然し斑氣にして厭き易く辛抱出來ぬ故成功すべきことも中途にて廢し折角の好運を逸し中年の頃は住所業務など屢々替え自分から辛勞を求め困難することが多い。

**酉の日生**れ　は才智ありて如才なく交際は巧みなれども彼是と業を替え又人事にも何歟と世話奔走を爲し、金錢や時間を空しく費やすことが多い、それ故中年の頃は住所も屢々替り、波瀾曲折の多い運勢である然し晩年は子供の爲に安樂の身の上となれる。

**戌の日生**れ　は實直にして義理堅き質なれば他人の事は至つて親切になせど腹立易くして肝癪持ちゆゑそれが爲に交際上の圓滿を缺くことがある、斯る質故商業等は餘り適せない、工業農業又は學藝等を以て世に立ち能く努むれば意外の發達成功は得られる。

**亥の日生**れ　は豪邁にして萬事に決斷速く何事もてきはきとなす故、目上の引立ありて若年の頃意想外の出世を爲すことがある又獨立して事業を營み中年の頃屢好運に出遭ふことあれば、其機を逸せず晩年の計を爲す樣心掛けるがよい。

然し同じ酉年にても乙酉、丁酉、己酉、辛酉、癸酉の別あり、又一白、四綠、七赤の差ひありて其干支九星の配合により多少の差異あれば、一代の寶開運の秘書(定價三十錢)に就て詳細に知らるゝがよい。

# ●戌年生れ一代の運氣

●戌年生れの人は正直にして義理人情に篤ければ官吏會社員又は商店の店員等となりて主人長官の信用厚く隨分重要の地位に拔擢せられ、人の羨む程の出世を爲すこともある、然し兎角偏屈にして人を好嫌ひ、自分の氣に入らざるものには、口もきかざる風ある故、親族や朋友と疎遠になることが多い、然し人事にも世話苦勞多く、義理合ひの爲には金錢時間を徒費することが多い、又形振かまはず稼げども何事にも理屈張り其結果怪我過ちあるか或は劍難に遭ふことがある、時々心中に大事を企むも、兎角先を案じ過し躊躇ふ意があるが故、決して投機的の業はなさぬがよい、又身分不相應の事を爲して失敗し、中年の運氣を損ずることあらば、晩年に至りて甚しき困厄に陷ることゝなる、よろしく氣を付くるがよい、されば十七八歳頃か、二十一二歳頃に長上の引立を受け、年の割合には重用せられて勤め人などは此時期に立身の緒を得るのである、又獨立して營業なす人も勤勉なるが爲、人より信用を受け思はぬ人の助力を得ることがある、三十歳前後に病災あるか怪我を爲すか、又は事業の失敗あるか、何れ災厄は免れない、三十五六歳頃か、或は四十一二歳より四十四五歳の頃に一大良運の來ることあれば此機會を逸せずして終身の計を爲すがよい、彼の有名なる大隈重信・山縣有朋、西園寺公望、濱口吉右衛門、前川太郎兵衛、島田三郎、黑岩周六の諸士は皆戌年の生にして其天稟の美質を發揮し、彼の如き成功を得たのである、されば此年の人は一代の守本尊八幡大菩薩を信仰し、一家の安寧息災は勿論、大成功を爲す樣平素祈願するがよい。

毎月十五日には供物を供えて熱心に信仰せらるゝがよい此日鳩を食すべからず

## ●戌年三碧生れの相性と職業

●卯午の一白四緑は家業繁榮子孫多し、子酉の一白四緑は夫婦仲睦しく良子多い、子午卯酉の七赤は大凶、丑辰未戌の六白三碧は永く添ふこと出來ず生別れか死別れとなる、丑辰未の九紫は凶、戌の九紫は小吉、寅申巳亥の二黑五黃八白は凶である。

職業　神官、僧侶、賣藥商、醫師、藥劑師、食料商材木屋、大工職、建具職、挽物職、木挽職など成功する

## ●戌年六白生れの相性と職業

●卯午の七赤一白、寅の二黑五黃八白は大吉なれば妻の內助により意外の成功を爲し家業繁榮す、子酉の七赤一白、巳申亥の二黑五黃八白は吉、卯午の四緑は凶子酉の四緑、辰の三碧九紫は三年を出ずして離緣となる、丑戌未の三碧九紫は大凶なれば家內に病人絕えず丑戌未の六白は十年を出ずして死別となる、辰の六白は小吉なれど家內睦ましい。

職業　金物商、鑛山師、製金師、金銀細工職、土木請負業、角力取り、製玉師、硝子職及び商店など成功す

## ●戌年九紫生れの相性と職業

●卯、午の四緑、寅の二黑、五黃、八白は家內和睦して子孫多し、子、酉の四緑、巳、申、亥の二黑、五黃八白は夫婦仲至つて睦まし、子、午、卯、酉の一白、七赤は凶、丑、未の九紫、三碧は凶、辰、戌の九紫は七年の內に死別す、丑、辰、未、戌の六白は大凶、戌辰の三碧は小吉である。

職業　建具職、大工職、指物職、團扇製造販賣業、製本業、活版印刷業、筆墨商、理髮業等成功す。

●往古より三世相と云ふ本がありますが、これは過去、現在、未來の三世に渉る因果説より各人の運命を説いたもので吾等の祖父祖母の時代には民俗信仰書として一般家庭に愛讀せられたものです、イヤ現今でも地方によりてはなほ此書を信仰して愛讀せらるゝ人々も相當にあります、此三世相は僧侶の手になつたもので現代から考へると荒誕な妄説と考へらるゝ節も多々ありますが、それは例の佛者の方便説として意に介せず、其内容に就て仔細に驗べますと是又成程と頷かれるところもあれば茲に採録して皆さんの參考といたします。

●戌の年に生れたる人は、一代の守本尊は八幡大菩薩（阿彌陀如來のこと）なり、此人前生にては赤帝の御子にして北斗の祿存星より米二石と金子八貫匁を受得て、今世に生れたるが故に、心正直にして義理堅ければ長上の信用厚く、朋友との交際も親密なり、辛抱強きが故に能く艱難を凌ぎて成功なすことあるべし、されど強情偏屈のところあれば理非に係はらず自分の意見を徹さんとして、意外の失敗を招くことあればよろしく注意せらるべし。

又此人前生にて能く神佛に仕へ、又首を縊らんとする者を助けたる報ゐにて衣食に不自由することなく、又智恵ある妻を娶り、子孫の内に名を顯はす者あるなり、然し前生にて寺院の油を三升借りて返さざることありたれば、其報ゐにて今世にて眼を疾ふか又は口中の病に罹り難儀することあれば注意すべし、よく〳〵神佛を祈念して其加護により無病長壽を保つよう心懸けらるべし。

此戌の年に生れたる人は、心正しく勇氣あれば、思ひ立ちたる事は大抵一度は成就すれど、又失敗も速かなり、中年の半ばより晩年の初め運氣滯るなり。

毘沙門天は壽命を守り、觀世音菩薩は福德を與へ給ひ普賢菩薩は智恵を授け給ふが故に　一代の守本尊と共によく〳〵信心して開運を計らるべし。

# ●戌年の人生れ月の運勢

**一月生れ**　は偏屈にして氣短かなれば僅かのことにも兎角人と爭ひそれが爲に福運を損ずる事が多い中年の頃、住所業務に就て心配苦勞ありて運勢も餘り發展せざるも晩年はさしたる障りなく子供のために安樂の身の上となることが出來る。

**二月生れ**　は剛慢にして人を見下し何事に付けても自分勝手の振舞が多い、然し他人の事は何かとよく世話なす故一部の人には評判がよい、中年の頃爭論の結果怪我することあれば氣を付くるがよい、稀れには大なる成功を爲し晩年安樂の人もある。

**三月生れ**　は愛嬌ありて交際は巧みなるも、物事至つて緩慢なれば萬事思ふように捗らぬ、表面は陽氣に見ゆれど内心憂鬱なれば、常に閑靜を好み默座することが多い、初年より大人の如き風あれば物の役に立ち、目上の引立ありて立身出世が出來る。

**四月生れ**　は偏屈剛情にして亂暴を爲す癖がある、それ故朋友又は同業者間に敵を多く造る象ちがある、しかし本人の心掛けによりては物の頭となる性あれば、善良の教育を受け身の修養を怠らざれば老年は意外の安寧幸福を得ることが出來る。

**五月生れ**　は溫和にして正直なれども、掛引に疎き故業によりては發展爲し難い、しかし相應の福運あれば文學工藝或は藝術家となりて大に名聲を揚ぐることもある、然し中年にして氣鬱症に係り厭世の念を起し易ければ常に心を快潤に持つよう心掛るがよい

**六月生れ**　は福分あれど普通の人には反つて凶である、それ故金錢の融通よきも散財多く永く保つことは出來難い、初年の運氣は宜しからざるも、中年は人の羨む程の運氣盛大となることあれば此時に晩年因難せざるよう心掛けるがよい。

**七月生れ**　は柔和なれども僻み根性ありて兎角人の成功出世を羨みそれが爲に交際上圓滿を缺き孤立

となりて親しき友は至つて少なく運氣に障ることが多ひ、然し初年中年の頃住居に變動の多きものは反つて老年に至り安寧幸福を得ることが出來る。

**八月生れ**　は萬事器用にして世才あればよく目上に取入ることは巧みなれど、自負心強くして人に負くることを嫌ふ故、他の成功を見ては彼是批評する癖ありて交際上不利益を招くことが多い、宜しく注意して天授の福運を享くるよう爲すがよい。

**九月生れ**　は怜悧にして才智あればよく人を計るも、物事先を見越し考え過ぎて反つて損失することが多い、福運も相應にあれど兎角才に任せて事を爲し折角の好運を取損ふことあれば注意するがよい初年中年は餘り面白き事なきも、晩年は至つて幸運である。

**十月生れ**　は正直にして短氣なれば怒り易く腹の中にて人の失策を喜ぶ風がある、その上偏屈にして氣六ケ敷質なれば兎角交際の圓滿を缺き、自ら運氣を損じ薄倖を嘆くことが多い、宜しく心を快濶に持ち諸人の愛敬を受くる樣なすがよい。

**十一月生れ**　は勇氣ありて活潑なれば諸事卒直にして愛嬌に乏しく、自分勝手の行ひ多く親兄弟にも厭きらるゝことあれば朋友とも長く親密の交際を爲すことは少ない、宜しく注意して善行を爲すよう努めねば晩年の安樂は得られない。

**十二月生れ**　は溫順にして物事凡て綿密なれば官吏、事務員などはよく長上の信用を得れども、偏屈にして人を好嫌ひを爲す故、友人間の氣受けは甚だよくない、宜しく注意して交際の圓滿を計らば、晩年の安寧を得ること疑ひないのである。

## ●戊年の人生れ日の運勢

**子の日生れ**　は溫順にして義理堅く、細かの事に氣が付き至つて經濟上手である、又愛嬌ありて人の交際は巧みなれど、兎角金錢を出し惜み卑吝の行ひ多ければ、親戚朋友間にも彼是批評さるゝことが多い、中年の頃住所の苦勞多く、營業も屢替えることあるも心掛け次第にて晩年大に幸福の餘生を送ることが出來る

**丑の日生れ**　は偏屈にして短氣なれば僅かのことにも腹立易い、天與の福運は薄けれども形振りかまはず稼ぐ性なれば大なる困窮はない、又詞少なく無口なれども、內心常た怒り絕えざる故、兎角物事意に滿たず、一時に怒りを發し、取返しの就かざる事を仕出かすことがある、平常心に止めて注意するがよい。

**寅の日生れ**　は活潑にして勇氣あれば諸事敏捷なれども、剛慢にして謙遜の態度なき故交際上圓滿を缺くことが多い、然し名譽心旺んなれば隨分人の爲にも世話苦勞多ければ中年の頃金錢の心配多く又劍難の恐れがある、宜しく注意するがよい。

**卯の日生れ**　は溫順にして世辭愛嬌あれば、諸人の人望ありて相應に福運あれども兎角物事放任にして自ら失敗を招くことが多い、又閑靜を好み獨り坐して默想に耽るなど兎角多情多感の質である、それ故初年より悲哀の情深く涙脆き質なれば、商人などよりは、文學工藝などにて名を揚げるものが多い。

**辰の日生れ**　は剛情にして我慢一克なれば小事にもよく人と爭ふ氣風ありて初年の頃目上に逆ひ早くより生家故郷を離れ、他人の所へ出て艱難辛苦を爲すものが多い、此性の人は善惡共に極端に奔る質なれば其人の素行如何によりて大成功を爲すものもあれば又罪惡を犯して刑罰に觸れるものもある。

**巳の日生れ**　は柔和にして外見甚だ穩かなれば考え深く度量あるように見ゆるも、內心は邪智深くして猜疑心あれば何事にも氣を廻し過ぎ煩悶多き質である、されば思慮深き性に似合ず些少の事も氣に懸けて憂鬱症に陷り中年の頃氣病みして疾ふか、又は考え過ぎて良運を逸することあれば注意するがよい。

**午の日生れ**　は溫和にして陽氣なれども傲慢浮薄の行ひありて人に憎まるゝことが多い、然し相應の福分ありて金錢の出入多ければ、自然人の世話奔走を爲

して散財する、然し又人に取入ることが巧みなれば中年の頃早く成功して人の羨む身分となるも屢業務住所を替え反つて晩年困難するゆゑ注意するがよい。

**未の日生れ**　は柔和にして正直なれば自然不活潑にして因循である、物事先を案じ過ごして取越苦勞が多い、又愚痴にして兎角人のことを嫉み羨む癖がある且つ派手なる交際を嫌ひ詞少なき質故、商工家などよりは美術家又は宗教家となりて名を揚げるもの多けれども中年は至つて辛勞多き運勢である。

**申の日生れ**　は敏捷にして世才あれば他人の爲に利用さるゝことが多い、人に負くることを嫌ひて自負心强き故、自ら進むで人の面倒を引受け、反つて後悔することもある、又移り氣故方針定まらず、中年の頃流離艱難することあれば宜しく注意して一定の業を守り晩年の安康を計るよう心掛けるがよい。

**酉の日生れ**　は才智ありて世辭愛嬌あれば世間の評判は宜しきも、身の分限を計らずして大なることを企て却つて失敗を招き中年の頃身に浮沈多く度々住所業務を替え、折角の良運を損じて晩年甚だしく困窮なすことあれば氣を付るがよい。

**戌の日生れ**　は偏屈短慮にして怒り易き質なれば親兄弟とも仲惡しく、早く故郷を去りて他郷で暮すことゝなる、然し辛抱强くして艱難困窮に堪える故まゝ大事業に成功するものあるも、大抵は短慮一克の爲に自ら福運を損ずるものが多い故注意するがよい。

**亥の日生れ**　は剛情一徹にして自分勝手の行ひ多いため永く人と親密の交際が出來ない、しかし善惡ともに至つて强き質なれば隨分心掛次第にて大成功を爲すものもあれど多くは强情の爲に他人の忠言を聞かず失敗することあれば注意するがよい。

然し同じ戌年にても甲戌、丙戌、戊戌、庚戌、壬戌の別あり、又三碧、六白、九紫の差ひありて其干支九星の配合により多少の差異あれば一代の寶開運の秘書（定價三十錢）に就て詳細に知らるゝがよい。

# ●亥年生れ一代の運氣

●亥年生れの人は剛毅の氣象ありて正直なれば隨分艱難に遭遇することあるも之に堪えて間々成功を遂げるものがある、然し剛情にして負けず嫌ひ故、兎角人と喧嘩爭論を爲すことが多いそれ故七八歳か十二三歳の頃怪我するか、又は大病にて惱むことがある、又十六七歳の頃目上の引立を得て、立身の緒を得る場合もある、然し十九歳より二十二三歳に至る間に色情の失敗あるか又は人の立身成功を嫉み、彼是と惡ざまに云ひ罵る爲、爭ひを起し怪我することがある、又二十四五歳か、二十八九歳ごろ獨立して、業務を取り隨分營業も盛んに爲す人もあるが兎角剛情一徹にして、他人の忠言を用ゐざる爲に意外の失敗を招くことがある、中年の頃は投機的の事を好み山かゝりし事業に手を出し一擧にして巨萬の富を得ようとする質である、それ故運勢に波瀾ありて浮沈多く隨分困難することもあるが又隨分面白いこともある、三十六七歳か、四十三四歳の頃に病災あるか、或は事業に就ての心配が起る、甚しきは最愛の妻子と離れて遠國などに行くようなこともある、宜しく萬事實直に注意して爲せば、此頃より一生の大運開け、晩年は大に安寧幸福が得られる、又一生を通じて慎しむべきは水難である、それ故水邊に住居することは常に氣を付るがよい、彼の有名なる森村市左衞門、早川千吉郎、大橋新太郎、德富猪一郎、藤山雷太の諸士は、皆亥年の生れにして、其天稟の美質を發揮して、彼の如き大成功を爲したのである、されば此年の生れの人は常に一代の守本尊八幡大菩薩を朝夕心を込めて尊信し、天授の福運を捕えて一大成功を爲すよう勤むるがよい。

毎月十五日には供物を供えて熱心に信仰せらるゝがよい此日鳩を食すべからず

## ●亥年二黒生れの相性と職業

●卯の七赤、未の六白、九紫は子孫多く一家盛運に向ふ、辰、戌、丑の九紫、六白、子、午、酉の七赤は吉卯の一白、四緑、未の三碧は凶、丑、辰、戌の三碧、子、午、酉の一白、四緑は大凶、亥、申、巳の二黒、五黄、八白は四年か七年に死別す、寅の二黒、五黄、八白は小吉である。

職業　書家、畫家、彫刻家、時計商及職工技師、陶磁器製造販賣業、歯科醫、印版師、印刷師等成功す。

## ●亥年五黄生れの相性と職業

●未の六白九紫、卯の七赤は吉なれば家門繁榮して子孫長久の基をなす、子午酉の七赤、丑戌辰の六白九紫は大吉にして一家和睦し賢子生まれる、未の三碧、卯の一白四緑は凶、辰戌丑の三碧、子午酉の一白四緑は大凶にして家内に病人絶えず、亥申巳の二黒五黄八白は十年を出ずして死別れとなる、寅の二黒五黄八白は小吉である。

職業　船員、貿易業、株式仲買人、米穀商、雜貨商、造石業、印刷業、請負業、機械師、土工、石工等皆成功す。

## ●亥年八白生れの相性と職業

●丑辰戌の六白九紫、子午酉の七赤は夫婦睦しく子の縁厚し、卯の七赤、未の六白九紫は大凶、卯の一白四緑、未の三碧は凶、辰戌丑の三碧、子午酉の一白四緑は大凶、亥申巳の二黒五黄八白は家道衰え死別となる寅の二黒五黄八白は小吉である。

職業　土木請負業、美術家、棟梁、旅館主、湯屋、機關師、軍人、辯護士、油商、農業、建築家等皆成功す

●往古より三世相と云ふ本がありますが、これは過去、現在、未來の三世に渉る因果説より各人の運命を説いたもので吾等の祖父祖母の時代には民俗信仰書として一般家庭に愛讀せられたものです、イヤ現今でも地方によりてはなほ此書を信仰して愛讀せらるゝ人々も相當にあります、此三世相は僧侶の手になつたもので現代から考へると荒誕な妄説と考へらるゝ節も多々ありますが、それは例の佛者の方便説として意に介せず、其内容に就て仔細に驗べますと是又成程と頷かれるところもあれば茲に採錄して皆さんの參考といたします。

●亥の年に生れたる人は、一代の守本尊は八幡大菩薩（阿彌陀如來のこと）なり、此人前生にては黒帝の御子にして北斗の巨門星より白米一石と金子六貫文を受得て今世に生れたるが故に、性質正直にして勇氣あれば一端斯うと思ひ込みたる事は、如何なる艱難辛苦を爲すとても必ず爲し遂げんとする氣質なれど、時には跡先見ずの考へなく早まり過ぎることありて意外の失敗をなすことあり、よく〳〵注意なさるべし。

又此人前生にて殺生を好みし故、其報ゐにて今世に生れ來て屢危難に遭ふことあり、又父母妻子に係はる惱みあるか、公事訴訟等の心配あらん、よく神佛を祈りてその加護を受けらるべし、然し又前生にて飢饉の時米十俵錢十貫文を施したる功德により、今世にて衣食に不自由することなく、且つ手に藝ありて器用なれば、貴人の引立を得るか或は他の寵愛を受け立身出世することあらん。

此亥の年に生れたる人は、兎角何事にも凝り生なれど、又倦き易きところあれば、成功も早ければ又失敗も速かなり、中年にして女難あらん、住居もしば〳〵變り、故郷を離れ他國にて暮す人多し。

毘沙門天は壽命を守り、釋迦如來は福德を與へ給ひ彌勒菩薩は智惠を授け給ふが故に、一代の守本尊と共によく〳〵信心なして開運を計らるべし。

# ●亥年の人生れ月の運勢

**一月生れ**　は正直なれど至つて剛情偏屈の爲兎角交際上面白からぬ事が多く親兄弟は勿論親友とも爭ひを生じ易い、よろしく注意するがよい、斯る質なれば中年の頃一時運勢の發達することあるも、晩年は滯り勝なれば、よく平常の素行に氣を付けるがよい。

**二月生れ**　は活潑にして果斷なれば萬事てきはきとなす故、長上の引立ありて意外の立身出世を爲すことあれども、兎角人と言ひ爭ふ故折角の良運を取損ずるか、或は事業を早く見切りて成功すべきことも諦めることがある、宜しく注意するがよい。

**三月生れ**　は柔和にして愛敬あれば自然に交際廣く、福分も大に備る故官吏事務員等は望外の出世を爲して成功が早い、斯る質なれば初年、中年の頃人の羨む程の成功なすも、物事放任に爲し折角の成功も水泡に歸し晩年反つて辛勞多き故注意するがよい。

**四月生れ**　は一徹短慮にして交際上圓滿を缺き甚しきは怒りの餘り身分を忘れて人と爭ひ怪我を爲すか或は劍難あれば注意すべきである、然し正直にして惡意なき故、謙遜の心を以て人に交らば諸事順調に運び中年の末より大に發達し晩年の運氣は良好である

**五月生れ**　は正直にして溫和なれども、羨み嫉む心あれば人の成功立身を彼是批評し反つて人望を失ふことがある、然し一技一藝に達し隨分諸人の最負を受け中年にして一時大に發展することあるも兎角氣迷ひ多く良時期を逸することあれば注意するがよい。

**六月生れ**　は賑かなることを好み、至つて陽氣なれど內心憂への絕え間なく煩悶苦腦が多い、金錢は隨分入れども貯蓄心に乏しく中年は此處彼處と居を移すか或は業務を變更して自ら福分を薄くすることあれば宜しく注意するがよい。

**七月生れ**　は柔和にして一能に達するも、兎角剛情と氣鬱の爲福運に乏しい生れである、取越苦勞多き爲萬事時機を失ふことありて、折角の運勢を取損ひ中年の頃氣病みして厭世の念を起すことあれば、常に爽快の心を持ちて天授の幸福を得る樣心掛けるがよい

**八月生れ**　は怜悧にして交際も巧みなれば萬事に調子よく相應の福分あれど、兎角約束を變じて他人に迷惑を掛け自ら福運を損ずることが多い、されば中年の頃よく注意して猥りに業務を變更せず、一事業に熱心なれば、晩年の幸福は必ず得られるのである。

**九月生れ**　は才智ありて萬事に器用なれば、よく數々なることを計畫すれども、兎角尻の纏りを付けず、それが爲に失敗することがある、宜しく長上貴人の意見に從ひ投機的の業務及び女難を注意して中年の良運を損ぜざる樣心掛けるがよい。

**十月生れ**　は正直なれども一克剛情にして、親兄弟とも口論することが多い、斯る性質なれば自然と人望薄く福運も乏しい、しかし業務は何事も熱心なれば小なる成功を得ることが出來る、中年の頃剛情を慎しまざれば晩年の運氣に障ゆるる慎しむがよい。

**十一月生れ**　は活潑にして實直なれば、何事にも熱心なれど永き辛抱の出來ざるが瑾瑕である又決斷速く福運も相應あれど、自慢心强き爲に良運を損することがある、宜しく謙遜の態度を以て交際なすよう努めなば自ら人望を得て晩年は幸福である。

**十二月生れ**　は善良にして正直なればよく細事に氣が付き又物事綿密なれば貴人長上の引立を受けて重要なる地位に進むか、又は獨立して中年の頃意外の發達を爲すことがある、然し吝嗇の行爲ありて兎角晩年の運氣に障りあればよろしく注意するがよい。

# ●亥年の人生れ日の運勢

**子の日生れ**　は溫順柔和にして愛敬あれば至つて交際も巧みである、又節儉にしてよく金錢を貯蓄すれども、時々大慾を出して相場などに手を出し意外の失敗を爲すことあれば、宜しく大慾を出さず一業に勉勵

すれば老年に至るも運勢益々宜しく幸福である。

**丑の日生れ**　は正直にして勤勉なれども偏屈頑固のところありて人を好き嫌ひなし、それが爲に交際上まことに損が多い、剛情我慢にして人の忠言を容れず我意をのみ通さんとする故訴訟爭論屢ありて中年發達せんとする運氣に障りあれば、宜しく此の惡癖を改め晩年困窮せざる樣注意するがよい。

**寅の日生れ**　は勇氣ありて活潑なればよく人の上に立つことあるも、剛腹にして目上に逆ふこと多く、又商人などは世辭愛敬に乏しく、それが爲に好運を取逃すことがある、又高尙にのみ馳せて氣位高く人を蔑視する風ありて、妻緣などもしば〳〵替ることがある宜しく謙遜柔和になして運氣の發達を計るがよい。

**卯の日生れ**　は溫順柔和にして世辭愛敬あれば至つて人望あるも、思慮決斷鈍ければ何事にも思案長くして時機を失ふことが多い、又物事放任にして緊要なる事も氣に向かざれば結末を付けぬが缺點である、常に氣迷ひ多くして中年の頃屢住所、業務を變更して自ら運氣を損ずることあれば注意するがよい。

**辰の日生れ**　は剛情一徹にして自分勝手の振舞ひ多く人と爭ふ癖がある、しかし目下のものには反つてよく目を懸け世話する故人望がある、投機的の事業を爲して、まゝ成功すれども多くは細心の注意を缺きて所謂上手の手から水が漏る譬えの如く意外の失敗を招くことあれば注意するがよい。

**巳の日生れ**　は穩かにして柔和なれども猜疑心深ければ何事にも氣を廻し過ぎ、常に煩悶が絶えない、その上萬事に遠慮勝なれば折角の運氣を取逃すことが多い、然し遊藝又は文才に秀ひで、女子には美貌のものが多い故、心掛け次第により意外の好運を得、晩年は人の羨む程の良運に遭遇する人もある。

**午の日生れ**　は陽氣にして賑かなることを好み、外見は大量の樣なれども內心至つて思慮淺く、時々大事を企てるも中年にして身分に變動がある、金錢は融通よきも兎角保つこと出來ず、中年の盛運に引替え、晩年大ひに困窮することあれば注意するがよい。

**未の日生れ**　は柔和溫順にして神佛を信仰し、又目上を敬ふ故世間の評判は至つて良い、しかし常に心中憂苦絶えずして愚痴を云ふ癖がある、それ故親しき友達とも自然疎遠となり、常に寂しき生活をなす人が多い、宜しく心を快濶になして天授の良運を發輝するよう努めざれば晩年孤獨となる恐れがある。

**申の日生れ**　は怜悧にして世才あれば交際も自づと上手にて立身も意外に速い、然し自慢心强く人の缺點を拾ひ上げ彼是言ふ癖ありて兎角人望を損じそれが爲に運氣に障りあれば宜しく注意すべきである、されど萬事に器用の質なれば剛慢の心を出さざれば自然人望を得て良運を永く保つことが出來る。

**酉の日生れ**　は才智ありて數々なる事を計畫し本業以外彼是と手を出し至つて氣の多い質である、それ故利益を得ることも多けれど又失敗も多い、何歟と氣忙しくして人事にもよく奔走し、仲裁又は談判事も甚だ上手である、中年の頃は浮沈多きもさして苦にせず至つて樂天的なれば身體は勞するとも心は安樂である

**戌の日生れ**　は正直にして義理堅き故、目上長上の信用を得立身出世をなすことあるも兎角偏屈にして人付合い惡しき故、人望は得られない、然し元來忍耐力强く勤勉の質なれば心掛け次第にて晩年は安樂の餘生を送ることが出來る。

**亥の日生れ**　は潔白にして物事決斷速く福運は相應にあれども、一克短慮にして怒り易ければ親兄弟は勿論親しき人とも疎遠になることが多い、又吝嗇にして些細の事にも彼是と損得を云ふ癖ある爲、世間の人に爪彈きさるゝことが多い、宜しく注意すべきである然し同じ亥年にても乙亥、丁亥、己亥、辛亥、癸亥の別あり、又二黑、五黃、八白の差ひありて其干支九星の配合により多少の差異あれば、一代の寶開運の秘書(定價三十錢)に就て詳細に知らるゝがよい。

# ●十干の性質を説明す

十干は一ツに天干とも云ひて人の運命や性質を知るには、是又必要のものである、この十干や十二支は陰陽の二性に分れて居るのである

## ●甲年生れの人の天禀の性質

甲は陽性の干にして此年に生れた人は性質至つて勇敢である故、其風采も凛然と犯すべからざる所がある、又表面は物に無頓着の様に見えるが腹には中々考え深き所ある故間々大成功を爲す人がある

## ●乙年生れの人の天禀の性質

乙は陰性にして此年に生れたる人は表面至つて柔和に萬事遠慮勝なれば自ら因循に見えて他人との交際上甚だ損である宜しく快活になすがよい

## ●丙年生れの人の天禀の性質

丙は陽性にして此年に生れた人は性質至つて陽氣に交際上手であるが物事輕卒に爲す氣味ある故兎角人の信用に障がある然しよく人の氣を計り目上に取入る事が上手故初年よりは中年以後の運勢盛んである

## ●丁年生れの人の天禀の性質

丁は陰性にして此年に生れた人は性質至つて溫順に人事にも至つて親切なれば他人との交際も至極圓滿であるが、晩年の運勢は餘程注意せぬと困難である

## ●戊年生れの人の天禀の性質

戊は陽性にして此年に生れた人は外見は倨傲る樣子ある故一寸人付合ひがわるい、又我意を通そうとする氣強き故よく目上に逆ひそれが爲に運氣に障りがある

## ●己年生れの人の天禀の性質

己は陰性にして此年に生れた人は萬事器用の質なれど人の成功を猜み羨む心ある故運氣に障りありて晩年反つて困窮することがある宜しく注意肝要である

## ●庚年生れの人の天禀の性質

庚は陽性にして此年に生れた人は萬事態揚なれど人を容るゝことが出來ない、それ故人世話もよく面倒を見るが厭き易いのが疵である初年中年は心勞多く住所も變るが晩年に至り安樂の運命が得られる

## ●辛年生れの人の天禀の性質

辛は陰性にして此年に生れた人は兎角取越苦勞多く陰氣の質である世辭愛敬ありて交際は巧みなれども口程に親切氣が少ない故交際が長く續かない宜しく注意して此癖を改むれば運勢も順調に晩年大に幸福である

## ●壬年生れの人の天禀の性質

壬は陽性にして此年に生れた人は慈悲の心深くして人世話も親切故衆人の人望を得て自ら人に長たるの德分がある、しかし忍耐力に乏しく氣移り多き故初年中年は運勢も浮沈が多いが晩年は至極幸福である

## ●癸年生れの人の天禀の性質

癸は陰性にして此年に生れた人は至つて勉強心に富んで忍耐力がある故度々悲境に陷ることあるも自分の力にて運命を開拓する故間々大事を爲す人もあるが兎に角一生中浮沈の多き運勢の生れである

## ●一白水星生れの運勢

●一白水星は、易の坎の卦に當り北方に位ゐするが故に、外見柔和に見えて内心は中々剛毅の氣象なればよく艱難に堪えて大事を爲遂ぐる素質である、又此星の人は水の萬物を潤すごとく人より尊敬せられて自づと長者の風あるも、兎角近親の厄介や人世話の爲に損失苦勞が多い、初年中年の運勢には波瀾浮沈あるも老後は至極安樂である●此星の本命定位は北方故、常に清淨にする樣心掛けるがよい

## ●二黑土星生れの運勢

●二黑土星は、易の坤の卦に當り西南の方に位するが故に、性質柔順にして偏屈ではあるが、世話好きにて他人の面倒はよく見るも、氣變り多き質故共同事業などは永續しない、運勢は中運にして親族には緣深き故親戚の力を籍りて業務の發展を得るか、然らざれば自

分が近親の厄介を見ることが多い●此星の本命定位は西南の方故、此方には不淨物を置かぬ樣心掛けるがよい

## ●三碧木星生れの運勢

●三碧木星は、易の震の卦にして東方に位ゐするが故に、心陽氣にして正直潔白なれども、怒るときは止度なく又人に謙遜ることが嫌ひ故兎角目上にも逆ひ易く屢々好運を取損ふことが多い然し俠氣ありて人世話は好んで爲す故目下の者には大層好れる、運勢は上運なれば好時期に遭遇すれば、意外の發展は出來る●此星の本命定位は東方故、常に此方位は清潔にするがよい

## ●四綠木星生れの運勢

●四綠木星は、易の巽の卦にして東南に位ゐするが故に、性質柔和溫順にして愛嬌よく交際も亦巧みなれど堅固の志操に乏しい故、物事順調に運ぶ時は穩かな氣質であるが、長く逆境に身を置く人は心に僻みを起して他人の同情を失ひ、自然運勢にも障りあれば注意するがよい●此星の本命定位は東南方故常に心掛けて此方位に不淨物を置かぬ樣なすがよい

## ●五黃土星生れの運勢

●五黃土星は、易の大極に象どり中央に位ゐする故、心自から高尙にして外見は驕慢に見ゆる故交際上損が多い、然し內心は至つて親切なれば、人世話も隨分するが兎角緣の下の力持ちとなつて、人には左程には思はれない、早くより生家を離れて他人の仲にて辛勞する、又妻緣も一度では治らない●此星は中央が本命の定位故家の中央に板の間や土間を設けるは凶である

## ●六白金星生れの運勢

●六白金星は、易の乾の卦にして西北に位ゐするが故に、自ら氣位高く人を見下す風あれば、外見甚だ剛毅に見えて內心は至つて柔弱である、それ故人と爭ひを起しても强ひて我意を押通さうとはせない物事親切ではあるが世辭愛嬌に乏しい故交際の圓滿を缺くことが多い、初年は至つて幸運であるが中年は辛勞多く諸事意に任せざるも、晩年は安樂な生活を送る人が多い●此星の本命定位は西北方故常に此方を淸淨にするがよい

## ●七赤金星生れの運勢

●七赤金星は、易の兌の卦にして西方に位ゐするが故に辯舌爽かにして愛嬌あれば、目上の引立ありて交際も至極巧みである、それ故屢々好運に遭遇するも、根氣弱く何事にも辛抱せない故多くは失敗に終ることが多い兎角派手好きにて外見を飾り、又色情も深い故女難等は有勝である、初年、中年の好運の時期によく晩年の計をせぬと老後は甚しく困窮することがある●此星の本命定位は西方故常に此方は淸淨に爲す樣するがよい

## ●八白土星生れの運勢

●八白土星は、易の艮の卦にして東北方に位ゐする故外見甚だ沈着に見えて內實は至つて氣急しき方である物事餘り深く考えず實行する故失敗も多く、又人にも欺むかれ易い、初年より中年の初めは運勢狀態至極よろしきも、中年の終りより晩年には少しく滯り氣味である●此星の本命定位は東北方故此方位には常に不淨物を置かぬ樣注意するがよい

## ●九紫火星生れの運勢

●九紫火星は、易の離の卦にして南方に位ゐするが故に、萬事派手好きにて身の廻りも奇麗に爲し、思ひ起つたことは直ぐに爲すが永く熱心にやらない、それ故長い年月にて成功を見ることは不向きである、初年は好運なるも、中年は浮沈みが多い●此星の本命定位は南方故常に心掛けて不淨物を置かぬ樣なすがよい

# ●生れ時間によりて運勢はどう差ふ歟

●午後十一時より午前一時迄の生れ

此時に生れた人は何性の人にても氣變り多く我儘なれば早くより生家を離れて苦勞をする、然し運勢は相應にある故幾度か失敗しては又發展する、それ故晩年でなければ安樂は得られない、十一歳、十八歳、三十六歳、四十六歳、五十八歳の年は兎角損害起り易く且つ病災等もある故注意するがよい

●午前一時より同三時迄の生れ

此の時に生れた人は何性の人でも父母兄弟に緣が薄い然し、運勢はよろしい物事熱心で中々考へ深いから必ずやり遂げる、初年、中年は辛勞多きも晩年は案外樂な生活を送る、十九歳、二十六歳、三十一歳、四十七歳の四ヶ年を注意なさい七十三歳は大厄である

●午前三時より同五時迄の生れ

此の時に生れた人は何性の人でも身内に緣が薄く剛情で短氣であるそれ故少年中は苦勞も多いが、青年時代に自立して勉勵すれば晩年の運勢は幸運である、二十六歳、二十九歳、三十三歳、三十九歳、四十九歳、六十六歳の年は凶運の時なれば何事も人と共同事業は損失が多い、殊に病難等注意するがよい

●午前五時より同七時迄の生れ

此の時に生れた人は何性の人でも親子の緣薄く、人の交際も上手の割合に信用を取り損ふ、それ故中年までは何事も思ふに任せず失敗勝であるが晩年大ひに注意すれば人に信用を受けて安樂です、十六歳、二十七歳七十二歳は大厄です何事も御用心が肝要である

●午前七時より同九時迄の生れ

此の時に生れた人は何性の人でも剛慢の氣があつて人の意見を用ひず妻子とも、不和になり易い、然し勝氣故する事は大抵成就ずる方である、三十歳以後は注意せぬと失敗が多い、殊に十七歳、二十七歳、三十四歳三十九歳は大厄年故氣を付けるがよい

●午前九時より同十一時迄の生れ

此の時に生れた人は何性でも小才があつて運勢もよろしい金錢衣食にも不自由なく人にも重寶がられて信用もあり財産も得られるが兄弟には緣が薄い、三十一歳三十五歳、四十七歳は大災害あるから御注意なさい

●午前十一時より午後一時迄の生れ

此の時に生れた人は何性でも義俠心に富み人の事に心配する方である色情さへ愼めば決して失敗はないが家業は度々變へたがる方だ三十三歳以後益々開運する、十三歳、三十二歳、四十四歳は災厄年である

●午後一時より同三時迄の生れ

此の時に生れた人は何性でも夫婦の緣が薄く片親に早く別れ苦勞が多い中年までは心配多いが四十八歳から安心が出來る殊に六十歳前後は日の出の運である、十五歳、二十五歳、四十七歳は厄年故注意するがよい

●午後三時より同五時迄の生れ

此の時に生れた人は何性でも父母に緣が薄く表面陽氣に見えて內心陰氣である、然し衣食住には不自由せないが十二歳、廿三歳、四十歳の年は災害がある

午後五時より同七時迄の生れ

此の時に生れた人は何性でも柔順で親切で思ひやりがある若年から中年までは萬事不仕合せ續きであるが四十歳を越せば追々運がよくなつて安心である、二十二歳、二十八歳、三十九歳は災厄年なれば注意するがよい

●午後七時より同九時迄の生れ

此の時に生れた人は何性でも剛情短氣の爲め失敗する然し金錢には不自由ないが運氣の浮沈は多い若年から中年迄は割合に安樂で三十三歳頃から苦勞である三十五歳、四十八歳、五十七歳凶年故注意なさい

●午後九時より同十一時迄の生れ

此の時に生れた人は何性でも心正直に慈善心ありて金錢にも緣あるゆえ安樂に暮せる然し正直丈に常に心に苦勞が絕へない五十歳後は身心共に氣樂である、十七歳、二十四歳、三十二歳、四十六歳は災難年である

# ●各人毎月の運勢の調べ方

●人々の運勢を調べるには年々の運勢の吉凶のみではいけない、併せて其月々の運勢も調べる必要がある、其理由は毎年の星の廻り合せによりて其人々の運勢に盛衰ある如く、月々の運勢にも吉凶ありてそれが爲に運勢の宜しき年にても萬事手違ひありて損失したり、又非常に衰運の年にても諸事調子よく運ぶことあるはまつたく其月々の運勢の良否によるのである、されば新規に開店し又は事業を始めんとするか、或は嫁取婿取などには幸運の月を選び、普請、修繕、移轉、旅行等には其年の方位のみならず併せて其月の方位の吉凶を調べるなど、其他萬般の事を爲すにも宜しく注意して月々の運勢を調ぶべきである、それには先づ月の九星の繰方を知らねばならぬ、子、卯、午、酉の年の新一月は九紫にて、丑、辰、未、戌の年の新一月は六白なり、寅、巳、申、亥の年の新一月は三碧に始まりて逆に繰るのである、假令ば昭和七年は申年なれば新一月は三碧の月にして、二月は二黒、三月は一白、四月は九紫、五月は八白と逆に繰り、又昭和八年は酉年なれば、新一月は九紫、二月は八白、三月は七赤、四月は六白と逆に繰り、又昭和九年は戌年なれば、新一月は六白、二月は五黄、三月は四綠、四月は三碧と逆に繰るのである、余は之に準ふて知ることが出來る、なほ注意すべき、毎月の九星の替るのは、其月の節替りである假令ば二月は節分迄が前年の分にして一月の星と同じ星にて運勢を見、其翌日の立春の節より二月の星にて運勢を調べることゝなる、其他の月も皆同じ、なほ詳しく云へば二月が二黒で三月が一白の月とすれば其三月は六日に節が替るとすれば三月五日迄は二黒で運勢を調べ三月の六日啓蟄と云ふ節から一白で運勢を調べるのである、餘の月も亦此例に準ふて調ぶるがよい、其節替りは伊勢の暦を見ればわかる、又各人の運勢は次に記したる其九星の月の所にて調ぶるのである



## 毎月の九星早見

此表の月は新暦である、又其月の星は節替りに替るのである假令ば子の年三月なれば其月の六日か七日頃に節が替り啓蟄と云ふ節となるそれ故其前は二月と同じ八白にて右替りし節より七赤となる餘は之に準ふべし

| 横に見るべし | 子年 | 丑年 | 寅年 | 卯年 | 辰年 | 巳年 | 午年 | 未年 | 申年 | 酉年 | 戌年 | 亥年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一月 | 九紫 | 六白 | 三碧 | 九紫 | 六白 | 三碧 | 九紫 | 六白 | 三碧 | 九紫 | 六白 | 三碧 |
| 二月 | 八白 | 五黄 | 二黒 | 八白 | 五黄 | 二黒 | 八白 | 五黄 | 二黒 | 八白 | 五黄 | 二黒 |
| 三月 | 七赤 | 四綠 | 一白 | 七赤 | 四綠 | 一白 | 七赤 | 四綠 | 一白 | 七赤 | 四綠 | 一白 |
| 四月 | 六白 | 三碧 | 九紫 | 六白 | 三碧 | 九紫 | 六白 | 三碧 | 九紫 | 六白 | 三碧 | 九紫 |
| 五月 | 五黄 | 二黒 | 八白 | 五黄 | 二黒 | 八白 | 五黄 | 二黒 | 八白 | 五黄 | 二黒 | 八白 |
| 六月 | 四綠 | 一白 | 七赤 | 四綠 | 一白 | 七赤 | 四綠 | 一白 | 七赤 | 四綠 | 一白 | 七赤 |
| 七月 | 三碧 | 九紫 | 六白 | 三碧 | 九紫 | 六白 | 三碧 | 九紫 | 六白 | 三碧 | 九紫 | 六白 |
| 八月 | 二黒 | 八白 | 五黄 | 二黒 | 八白 | 五黄 | 二黒 | 八白 | 五黄 | 二黒 | 八白 | 五黄 |
| 九月 | 一白 | 七赤 | 四綠 | 一白 | 七赤 | 四綠 | 一白 | 七赤 | 四綠 | 一白 | 七赤 | 四綠 |
| 十月 | 九紫 | 六白 | 三碧 | 九紫 | 六白 | 三碧 | 九紫 | 六白 | 三碧 | 九紫 | 六白 | 三碧 |
| 十一月 | 八白 | 五黄 | 二黒 | 八白 | 五黄 | 二黒 | 八白 | 五黄 | 二黒 | 八白 | 五黄 | 二黒 |
| 十二月 | 七赤 | 四綠 | 一白 | 七赤 | 四綠 | 一白 | 七赤 | 四綠 | 一白 | 七赤 | 四綠 | 一白 |

## ●一白生れの人の毎月の運勢

**九紫** の月は目上の引立を受け意外の利益あるも短氣を起して人と爭ふことを注意するがよい凶方は南、北、戌亥、辰巳の方である

**八白** の月は盛運の時なれば金錢上の利益がある又緣談なども至極よい、尙目上の引立あるときは一層上運である、業務も順調に至つて吉なれど人と口論を注意なさい、凶方は未申、丑寅の方

**七赤** の月は運勢の變更する時期故、家内の紛紜他人の爲の損失などは有勝である、又移轉旅行などもよくない、然し今迄凶運の人は之から幸運に向ふことになる、方位は東、西、丑寅が凶

**六白** の月は婦人の爲に損失することが多い、然し眞面目に稼げば目上の引立ありて營業は繁昌する、又移轉、旅行などは吉であるが、緣談や普請は見合すがよい、凶方は辰巳、南、北の方である

**五黃** の月は退運の時なれば萬事思ふ樣に運ばず損失、辛勞有勝なれば諸事控ひ目になし從來の業を堅く守るがよい、凶方は南、北、丑寅の方

**四綠** の月は衰運の時期ゆえ何事も見合せてよい時の來るを待つがよい、緣談は凶いが新規開業は熱心に爲せば成功する、然し中々骨が折れる凶方は未申、丑寅、亥戌の方

**三碧** の月は物事早ければ調ふも遲ければ駄目である、又無謀の事を計畫する時は損失、失敗等有勝故注意するがよい、凶方は東、西である

**二黑** の月は物事思ふ樣に運ばぬ故普請造作開業旅行等注意するがよい、緣談は末の見込はあるが急には調はない、其他の事は早ければ調ふが遲ければ調はぬ、凶方は戌亥、辰巳である

**一白** の月は多年逢はざる人に逢ふか、又厄介人の來る事がある、旅行、病氣等起る事あれば萬事注意するがよい、凶方は南、北、辰巳の方



## ●二黑生れの人の毎月の運勢

**九紫** の月は金談、緣談、轉宅、普請何事にも大吉である、又女難、口舌等もあり勝故注意するがよい、凶方は南、北、東、西の方である

**八白** の月は開店、旅行、移轉、入學等は注意して爲せば差支えないが訴訟や投機的の事は見合すがよい、凶方は丑寅、未申、西の方である

**七赤** の月は業務は盛大なれども、口舌爭ひ事及び損失、變死、離緣等あり勝なれば注意するがよい、東、西、南、北の方は凶方である

**六白** の月は物事妨げ多き故諸事控え目に爲すがよい、何事も急に爲さうとすると反つて失敗する方位は辰巳、戌亥、南、北が凶である

**五黃** の月は兎角心に迷ひ多く氣の焦つ時期故、短氣を起さず萬事落付いてなすがよい、餘り性急になす時は運氣破れて失敗をする、又緣談、移轉等は來月に延すがよい、北と未、巳の方は凶方である

**四綠** の月は何事も遲ければ調はぬ故急いで爲すがよい、然し身分不想應のことは失敗する故注意せねばならぬ、殊に緣談、旅行等は後れると故障が生ずる、凶方は東、西、辰巳、戌亥の方である

**三碧** の月は氣迷ひ多き月なれば新規の事は氣を付ぬと人の爲めに損害又は詐欺される事がある、移轉、旅行は大凶、又何事も面白目にやれば後々に喜びがある、凶方は東、西、戌亥の方である

**二黑** の月は運氣衰える時で丁度沖中の小船の樣に何事にも迷ふ事が多い、又病氣、爭論なども注意なさい、從令の業務は辛棒して勤むれば目上の引立がある、未申、丑寅の方は凶である

**一白** の月の運氣は田地、山林などにて喜び事あるか、金錢手に入るか目上の引立を受ける然し短氣を出せば運氣破れて損失あれば萬事注意するがよい、南、北、辰巳の方は凶方である

## ●三碧生れの人の毎月の運勢

**九紫** の月は運勢に浮沈多き時期故萬事注意を要する、普請、起業、開店等はなるべく見合すがよい、南、北、丑寅は凶方である

**八白** の月は離別若くは病氣、口舌等起り易い、然し西か戌亥の方から思わぬ人の助けがある、凶方は丑寅、未申の方です

**七赤** の月は龍の池中に潜むが如く萬事思ふ樣にならず心配、苦勞がある、然し近き内に吉運に向ひます、方位は東、西、辰巳が凶るい

**六白** の月は病氣又は損失などあるも注意すれば左程でもない、萬事誠實になせば目上の引立を受けて反て意外の喜がある凶方は戌亥と未申です

**五黄** の月は昇給するか、又は思はぬ人の援助を受けて諸事都合良く運ぶ故、余り無謀なことはなさぬがよい、方位は東、西が凶方である

**四緑** の月は業務住所等に就て氣迷ひの起る時期であるが、從來の事を辛抱すれば追々と吉運に向ふ故急かぬがよい、又緣談、旅行、移轉等は吉方なれば差支ない、方位は辰巳、戌亥は凶方である

**三碧** の月は至つて衰運の時期故、業務上など注意せぬと損失は有勝である、又移轉、旅行普請等は病難がある故見合すがよい、其他何事も控えるが安全である、方位は東、南、西、北が凶る

**二黑** の月は目上の引立ありて思はぬ吉事もある故、就職、開業、入學何事にも吉なれど、金談、掛合事等は兎角爭ひの意を含む故性急に爲さふとすると調はぬ、方位は未申、丑寅、辰巳は凶るい

**一白** の月は至つて喜び事の多い時期故、新規開店、就職、入學、緣談、其他何事にも差支えないが余り物事を輕率にして、折角の吉事も凶事に變ずる樣なことがあつてはならぬ故注意肝要である、方角は南、北、東、西は凶方である



## ●四緑生れの人の毎月の運勢

**九紫** の月は何事も身分不想應に爲したき氣分あるも、諸事輕率になすことは愼しまねばならぬ、殊に文書類の間違ひ、訴訟事、緣談の縺れ等あり勝故何事も要愼が肝要である、方位は南、北が凶るい

**八白** の月は平運なれども家内に病人、又は盜難等有勝故注意するがよい、普請、緣談、開業、移轉等は差支えないが凶方は避けるがよい何事も戌亥の方の人に相談して吉、凶方は南、北である

**七赤** の月は何歟と心配の多い時期故、新事業など見合すがよい、又飲食物に注意せぬと病難に遇ふ憂ひがある、方位は東、西、未申が凶である

**六白** の月は萬事順調に運ぶ故大抵の事は成就する、殊に緣談、新規開店、移轉、旅行等は至極よい、然し氣を焦つと失敗する故何事も熟慮して爲すがよい、方角は戌亥、辰巳、東、西は凶である

**五黄** の月は業務上又は婦人に係はる喜びがある金談、掛合事、緣談等は早ければ調ふが遲ければ駄目である、方位は戌亥、辰巳が凶るい

**四緑** の月は運勢滯る故萬事思ふ樣にならぬ旦つ病難、金銀の損失等あれば普請、移轉、人世話等は見合すがよい、又口論、訴訟等は勝利は覺束ない故なさぬがよい、戌亥、辰巳は凶方である

**三碧** の月は諸事目上の意見に隨ふときは段々上運に向ふのである、されば我意を張らず何事も長上に相談するがよい、東と西の方は凶方である

**二黑** の月は運勢平運なれば普請、移轉、緣談其他何事にも吉である、就職や金談などは婦人に依賴すれば早く調ふ、又掛合事は早くなさぬと紛糾して仕末に困ることがある、凶方は東、西である

**一白** の月は目下の心配、業務上の煩悶ありて兎角辛勞が多い、又此月に發した病氣は長引くことがある、方位は南、北、未申、丑寅が凶方である

## ●五黄生れの人の毎月の運勢

**九紫** の月は何事も支障ありて思ふ樣にゆかず、又金錢上の心配もある、自分の慾心から思はぬ失敗して人に迷惑を掛る事がある故、諸事注意して控え目に爲すがよい、方角は南、北、戌亥が凶である

**八白** の月は土地山林等に就て利益するとあるも運勢は余り上運ではない、それ故病難、盜難、失物など氣を付けるがよい、又普請、移轉、旅行等は見合すが安全である、凶方は未申、丑寅である

**七赤** の月は至づて上運故思はぬ利益を得ることがある、人によりては婦人の爲に折角の上運を取逃す故注意するがよい、凶方は東と西である

**六白** の月は金談、緣談、就職、轉業等凡て早ければ調ふが遲ひと那魔があつて思ふ樣にゆかぬ、又遠方より吉事の便りあるか、或は利益することがある、方角は辰巳、戌亥が凶方である

**五黄** の月は何事も思ふ儘にならず彼是と氣忙しきことのみ多い、金錢も可なり入るが出ることも繁く所謂勞多して効少なしと云ふ時期である、方位は北と東の方は凶方故何事にも用ひぬがよい

**四緑** の月は兎角人と爭ふ氣味ある故自ら運勢を滯らすことが多い、それ故何事も目上の意見に從えば間違ひが少ない、凶方は辰巳、戌亥である

**三碧** の月は金錢上又は婦人の喜びがある、然し家内の口舌紛紜、他人との爭論等は慎しむがよい、凶方は東と西の方である

**二黑** の月は是迄の事を變更せんとして煩悶することがある、又目下の心配、病難等あり勝故氣を付るがよい、人世話などは後に悔ゆることが起る、方位は未申、丑寅は凶方故犯さぬ樣なすがよい

**一白** の月は外見は良ささうに見えて内實は苦しみの多い時期なれば物事やり過ぎて反つて困難することがある、凶方は南と北の方である



## ●六白生れの人の毎月の運勢

**九紫** の月は住所の移動、目上の婦人の心配等にて煩悶することがある、又凶方を犯すと家内に病人、金錢の損失など有勝故注意するがよい、其他何事も控目に爲すが安全である、凶方は南と北である

**八白** の月は意外の喜びありて昇給、新規就職、緣談、金錢入手凡て吉事が多い、されば普請、造作、移轉、旅行、開業等よく氣を付けて爲せば意外な幸福を得る 方角は東、西、丑寅がわるい

**七赤** の月は氣迷ひ多き時期故何事も思ひ立つばかりで實行が少ない、斯ふ云時期は萬事控えるが安全である、凶方は東、西、辰巳である

**六白** の月は運勢至つて沈滯故何事も思ふ樣に運ばない、又病難、損失等生じ易き故普請、造作、移轉、旅行等は爲さぬがよい、緣談、金談などは妨げあつて闕はぬ、方位は戌亥と丑寅が凶るい

**五黄** の月は何事も辛抱すればよい結果を見られるが、兎角氣を焦り親切な他人の忠言を用ひずして失敗することがある、凶方は辰巳と戌亥である

**四緑** の月は喜び事の多い時期故業勢や身分に吉事あるか又婦人に係はる喜び事がある、然し掛合事、金談等は餘り性急に爲すと反つて闕はぬ、凶方は辰巳、西、東である

**三碧** の月は運勢の替り目故進退共に後の運勢に大層影響する、殊に普請、移轉等にて凶方を犯すと病難を招く、方位は東、丑寅が凶である

**二黑** の月は運勢盛んのやうに見えて反つて煩悶することが多い、殊に文書の間違ひ、火難、口舌、病氣等あり勝故注意するがよい、方角は南、未申、丑寅は凶方故犯さぬ樣なすがよい

**一白** の月は物事妨げありて意の如くならざるも焦らず辛抱すれば段々に吉運に赴く故足搖かぬがよい、方位は南と北が凶方である

## ●七赤生れの人の毎月の運勢

**九紫** の月は至つて上運の時期にて諸事順調に成功する時期故、新規開店、職其他何事も吉である、金談、掛合事は性急にすると調はぬ方位は東、西、南、北の方は凶方故注意するがよい

**八白** の月は彼是と氣迷ひ多く何事も纏まること が少ない、されば緣談、相談事又は人世話などは注意せぬと後に馬鹿を見ることがある、方位は西、戌亥、辰巳は凶方故犯さぬがよい

**七赤** の月は運勢に落付なき故何事も思ふ樣に運ばない、それ故萬事控え目にして災ひを未然に防ぐがよい、方位は東と西が凶方である

**六白** の月は追々と吉運に向ふ時期故短氣を起さず何事も辛抱して爲すがよい、緣談、開店轉職などは南の方の人か、目上に相談して其人の意見に隨ふがよい、方角は辰巳、戌亥は凶方である

**五黃** の月は至つて吉運の時期故緣談、轉職、新規開店、普請、移轉凡て吉である、又目下の婦人の喜びもある、掛合事、相談事などは柔和になすがよい、方角は東と西の方が凶方である

**四綠** の月は從來の事を變更したき氣分が起る時期なれど、運勢は余りよくない故、何事も手違ひになり易い、凶方は辰巳、丑寅、未申である

**三碧** の月は官衙の事か、爭論、離緣など起り勝故諸事注意して損失のない樣なすがよい、又人世話も爲さぬがよい、凶方は東、南、北である

**二黑** の月は辛勞の多き時期なれど何事も辛抱して爲せばよい結果を得る、病難や盜難は注意するがよい、凶方は南、北、未申である

**一白** の月は運勢少しく滯り勝なるも輕率の振舞なければ目上の婦人か、又は他人の同情を得て何事も意外な發展を觀ることがある、移轉、普請、開店等は來月に延すがよい、凶方は北、未申である



## ●八白生れの人の毎月の運勢

**九紫** の月は何事もはかゞしく行かぬ故進退共に意の如くならぬことが多い、されば斯う云時期に物事性忽にすると失敗する故萬事成行に任せるがよい、方位は南、辰巳、戌亥が凶である

**八白** の月は衰運の時期故足掻けば反つて損失が多い、家庭の不和、金錢の損失等氣を付ねばならぬ、普請、造作、移轉等は病氣に罹る故見合すがよい、方角は未申、丑寅が凶方である

**七赤** の月は目上と意見の衝突か他人と爭論が起り易い故、之を愼めば萬事順調に運びて是迄の悲運も吉運となる、凶方は西、戌亥、辰巳である

**六白** の月は吉運の時期故金談、緣談、思ひの外早く調ふ、普請、造作、移轉、旅行、新規開店、就職皆吉である、又此月は酒食の費多き時期なれば家內の口舌も有勝である、凶方は辰巳、東、西である

**五黃** の月は運勢に動搖ありて萬事思ふ儘にならぬ故、何事も準備はよいが着手するのは來月に延すがよい、凶方は丑寅、未申の方である

**四綠** の月は思はぬ金錢の入ることあるが、上運の時だけに物事やり過ぎて失策する故諸事注意肝要である、殊に口舌、判證文、手紙等の間違ひ等氣を付るがよい、凶方は南、北である

**三碧** の月は運勢沈み勝故萬事進むで爲すことは凶るい、又病難、水難、盜難等を注意するがよい、方角は東、南、北は凶方である

**二黑** の月は運勢甚だよろしかなず萬事滯り勝である、斯ふ云時期には焦れば反つて損失が多い故辛抱してよい時節を待つ樣にするのがよい、殊に動土、普請は凶である、方位は未申、丑寅が凶るい

**一白** の月は運勢殊外よろしく何事も思ふ樣に調ふ故因循せずと爲すがよい、普請、移轉、開業、就職、緣談等凡て吉、凶方は北、東、西である

## ●九紫生れの人の毎月の運勢

**九紫**　の月は運勢に浮沈み多く自分獨りでは思案に餘ることが多い、斯ふ云時は人に相談してもよい結果はない故辛抱して時の來るのを待つがよい方位は南と北は凶方故犯さぬがよい

**八白**　の月は運勢平運なれば普請、移轉、緣談、開業凡て吉なれど、萬事目上か、南の方の人に相談して其意見に隨ふがよい、然し爭論、訴訟、怪我等、注意せねばならぬ、凶方は辰巳、丑寅である

**七赤**　の月は平運なれども婦人の惱み、金錢上の損失は有勝故よく注意して未然に防ぐがよい、方位は東、西が凶方故犯さぬがよい

**六白**　の月は運勢よろしくない兎角煩悶心配が多い、人事の損失、家内の病人、業務の不振など、よい事は少ない故氣を焦らず辛抱してよい時節の來るのを待つがよい、方位は戌亥、丑寅は凶である

**五黃**　の月は月始めは盛大に見えて末があまり盛んでない、それ故金錢なども入るよりは出が多く、親族朋友の爲に奔走することがある、方位は南と北は凶方故犯さぬ樣なすがよい

**四綠**　の月は運勢甚だしく沈みて何事も思も樣にならぬ、されば普請、移轉、緣談、轉業、金談などは見合すがよい、凶方は南、北である

**三碧**　の月は甚しく凶るい運勢でもないが餘りよい事も少ない故新規に始めることは來月に延すがよい、方位は東、未申、丑寅が凶るい

**二黑**　の月は至つて幸運の時期にして思はぬ利益を得るか、又世間のよい評判を受けることがある、新規開業、緣談、普請、移轉凡て吉である、又神佛に參詣の旅行は最も吉、凶方は未申、東である

**一白**　の月は移轉、旅行、緣談などは吉方を撰むで早くなすがよい、又遠方との取引開始も吉である、方位は北、辰巳、戌亥は凶である



## ●各人毎日の運勢を說明す

凡そ運勢には年、月、日とありて年、月の運勢は日々の運勢の集りである、されば各人日々の運氣に注意せずして災を受ける時は布ひて年月の大運勢に影響し折角の好時機を取り損ふものなれば毎日の運勢に注意して宜しく吉日を選びて年月の大吉運を捕捉するがよい

## ●一白水星の日

一白生　物事に氣迷ひ多く起業、開業は大凶である
二黑生　目上の引立ある吉日開業、金談何事も調ふ
三碧生　表面よく見えて內輪に心配事出來やすい
四綠生　萬事故障多く口舌あり然し熱心なればよい
五黃生　親しき人と爭ふ事あれば萬事用心するがよい
六白生　何事にも迷ひ易く談判事は破ることが多い
七赤生　心配事多く又病氣、盜難等は注意するがよい
八白生　物事進み過ぎて失敗す用心すれば利益ある
九紫生　營業上利益あれ共人の口車に乘れば凶家內に心配事出來易く亦色情の爲めに損失する事がある

## ●二黑土星の日

一白生　營業上利益あれ共迷ひ易く人の爲め損失す
二黑生　此日普請、造作等は大凶故注意肝要である
三碧生　金談調ふ緣組みも吉只々人と爭ふ事は注意
四綠生　喜び事ある日なれ共婦人は心配事出來易い
五黃生　運氣盛んなれども新規の事は用ひぬがよい
六白生　親しき人に別れる事出來るか又は遠方より不意に便りがある
七赤生　他人の助けありて利益あるが盜難を注意
八白生　何事も思わしくない身內に心配事出來易い
九紫生　相談、緣談何事も皆利益ある大盛運の日

## ●三碧木星の日

一白生　進んで利益あれ共、遠方の旅行は見合すが吉
二黒生　運勢よろしきも心迷ひて人の爲めに失敗する
三碧生　思ふ事叶ひ難し亦家内に不和合生じ易い
四緑生　心配事あれど目上の意見を用ふれば吉
五黄生　吉運にして思わぬ人の助けあれば進んで吉
六白生　新らしき事を計るによき日にして目上の引立を受けて利益ある日然し若き者は色情を慎むがよい
七赤生　争論起り易き故我慢すれば大に利益ある日
八白生　他人の爲めに苦勞して損失多ければ注意するがよい又病氣、盗難は殊に御用心
九紫生　衰運の日なれ共辛抱すれば他人の引立を得る

## ●四緑木星の日

一白生　何事も用ひぬがよい殊に遠方の旅立ちは災難あれば注意肝要である
二黒生　萬事よろしき日なれば大に進んで利益がある
三碧生　開店、縁組をするに吉然し移轉、旅行は凶
四緑生　家内に口舌起り易い又旅立すれば災難に遇ふ
五黄生　目上の引立ありて何事も吉然し屋根替は凶
六白生　何事も吉然し縁組をすれば後に口舌事起る
七赤生　人に僞まされ易ければ何事も注意肝要なり
八白生　盛運なれば普請始め其他何事にも用ひて吉
九紫生　氣の揉める日なれば心迷の爲め損失多い

## ●五黄土星の日

一白生　人知れず喜び事がある然し盗難を注意
二黒生　衰運の日故何事も新規の事は見合がよい
三碧生　吉運なれば萬事思ひ切つて進むがよい
四緑生　遠方より吉事來るか婦人の喜びがある
五黄生　物事滯り勝なり、此日始めし事は成就ぜぬ



六白生　思ふ事叶はざれ共思わざる金錢手に入る日
七赤生　人の引立を受け金錢手に入る事あれども若き者は色情を慎まざれば後に災難がある
八白生　家内に喜び事あり金談、縁談等は必ず調ふ
九紫生　思ひの外散財多く又親しき人と争論出來易い

## ●六白金星の日

一白生　身内と離れ易きも運氣盛んにして利益がある
二黒生　少しく骨は折れるが物事まとまる吉運である
三碧生　何事も進めば大損害あり又病氣に懸れば永引く故常に衞生を重んじて身體の健康を計るがよい
四緑生　他人の事で苦勞するが開店、其他何事も吉
五黄生　人の口車に乗りて進ば目上の信用を失ひ折角開きかけた運勢を取はづす事になる
六白生　思ひが叶ふ樣で心配苦勞が多く損失がある
七赤生　苦勞しても後に利益あれば何事も進むに吉
八白生　金談、縁談、相談何事も調ふ大吉日
九紫生　利益あれども手に入らず人の爲に心配あり

## ●七赤金星の日

一白生　心配苦勞して損害多ければ注意肝要である
二黒生　何事にも利益あれども家内に口舌起りやすい
三碧生　骨折れば思ふ事成就す只新規の事には損害多き故成べく舊來の事業を堅く守るがよい
四緑生　移轉、旅行、起業等何事も用ひぬがよい
五黄生　寶の山に入りながら空しく歸ると云ふ誠に骨の折れる日なれば宜しく奮勵して利益を得るがよい
六白生　思ひが叶ふ樣で心配多ければ注意するがよい
七赤生　骨折れば後に利益あれど人の爲めに損失する
八白生　目上の引立ありて何事も調ふ日なれども只々訴訟事は負ける故注意肝要である
九紫生　散財多く心配事出來易ければ注意肝要である

## ●八白土星の日

一白生　金談、緣談、望み事等は目上の意見に從ひば必ず成就するが爭論を愼まぬと失敗することがある
二黑生　何事も控目にすべし新規の事は不成功に終る日なれば舊來の業務を堅く守るがよい
三碧生　心配多く散財す又訴訟事は勝つて損をする日
四綠生　營業上利益あれども厄介人の爲め損をする
五黃生　病人は大に注意すべし又何事にも損失が多い
六白生　進むは惡し今迄の事を守れば利益のある日
七赤生　急いで新規の事をすれば損をする落付いて居れば目上の引立を受け利益することがある
八白生　心配事多く出來て損をする又身内と口論の起り易き日なれば忍耐我慢を專一にするがよい
九紫生　目上の引立を受けて利益ある日なれ共剛情を張れば折角開運の基ひを破るから愼むがよい

## ●九紫火星の日

一白生　他人の引立を得て利益ある日なれば進むで吉
二黑生　家内に喜び事のある日なり只口舌が起り易い
三碧生　心配苦勞多く何事も凶ければ注意するがよい
四綠生　遠方より便りある吉日なれど人の爲に損する
五黃生　何事も注意して進む時は目上の信用を得て利益あり然し訴訟事は必ず敗亡する
六白生　衰運の日なれ共目上の引立に依て利益がある
七赤生　此日は綠組、旅行等何事も進むで大吉
八白生　利益ある樣で人に僞され易ければ注意肝要
九紫生　心配多けれ共骨折り次第萬事調ふが病氣に罹る時は永引くゆゑに常に衞生を重ずるがよい

●以上は日取りの吉凶の大略を示したればこれにより自分の運氣を考へ常に注意する時は唯に禍ひを避け得る而已ならず將來の幸運を開拓するに稗益が多い



## ●家相の說明

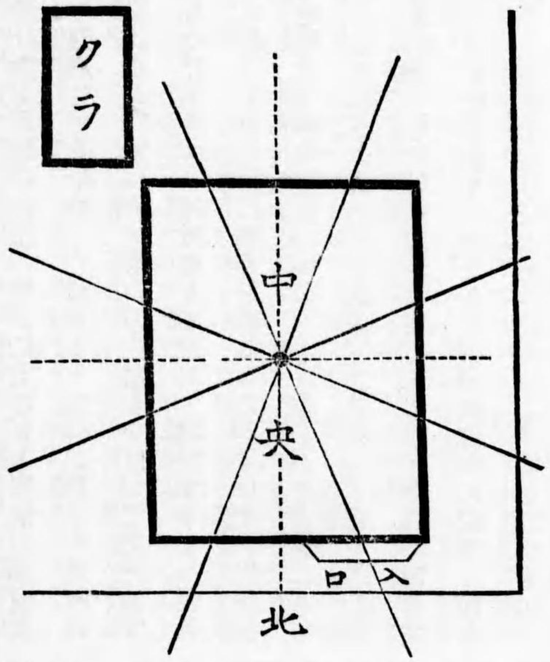
●凡そ人の世にある衣食住の三者は最必要のものである近時衞生思想の發達に伴ひ住宅なども空氣の流通土地の濕寒など大分喧しく云ふようなれど其地相家相の吉凶はさらに意に介せないのみならず反つて之を論するものを妄言なり迷信なりと云ふて嘲笑するも一朝災害に罹りて後に大に其非を曉るものが多い元來宅地屋舍を相する術は東洋の哲學として權威ある易理に基き別に地理風水方鑑の術と云ふて之を修する者が多い其鑑定的中の妙は世間熟知の事にして又千數百年間斯道傳來の歷史の証する所である讀者諸君次に記する所を讀んで凶地を避けて吉宅に向ひ住し一家の繁榮を計るのみならず布ひて子孫の幸福を希ふべきである

附言本書を讀んで家相の妙味を知り猶其奥儀を極めんと欲せば本館發行の家相の見方を見るべし

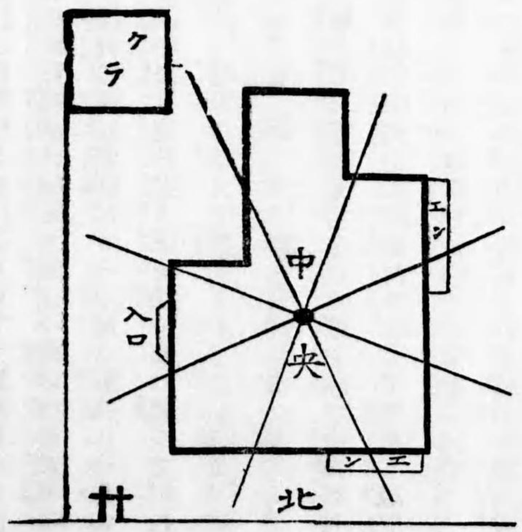
## ●住宅の如何なる所を中央と定むべきやを知る秘傳

●凡そ家相の吉凶を見んとするには先づ第一に其中央を定むる法を知らねばならぬさて家屋にも大厦倭屋あり其構造に缺張長短あり或は一構の内に數棟の大小家屋を建列ね或は瀟洒たる一小屋も皆共に一戸の住宅なれば其中央を定め其方位を決するに當つて何れを中央と定めて磁石を据えて宜しきやと云ふことは初心者の必ず思ひ煩ふ事である殊に諸家の說一樣ならず寢室を以て中央とし或は業務を取る所を以て中央とし或は大黑柱を以て中央とし諸說紛々として甲論乙駁其歸する所を知らざる如き有樣故少しく家相の心得あるものすら大に惑を生ずるのであるしかし磁石の据所は唯住宅の正中央を取らねばならぬ其家の業務によりては店を土間にし板間となし又は張出し缺込み千差萬態種々あれども四方の礎石を界とし其外に出たる椽側出窓或は

張出しの床間押入等は中央を定むる分量中へは入れぬのであるされば家に長短廣狹あるとも方形を爲す家は中央を定まるに當つて見易い故次の圖を見て考ふれば思ひ半ばに過ぎぬのである

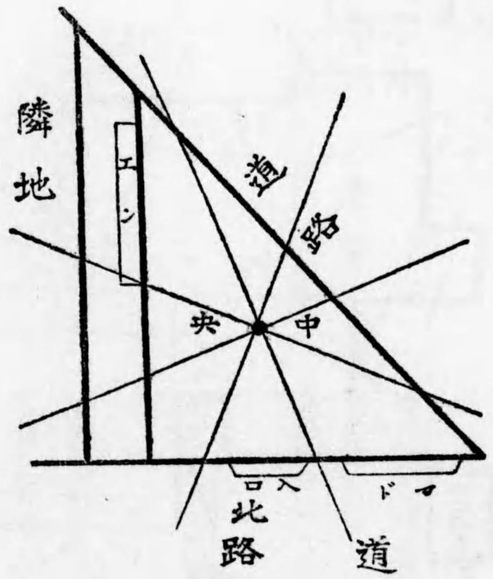



●方形の家は縱令ひ長短廣狹あるとも其中央を定むること至つて容易であるが家屋は概ね其の地所の形狀や住む人の業務の都合によりて出張りたる所や缺込みたる所があるそれ等は如何にして中央を定むべきや初心者の大に苦しむ所なれば次に缺け張りの圖を掲げて其中央を定むる法則の一班を示すのである






右の圖の如く正當の南張出て辰巳の方に缺込ある家相を判斷なすには南の張り至つて少なき故之を除き辰巳の缺込全く南北の正當に係らざる故未申の礎石より平均して其中央を定るのである




●近時都鄙の別なく道路の修理河川の改修の爲めに自己所有の地所を缺かれ圖の如き家屋を建築する者まゝあり實に何れを中央と定めて礎石を据えべきや大に惑ふ所であるそれ故世の家相家は多く難相なりと思ひ秘事口傳ありと云ひて種々の說を爲すものあれども其面積を平均して中央を定むること地相家相の法則にして其理一定確然動すべからざるものである

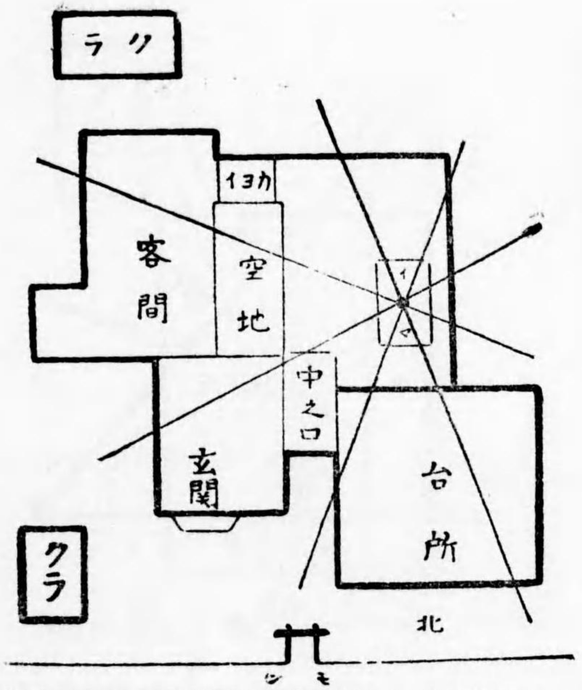
●又一構の內に數棟の建築物を建列ねたるあり縱令ば華族富豪の住宅別邸又は豪農の住宅或は神社の社家寺院の庫裏など實に數棟を建列ねてある是等は普通の家宅を相するとは少しく異なるのである

●富豪華族豪農などの別邸は其家の主人の居間のある一棟の四方の礎石を界として中央を定めて礎石を据え以て吉凶を斷ずるのである

●又社家寺院等は其神主住持の居間のある一棟の四方の礎石を界として中央を定めて礎石を据え吉凶を判定するのである

次の圖を見て其詳細が知れるのである

以上の解説によりて家宅の中央を定むる法は大略知り得るのである然し家屋の構造も千態萬狀數々あれば詳細は本館發行の**家相の見方**に圖解數十を挿入れ丁寧懇切に解説してある斯道熱心の諸士就て覽るべし



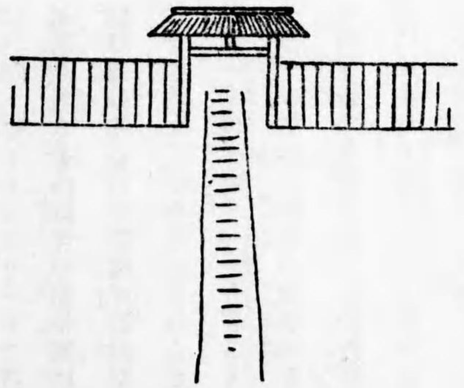

## ●邸前道路の吉凶説明

●路は人の來脈と云ひて宅地を相するものには宜しく注意して其形勢を相し而して吉凶を論ずべきである

●門前に川の字の如く三筋の路其家に向ば盜難あらん

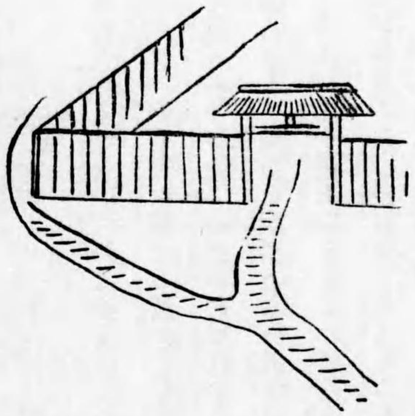
●門前に池或は井泉あるは其方位により吉凶の斷宅地相の部に委しければ家相の見方を見よ

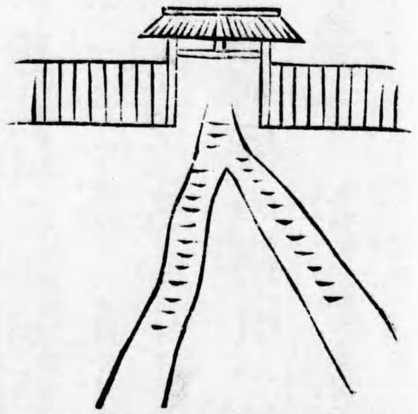
●門前に墓あるも前に同じ



●宅舍の入口又門に衝あたる道を衝破と云ふて至つて凶である種々の災ひ起り貧困に至る其宅舍に永住することは難い町家など屢主人替るも猶永住しがたい

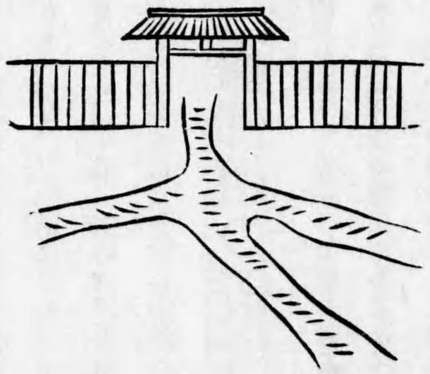


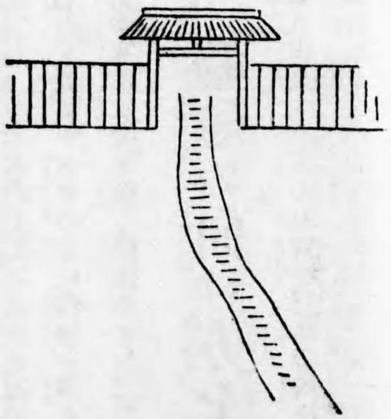




●宅舍或は門前の道直に二筋になるは親子の間睦しからず、田畑も人手に渡し困窮することがある

●宅舍或は門前の道二筋になり一筋は門前に向ひ一筋は他へ走りて屋敷の垣や或は塀を廻れば其家の男子出奔して歸らない





●上圖の如く門前の道路程よく曲りて家に向ふは大吉である家業繁榮にして子孫長久に家僕に忠義者がある

●上圖の如く門前の道十字形を爲すは家道甚しく亂れて其家の妻後家となり密夫を引入れて家の亂れを爲すか或は其家の娘淫奔にして情夫と出奔することがある

## ●門戸の吉凶を説明す

●古人曰く宅舎の門戸は禍福出入の所なりと實に其の吉凶は一家盛衰に係はる故宜しく注意して吉に向ひ凶を避くべきである●門戸の辰巳向は大吉である人出入盛んにして遠方に取引あるか或は田畑家作など所有するものが多い稍南向きもよい然し正南に向ふは火難あるか官邊の災ひ或は目を疾ふものあらん●東向きは金銀の出入繁し又西向も吉である●北向きは其家の主人卑賤より家産を起せしか或は以前身分宜しき人である何れにせよ門より直向きに玄關の見ゆるは宜しくない少しく斜に見えるを以て吉とするのである

## ●神棚の構所を説明す

毎戸神棚を設けて天祖の神靈を奉祀するは我國の美俗にして上古神人一致の遺風であるされば一家の内清淨の所へ祀らねばならぬ厠の側或は臺所の近邊など甚だ宜しくない、又中間に隔てなくして竈と向ひ合ふは不吉である、可成一家の内の未申、丑寅の方位を避けて東か辰巳か或は南向きに清淨の場所へ祭るのがよい

## ●佛檀の置所を説明す

佛壇を構えて先祖の尊靈を祭るは祖先崇拜の美風にして又追遠厚德の誠道であるされば一家の内清淨なる場所を撰み朝夕香華を供して祭祀すべきである其の構え處は戌亥又は辰巳にして西向き東向き又は南向きを宜しとす丑寅や未申の方に佛壇を構えるは家内に病人絶えず家業衰微を招く故注意せねばならぬ

## ●竈の向け方を説明す

●人世最大必要の衣食往三者の内にて第一は食である其食を煮烹し調味する竈は一家一身の榮枯盛衰に大關



係がある殊に昔時は竈は五行を具備するものとして家相上肝要の事として論したのである次に其向の吉凶を示す●東向きは家業繁昌して子孫聰明である●西向きは家内に口舌爭論絶えず又何歟と出費が多い●南向きは家業盛んなるも妻の權力强し●北向きは病難多い●丑寅、未申、戌亥に向くは凶である●辰巳向は吉

## ●井戸の構所を説明す

●水は人生最必要の物にして一日も缺くべからざるものである故に井泉は家相上肝要事の一に屬し其の吉凶の應顯も一層甚しきものである

井戸は竈の直ぐ傍にあるか又は竈と向ひあふは甚だ凶である病難火災或は家業衰微を主る又東西南北の正當か丑寅、未申の方位にあるは凶である●巳、亥、甲、乙（東の兩脇）庚、辛（西の兩脇）壬、癸（北の兩脇にあるは禍祿多く家業繁昌するのである

## ●臺所流塲構ひ所を説明

●庖厨則ち臺所は一家の食餌を調理する所にて一家最要の場所であるされば東西南北の正當の方位及び未申丑寅の方を忌む其宜しき方位は前の竈の所と同じ方位を吉とする。

## ●便所構所の吉凶

●厠は臭汚の物を排泄する所なれば常に清淨に爲すべきである且つ井戸又は臺所に接近するは甚だ凶し、又厠東方にあれば長子疾身か放蕩者なり●南方にあれば眼病又は盲目のものあらん●西の方にあれば其家の娘病身か或は淫奔なり●北の方にあれば其家の主人素行修らざるか又は一家に病人が絶ない其他四隅も其正當を忌む宜しき方位は甲、乙、庚、辛、壬、癸の方位を吉とするのである

## ●浴室構所の吉凶を説明す

●浴室も亦た脂垢汚穢を洗浴ある所なれば東西南北及び四隅の正當の方位を避けて甲、乙、庚、辛、壬、癸、などに構ゆるを宜しとす

## ●牛馬の小屋構所を説明す

●乘馬或は農事に使用する牛馬は陰濕の地を避けて常に乾燥の地を撰むべきである方位は未申、丑寅の方を忌む又東西南北の正當を避けて用ゐれば差支へない

## ●倉庫納屋構處を説明す

●倉庫納屋は一家の財寶貨物又は雜物を入るゝ所にして又一家の最必要の所である多く北方或は西方にあるを吉とす南方又は東方は甚だ宜しくない戌亥の方に倉ありて尙ほ辰巳の方に倉庫あれば遠方との取引盛んにして利益多く家業盛んである●丑寅の方に倉庫納屋あれば一代は富み榮ゆるとも男子育たずして多くは養子相續となる又しば〳〵疾災がある

## ●隱宅、離れ家の吉凶

●隱宅又は離れ家は別に一家を爲せども元來母屋の附屬なれば宅舍總体より其吉凶を論ずるを至當とするのである●隱宅東の方にあれば是に住する人色情深く女難などにて相續者に迷惑を掛くることあるかさなくば遊藝文學を好み放逸にして金錢を往費するものが多い●辰巳の方の隱宅に住する人は外に妾宅を構ゆるか或は旅行を好み遠國に出で女難あり又再び本宅に歸ることがある●南の方にあればよく母屋の事に口を出して相續人に忌み嫌はる●未申の方又は丑寅の方に離れ家又は隱宅あるは至つて凶である●北の方又は戌亥の方にあるは吉である●西の方は女色の難がある



## ●床の間のある方位の吉凶

●床の間或はそれに並びて違ひ棚袋戸棚などあるは我國の風俗にして盛んに地理風水を論ずる支那にもなきことである又我國にても奈良朝以前にはないのである平安朝に至り藤原氏の一門榮華を極め公卿は皆其一門の人々にして又歷代天皇の中宮は多く其子女より出たれば自然其邸宅に天皇の行幸も屢あつたのである其時至尊の御座所として設けしもの故今普通一般住宅に見る如き狹隘なるものではない又違ひ棚袋戸棚等は至尊の御冠り又は御携帶品を置く所として設けられしものである然るに藤氏の權勢衰え武門の盛んなるときに至つて其邸宅を營むに當り多く堂上方の邸宅に倣ひて床間或は違ひ棚等を設けたのである然るに足利氏末葉より上下の分大に亂れ民間にても一地方に勢力ある豪農長者の如きも亦武門の邸宅を眞似て皆家宅は之を設構するに至つたのであるされば一家にても最貴の場所として常に清淨にするは勿論是に掛る所の繪畫等も大に撰まねばならぬ淫猥のもの怪異のもの等は之を避けねばならぬ又其構ゆる方位は北より南に向ふを最吉とす●西より東に向ふも吉である又戌亥より辰巳に向くも吉である●未申の方、丑寅の方は宜しくない其家の主人頭痛逆上を疾ことがあるなるべく陰の方より陽の方に向ふ樣にせねばならぬ

## ●家業を繁榮にする法

●屋敷神は其邸宅を守護し一家の安寧息災を司る故宜しく吉方を撰みて之を建立すべきである●戌亥の方に建てゝ辰巳向きになすは大吉なり家運盛んにして子孫繁榮である東向き南向き又吉である●辰巳の方に祠を建つる時は戌亥に向くを吉とする又東向き南向きもよろしい●丑寅の方、未申の方に祠を建つれば變死狂亂

又は病災を主とる●南の方に建つる時は東向き北向き吉である●北の方に祠を建る時は南向き東向き辰巳向き最も吉である殊に北辰妙見を祭れば家運盛大に至るのである●西の方に祠を建つれば東向大吉なり南向き辰巳向き之に次ぎて吉である●東の方に祠を建るときは家内和睦し子孫に賢子生る

## ●養子相續の家相

●東の方大に張り出でたるか又は大に缺込たるか●未申の方に四疊あるか●又は東の方に厠のある家は養子相續の家なり實子あるとも兎角放蕩か病身にて家の役に立たざるものである

## ●妻又は娘の淫奔なる家相

●辰巳の方に厠あるか又は大に缺込たるか●西の方不相應に張出たるか或は不相應に缺込みたるは其家の妻又は娘派手好きにして淫奔なり他の男を引入るゝか或は家の奉公人などゝ家出などすることあがる

## ●變死のある家相

●丑寅の方に井戸あるか●未申の方に三疊の間あるか●北の方に七疊の間あれば變死のありし家にて永く住居することが出來ないそれ故家に怪しき事が屢々ある

## ●火災のある家相

●南の方に地所家宅などの大いに缺込みたるか又は不相應に張出したるか●南の方に三疊の間あるか厠あるか●北の方に三疊の間あるは皆火災のある家相である

## ●劍難のある家相

●未申の方に三疊の間あるか●戌亥の方に三疊の間ありてそれに六疊の間に續きたる家か●戌亥の方の屋敷神の祠母屋に背て建立しあれば劍難のある家相と見る

## ●狂人の出る家相

●中央に三疊の間あるか●戌亥の方に厠あるか他人の墓などあるは其家の主人逆上して狂人の如くなる●又辰巳の方にあれば其家の妻又は長女逆上して狂人



の如き行ひあらん

## ●難産のある家相

●未申の方に井泉池水あるか又辰巳の方に七疊あれば流産又は難産がある

## ●長子家出をする家相

●東の方に地所大に缺込みたるか●戌亥の方に四疊の間あるか●辰巳の方に四疊の間あれば長男或ば長女の家出を爲す家相である

## ●後家になる家相

●丑寅の方に八疊の間あるか●北の方の地所或は家宅不相應に缺け込みたるは女主人か若くは妻の權力盛んにして夫に替りて家業を營むのである

## ●肺病のある家相

●辰巳の方に地所又は家宅など缺込みたるか●西の方の地所家宅など缺込みてなほ丑寅の方に缺込あるか●辰巳の方又は正西の方に厠或は汚水などの溜りのある家は肺病に罹るものがある

## ●盲目又は啞の出る家相

●南の方の地所など大に缺込たるか●又は南の方に三疊の間ある家は家人眼を疾ふ甚しきは盲目となることがある●西の方の地所家宅など缺込て丑寅の方の張出したる家には啞者の生るゝことがある

## ●癩病のある家相

●丑寅の方に厠あるか●或は丑寅の方の地所家宅など大に缺込みたるは癩病の出る家相である

## ●賊難のある家相

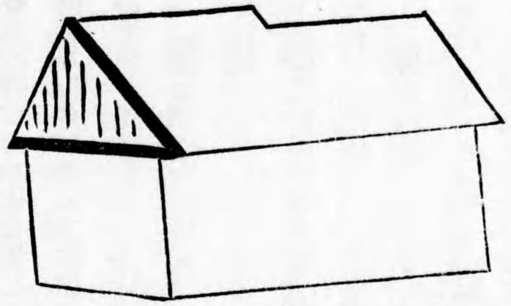
●北の方大に缺込だるか又は北の方に二疊あるか或は西に六疊あるは賊難がある

## ●死靈のある家相

●丑寅の方に大樹ありて晝猶暗きか又は北の方に七疊ある家には死靈の祟あり又丑寅の方に六疊あれば多くは墓地などの跡にて其死靈の祟ることがある

## ●血統の絶ゆる家相

●住宅の棟木の通つてをらぬ家は凶である多くは子孫斷絶して養子も滿足な者ではない如何に大家にても棟木は一本のものを用のるがよい接木したのは必ず家内に病人あるか家運衰微に至る又長屋建なれば一軒毎に一本の棟木を用ひるがよい然るに一軒より次の一軒へ棟木を通して接木したのは住む人に災ひがある故自然家賃などの滯りが出來る又空家になり易いそれ故一軒毎に棟木を別にするか長き棟木にて二軒三軒と一本にて通すがよい又圖の如く棟筋の通らぬ家は一家に不具の者生るか病難あるか遂に血統が絶えるのである



## ●神社佛閣の跡へ建家するの吉凶

●神社佛閣の跡へ建家するには最も注意せねばならぬ直ちに屋敷として建築すれば其靈氣或は魂氣を汚して甚だ敷凶事である故に宜敷地鎮祭を行ひ墓地跡なれば地下を探査して一本の骨骸もなき樣にし然る後地下三尺程土を取り捨て他の清土を持來りて補ひ建築に取りかゝるがよい佛室、神社跡又土を取り替る事同じ然らざれば必ず狂人變死又は不具の者生るゝことがある

## ●逆木柱の災ひを説明す

●逆木柱を用ひることは甚しき凶事である物に本末あるは天地の通理にして其末を元にし本を末にするは逆行の氣にして天地の理に戻れりそれ故逆木柱ある家は常に病人あるか主人頭痛持にて逆上するか甚しきは狂亂に至ることがある又家運次第に衰微して一家離散するか或は血統絶ゆることがある神社佛閣などにて逆木柱を用ひて參詣者絶えて頽廢に及びし例もあるのである



## ●燒跡に家を建る心得

家を建つるに過燥過濕の地は地德が乏しひ故に決して繁昌しなひ此の如き土地は表面より深さ三尺程堀捨て宅主の吉方に當る清淨な土を採り來つて地均するがよろしひ、燒跡の地は成べく瓦煉瓦の一片だも殘さぬ樣にするがよい濕氣ある土地は（便所跡埋池）の跡等、別して地下水中に種々の破片木片一片と雖も殘さぬ樣にさらひて後少しく他地より高き位に盛り土してよく堅固に打ちならし建築數地とするがよろしい宅地のみならず納屋馬屋土藏の如きも同法によらねばいけない

## ●古井戸埋塞き方

井戸は飲用水を人生に供給する厚德あれば其井戸の塞ぎ方惡しきは自ら祟りを爲すの恐あり故に井戸塞ぎ埋るに際しては水澄まして悉く汲み上げ淨土を以て埋むべし成可は青竹の節を抽しを入れ井底より地上へ氣を發せしむるを吉とす然るに塵芥等の汚物を以て略埋を爲さば大凶なり又住宅の下に古井戸あれば如何に吉方の造作を營み吉相の家宅を構へ或は吉方より其家へ轉居するとも必ず家人異病に惱むか不時の災を免れず其祟氣を受けるゆゑ最も注意するがよい

## ●疊間取吉凶の説明

●疊間取りとは座敷間取りのことで疊の數を以て吉凶を知るのである例へば三疊の間と六疊の間と併んであるは凶であると云ふ如きである次の章を熟讀するがよい附言八疊以上は八を以て除き其殘數にて見る例へば九疊は一疊、十疊は二疊、十二疊は四疊と同し又一疊と一疊とは一疊の間と一疊の間續くので其下に二疊とあるは一疊の間と二疊の間と續くのである以下準之す

●一疊　と一疊か或は二疊は全々比和にて吉●三疊は凶●四疊は長男病身●五疊遠方の取引損失●六疊大吉●七疊失費が多い●八疊は富貴繁榮ならん

●二疊　と二疊は口舌爭論あり●三疊は口中の病あ

り●四疊色情女難あり●五疊遠方の事で損失●六疊女にて禍分を得●七疊少男他の女と通す●八疊女權強し

●三疊　と三疊火難眼病あり●四疊立身出世家業繁榮●五疊遠方の取引にて利益あり●六疊訴訟爭論あり又火難水難あり●七疊他人の助あり吉●八疊大吉

●四疊　と四疊家内不和合凶●五疊金融宜しく吉●六疊家業繁昌するも家に締りなし●七疊兄弟不和にして不慮の災あらん●八疊養子するか末子に家督を讓る

●五疊　と五疊諸事都合よし●六疊後妻を娶るか、養子相續なり●七疊一家圓滿ならず●八疊肺病或は胃腸病を疾ふ

●六疊　と六疊夫婦和合せず偏屈者なり●七疊家業衰微して永く住ひ難し●八疊肝癪持にてよく腹を立つ

●七疊　と七疊差支なし●八疊妻の權力强く夫を凌

●八疊　と八疊妻は再緣の者か義理の父母あらん又は夫に替り家政を取る

## ●方位の祟にて發する病氣の說明

●病氣は醫藥によりて之を治するは云ふまでもないが世の中の事はそう單純に云へぬもので如何に醫者の見立もよろしく又藥は適用せられても其病氣の快方に趣かぬ事がある是は凶方凶殺を犯した病ひ故凶殺を解き除く法を修しなければ回復することは出來ないされば如何なる凶方を犯せば如何なる疾病に罹るかと云ふことを概略次に記して諸士の參考に供するのである

●二黑八白五黃九紫の人、一白水星の方位を犯す時は耳の病ひか水氣痔疾腫物下の病●三碧四緣一白の人、二黑土星の方位を犯せし時は胃腸を疾ふか身躰引つるか腸部の病ひである又八白土星の方位を犯せば脚氣痿麻質期瘡毒胸腰の病を患ふ●一白三碧四緣の人五黃の方位を犯すときは胸腹の痛み足腰の筋引釣ることあり

●二黑八白五黃七赤六白の人、三碧木星四緣木星の方



位を犯せば眼病か逆上頭痛あるか婦人は下の病ひを疾ふ●九紫三碧四緣の人、六白金星七赤金星の方位を犯せば溜飲喘息逆上頭痛內股の節つることあり●一白六白七赤の人、九紫火星の方位を犯せば眼病熱病逆上或は狂亂になることがある

## ●方災解除砂撒の法

●過つて凶方凶殺を犯した場合に始何にして其災害を免れんかと云ふに茲に方災解除砂撒の法と云ふのがある此修法は其効朝日の霜を溶す如く非運病災忽ち消滅して幸福繁榮の家庭となるの妙術である古來修行者の秘密とせし所なれども本館特に本書に採錄す希くは世の悲運病難に惱める人若し方災を犯したると覺らば自ら斯法を修して其災厄を免れたまへ

其方法は自分の本命星と相生する吉方の神社又は淸淨なる土を取り來り鹽を振り掛け切火を掛け方災解除を神明に祈り然る後家の內外の椽の下に普く撒布べし其修行日は三七二十一日間である又其吉方は年月日時の吉方重りたるときを最も修行に宜しき日である

例へば一白の人五黃の年二黑の月に之を行はんとすれば四緣の日の五黃の時を撰んで西の方に此土を求むれば大吉である卽ち五黃の年、時には西は七赤金星、二黑の月は西に四緣木星、四緣の日は西に六白金星で皆一白水星の人には大吉である

## ●吉方吉日なき場合に普請造作を爲す法

●普請造作を爲さんとしても吉方吉日なき場合如何にして普請造作をなせば災厄を免るゝかと云ふに茲に眞太陽の吉神の法と云ふて今迄不運の人も此時より福運に趣く修法である古來方鑑家の秘密にせしとなれども本館特に濟世の微意を以て左に記す宜しく應用して普請造作動土をなし大吉運を開くべきである

## ●眞大陽吉神の法（但し新暦）

●一月大寒中より二月雨水の前日迄は子の日午後十一時より午前一時迄に子の方を普請せば大吉方

●二月雨水中より三月春分の前日迄は亥の日午後九時より同十一時迄は亥の方を普請せば大吉方

●三月春分中より四月穀雨の前日迄は戌の日午後七時より同九時迄戌の方を普請せば大吉方

●四月穀雨中より五月小滿の前日迄酉の日午後五時より同七時迄酉の方を普請せば大吉方

●五月小滿中より六月夏至の前日迄申の日午後三時より同五時迄申の方の普請せば大吉方

●六月夏至中より七月大暑の前日迄未の日午後一時より同三時迄未の方を普請せば大吉方

●七月大暑中より八月處暑の前日迄午の日午前十一時より午後一時迄午の方を普請せば大吉方

●八月處暑中より九月の秋分の前日迄巳の日午前九時より同十一時迄巳の方を普請せば大吉方

●九月秋分中より十月霜降の前日迄辰の日午前七時より同九時迄辰の方を普請せば大吉方

●十月霜降中より十一月小雪の前日迄卯の日午前五時より同七時迄卯の方を普請せば大吉方

●十一月小雪中より十二月冬至の前日迄寅の日午前三時より同五時迄寅の方を普請せば大吉方

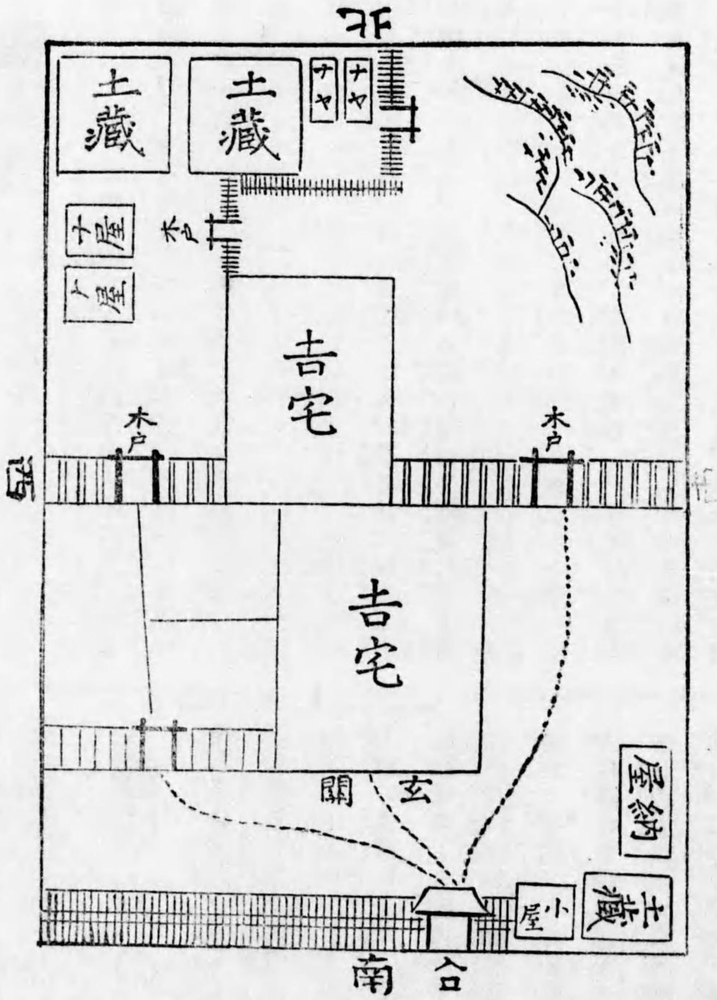
●十二月冬至中より一月の大寒の前日迄丑の日午前一時より同三時迄丑の方を普請せば大吉方

以上は毎年伊勢大神宮の略本暦により二十四節を見て其節を知るべし、而して此眞太陽に福德を乞はば是迄凶運も大吉運となるものなれば凶方に普請を作すとも忽ち吉方となりて福德多祥なるべし

尙は造作の如き少時間内に爲し能ふことは右の時間内に爲すが宜い



## ●家内繁榮子孫長久吉祥瑞宅の圖




圖の如き住宅は富貴繁榮の吉相で福神は表口より集り來て宅内に止り戌亥の土藏に納る子孫は目上の引立を得て立身し召し使はよく忠實に働き少しの邪曲をなさず牛馬蕃殖し田畠の作物養蠶の收穫等自ら增進す凡そ宅内に此の如き吉相を備へれば病難盜難を免れ鬼門金神の祟りを妨ぎ運氣愈〻發展して諸願成就し長なへに不具廢人を出さず丑寅の築山は其家の障りを防ぎて鬼門除となり辰巳の土藏は主人の福德盛んとなり名聲四方に廣がり實に無類の吉宅である

# ●方鑑の見方

●家相と方鑑とは相離るゝとの出來ぬものにて、恰も鳥の兩翼、車の兩輪の如しとは本書の緒言中にも述べてあるが假りにも一家の普請、又は移轉を爲す場合には、家相上の吉凶に注意すると共に方位の良否も忽諸にしてはならぬ、例令ば茲に家相上少し、批難する處のない結構な良い家を普請しても、其普請に取掛る日が惡るかつたり、又其建つる家が年月の凶方に當る方角であるときは、方災祟殺を受けて必ず災禍がある又方角ばかり氣に掛けて年月の吉神、吉星などを調べて普請や移轉をなしても、其家が家相上甚しく凶るい家であつたら是又恐るべき炎禍を蒙むるのである、それ故苟しくも一軒の家を構える人は、家相と方鑑とは是非兩方共に調べぬと他日臍を嚙む樣な後悔することがある、鳥も片羽では飛べない、車も片輪では廻らない故、一家を構える折は家相と方鑑とは共に調べて凶を避け吉に趨く樣なすがよい。

## ●凶方の說明

●凶るい方角を犯して病氣、盜難、怪我、火炎、水害破財等數々なる災害を招くを方災と云ふて、天地循環の氣に逆ふが故に其祟災を受けるのである、凡て人は天地の化育によりて生存するものなれば、其天地の氣に感ずるとも亦密接である、それ故吉方に向へば自ら心氣爽快にして慶福吉祥を招き、凶方を犯すときは心氣常に憂鬱にして病難苦厄自ら來るとなる故、凶方は避ける樣注意すべきである。

●又凶方には方殺と神殺とある、方殺とは暗劍殺、五黃殺、本命、的殺、其他相尅の星位にして、神殺とは歲破、月破、金神、大將軍其他の凶神の所在する方位を云ひて共に恐れ慎しむべき方位である。



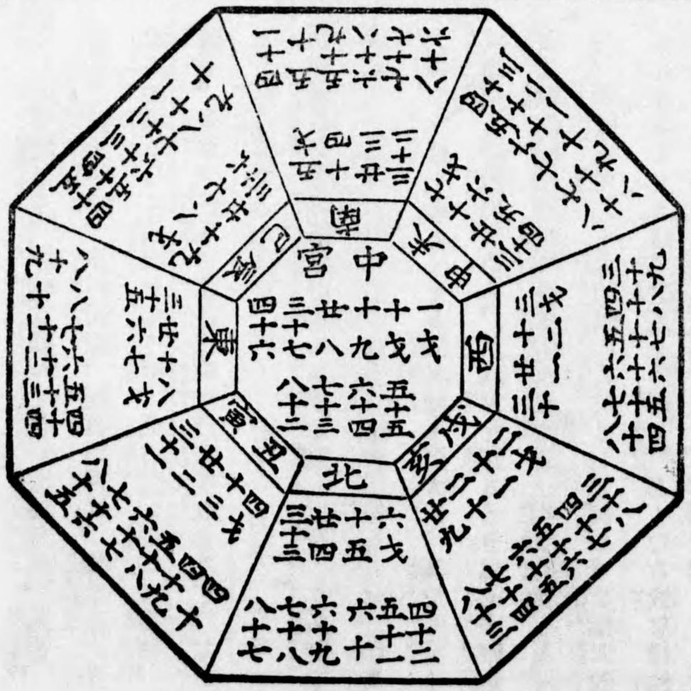
## ●本命と的殺の說明

●本命とは年にても月にても、自分の生れ年の主命の星の居る座の方位を云ふのである、又的殺とは本命と向ひあひたる方位を云ひ、恰も的の如く本命星と相對して凶殺を主どる故的殺と云ふのである。

此本命の方位も、的殺の方位も共に凶方故之を犯すと必ず災害を蒙むることとなる、それ故此方位に向つて普請、造作、塀垣の修繕、動土、伐木、樹木の植替え移轉、旅行、嫁婿取り其他凡ての事を慎まねばならぬ、なほ的殺の方位は相尅の星が居れば其災害は甚だ重く相生の星が居れば其災害は輕く、なほ吉神と相會するときは其災害は免れるのである。

●本命と的殺はどう云ふ工合に巡行するかと云ふに、生れた年は本命は中宮に居る故的殺はない、二歲になると本命は乾宮に順行し、的殺は巽宮に逆行する、三歲は本命兌宮に行く故、的殺は震宮に行く、斯くの如く年を追ひて反對に八宮を巡行するが、十歲になると復元の中宮に歸る（それ故十歲の年は的殺はない）又十一歲より再び前の如く巡行するのである。

### 本命と的殺の早見



●各自の年の數を記してある所が本命の座にして其向ひ合ふ方位が的殺である、從令ば三十八歳の年は戌亥の方に本命が居る故、辰巳の方が的殺となる、三十九歳は西の方に本命が居る故、東の方が的殺となる、餘は之に準ふて知るがよい。

## ●暗劍殺、五黃殺の說明

●暗劍殺とは其年、又は月の中央に居する主星の定位の方位を云ふのである、九星は交々中央に位ゐする其年又は月の星を主星となすが故に中央に居る星は恰も國家に於ける君主の如く、他の八宮に居る星は臣下の如きものである、それ故其中宮に入りたる星の空位に他の星が巡り入るときは、臣として君位を奪掠すると同じ理にして、亂逆殺伐の氣鋭きが故に之を暗劍殺と名けたのである、斯る大凶方なるが故に、過つて犯すときは丁度暗夜の物蔭より不意に刀劍を以て切り付けらるゝと同じく、不意に降つて湧いたやうに、病難、盜難、親子喧嘩、家内紛紜、無實の罪科、事業上の失敗其他數々なる災禍を招く故、此方位に向つて普請、動土、修繕、伐木、移轉、旅行、嫁婿取りなど、なさゞる樣注意するがよい。

●五黃殺とは、五黃の居る方位を犯して受くる災殺を云ふのである、元來五黃は參天兩地の數を合せ、中央大極の土德を備えてをる故其德も廣大に、其位も重く其殺氣も亦激烈である、其八方を巡るときは必ず暗劍殺と對ひ合ひて冲れる故此五黃殺を一名冲關殺とも云ひ、歳破と同じく大凶殺の方位としてある、又都天殺と相重なるときは其殺氣も一層甚しくなる故なほ注意せねばならぬ、斯る凶方なれば五黃殺に向つては普請、造作、移轉、旅行、嫁婿取りは勿論、土を動かすとは甚だよくない、それ故井戸掘り、穴藏、築山、土塀、堤防、竈の修繕、樹木の植替え其他何事によらず土を動かすとは凶である、之れを犯せば必ず禍災ありて重きは其家の主人に災ひし、輕きは家人に祟るとなる又此方位に胞衣を埋むる時は、其生兒は病身にして多くは短命である、されば此方位は犯さぬがよい。

| 暗劍殺 | | 五黃殺 |
|---|---|---|
| 一白中宮の年は | 北の方 | 南の方 |
| 二黑中宮の年は | 未申の方 | 丑寅の方 |
| 三碧中宮の年は | 東の方 | 西の方 |
| 四綠中宮の年は | 辰巳の方 | 戌亥の方 |
| 五黃中宮の年は | なし | 中央 |
| 六白中宮の年は | 戌亥の方 | 辰巳の方 |
| 七赤中宮の年は | 西の方 | 東の方 |
| 八白中宮の年は | 丑寅の方 | 未申の方 |
| 九紫中宮の年は | 南の方 | 北の方 |



## ●歳破の方の說明

●歳破は一名大耗と名づけ、太歳の冲する所なれば、普請、動土、移轉、嫁婿取り、旅行等を忌む、もし犯かすときは其家の主人を殺し、或は盜難に罹る故注意して犯さぬがよい、其方位は

| 歳破方 | |
|---|---|
| 子年 | 午方 |
| 丑年 | 未方 |
| 寅年 | 申方 |
| 卯年 | 酉方 |
| 辰年 | 戌方 |
| 巳年 | 亥方 |
| 午年 | 子方 |
| 未年 | 丑方 |
| 申年 | 寅方 |
| 酉年 | 卯方 |
| 戌年 | 辰方 |
| 亥年 | 巳方 |

## ●金神の說明

●金神は大金神、地金神、姫金神、巡金神等六金神ありて其名を異にすれども、總て金氣旺盛に殺伐を主る。

是を犯せば病氣盜難人命を損ずるから此方に向て普請、修繕、移轉、動土等大凶です其方位は次表に記す

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大金神 | 子年 | 丑年 | 寅年 | 卯年 | 辰年 | 巳年 | 午年 | 未年 | 申年 | 酉年 | 戌年 | 亥年 |
| 姫金神 | 卯方 | 辰方 | 巳方 | 午方 | 未方 | 申方 | 酉方 | 戌方 | 亥方 | 子方 | 丑方 | 寅方 |

## 巡金神

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 甲年 | 乙年 | 丙年 | 丁年 | 戊年 | 己年 | 庚年 | 辛年 | 壬年 | 癸年 | | |
| 午 未 | 辰 巳 | 寅 卯 | 寅 卯 | 申 酉 | 午 未 | 辰 巳 | 寅 卯 | 寅 卯 | 申 酉 | | |
| 申 酉 | | 子 午 丑 未 | 戌 亥 | 子 丑 | 申 酉 | | 子 午 丑 未 | 戌 亥 | 子 丑 | | |

●注意金神の方に向ひ止を得ず移轉、修繕、動土等なす時は遊行の日を用ふれば差支ありません又九紫火星の巡る時或は天道、天德、月德等の吉神の巡る月は之を能く制します今其金神遊行日を左に示す

●一月の節に入つた日から三月の末土用に入る前日迄は春の部である此三ケ月の内は甲寅の日から戊午の日迄五日の間南方へ遊行しますから南を除て餘は障ありません

●四月の節に入る日から六月の末土用に入る前日迄は夏の部です此三ケ月の中は丙寅の日より庚午の日迄五日の間西方へ遊行しますから西を除て他は障りありません

●七月の節に入る日から九月の末土用に入る前日迄は秋の部です此三ケ月の中は庚寅の日より甲午の日迄五日の間北方へ遊行しますから北を除て他は障ありません



●十月の節に入る日から十二月の末土用に入る前日迄は冬の部です此三ケ月の中は壬寅の日より丙午の日迄五日の間東方に遊行しますから東を除て餘は障ありません

●四季の土用に入る日から其次の月の節に入る前日迄は土用の部です右土用の中は戊寅の日より壬午の日まで五日の間、辰戌丑未の方へ金神遊行しますから右の方角を除て餘は障ありません

## ●大將軍と其遊行日の說明

●大將軍は三年間一つ所を動ぬ故に三年塞りと謂ひます則ち武人を統御なす象なれば殺伐の氣あり之れを犯す時は七人の死を見ると謂ひますから此方に向て普請、造作、移轉、動土、旅行等總て大凶です其年々の方位は左圖を見て知り給ひ

## 大將軍

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 子年 | 丑年 | 寅年 | 卯年 | 辰年 | 巳年 | 午年 | 未年 | 申年 | 酉年 | 戌年 | 亥年 |
| 酉方 | 酉方 | 子方 | 子方 | 子方 | 卯方 | 卯方 | 卯方 | 午方 | 午方 | 午方 | 酉方 |

●注意大將軍の方に向ひ止を得ず移轉、修繕、家敷替、旅行、其他婚嫁等取迎をなす時は遊行の日を用ふれば障ありません又は九紫火星の巡る時か或は天道、天德、月德等の吉神の巡る年月は之を能く制します卽ち吉神は火星であります今其遊行日を示せば左の如し

●甲子の日より戊辰の日まで五日の間東方へ遊行しますから東は凶です他は障りありません●丙子の日より庚辰の日まで五日の間南方へ遊行しますから南は凶です他は障なし●戊子の日より壬辰の日まで五日の間辰戌丑

未の方へ遊行します其他は障ありません●庚子の日より甲辰の日まで五日の間西方へ遊行しますから西は凶です●壬子の日より丙辰の日まで五日の間北方へ遊行しますから北は凶です他は障りありません

## ●歳刑神凶方の説明

●歳刑神は之又陰の凝精であつて罪惡に對して刑罰を司るものである殊に土木の事業を忌むを以て此方に向つて、動土、伐材、植產を避くるがよい、若し刀劍兵具を收むるに用れば大功あるものである其座所は

| 歳刑神 | |
|---|---|
| 子年 | 卯方 |
| 丑年 | 戌方 |
| 寅年 | 巳方 |
| 卯年 | 子方 |
| 辰年 | 辰方 |
| 巳年 | 申方 |
| 午年 | 午方 |
| 未年 | 丑方 |
| 申年 | 寅方 |
| 酉年 | 酉方 |
| 戌年 | 未方 |
| 亥年 | 亥方 |

## ●歳殺神凶方の説明

●歳殺神は其年の害神であつて陰星の精である公然活動すべき事を忌み萬物を滅却するの害を爲すもので、人事に於て、此方に移轉、旅行、婚姻なせば大害立ちどころに至る其座方は次の如し

| 歳殺神 | |
|---|---|
| 子年 | 未方 |
| 丑年 | 辰方 |
| 寅年 | 丑方 |
| 卯年 | 戌方 |
| 辰年 | 未方 |
| 巳年 | 辰方 |
| 午年 | 丑方 |
| 未年 | 戌方 |
| 申年 | 未方 |
| 酉年 | 辰方 |
| 戌年 | 丑方 |
| 亥年 | 戌方 |

## ●黃幡神凶方の説明



●黃幡神は極陰の精であつて殺伐凶妄にして恐るべき方位である、普請、動土、植込等甚だ凶なれば宜しく氣を付けて見合すがよいしかし殺伐の氣ある故武術始めなどには大吉方となる其の座方は次の如し

| 黃幡神 | |
|---|---|
| 子年 | 辰方 |
| 丑年 | 丑方 |
| 寅年 | 戌方 |
| 卯年 | 未方 |
| 辰年 | 辰方 |
| 巳年 | 丑方 |
| 午年 | 戌方 |
| 未年 | 未方 |
| 申年 | 辰方 |
| 酉年 | 丑方 |
| 戌年 | 戌方 |
| 亥年 | 未方 |

## ●太陰神凶方の説明

●太陰神は太歳神の后妃に位するものとせられてある實は其年の陰時を司る月精である此方位は婦人の事は忌む方であつて、婚姻、臨產等惡しき故注意せよ今毎年の臨座左の如し

| 太陰神 | |
|---|---|
| 子年 | 戌方 |
| 丑年 | 亥方 |
| 寅年 | 子方 |
| 卯年 | 丑方 |
| 辰年 | 寅方 |
| 巳年 | 卯方 |
| 午年 | 辰方 |
| 未年 | 巳方 |
| 申年 | 午方 |
| 酉年 | 未方 |
| 戌年 | 申方 |
| 亥年 | 酉方 |

## ●豹尾神凶方の説明

●豹尾神は黃幡神に對する陽神とも云ふべき方神であつて其の猛惡なる事黃幡神を越ゆる極陽の精であつて凝れは忽ち陰氣を發するのである此方に向つて、牛馬、畜類を求むる事を忌み又雇人を求むる事を嫌ふ、此方不淨を忌めば常に清潔にすべし其座方は次の如し

## 豹尾神

| | |
|---|---|
| 子年 | 戌方 |
| 丑年 | 未方 |
| 寅年 | 辰方 |
| 卯年 | 丑方 |
| 辰年 | 戌方 |
| 巳年 | 未方 |
| 午年 | 辰方 |
| 未年 | 丑方 |
| 申年 | 戌方 |
| 酉年 | 未方 |
| 戌年 | 辰方 |
| 亥年 | 丑方 |

## ●都天凶方の説明

●都天は中央の土十干に於て戊己の泊る處であつて其の巡行に、二ヶ所、四ヶ所の分ちがある卽ち戊の泊する處己の泊する處然して土殺卽ち五黃殺に等しき陰毒有つて苦し敬せられば必ず主人に祟る、多く濕病を患ふ其座處は

## 都天

| | |
|---|---|
| 甲年 | 辰巳方 |
| 乙年 | 子丑 寅卯方 |
| 丙年 | 戌亥方 |
| 丁年 | 申酉方 |
| 戊年 | 午未方 |
| 己年 | 辰巳方 |
| 庚年 | 子丑 寅卯方 |
| 辛年 | 戌亥方 |
| 壬年 | 申酉方 |
| 癸年 | 午未方 |

## ●白虎凶方の説明

●白虎は歲中の凶神であつて姫金神と同格で金氣の西に屬して甚だ殺伐である動土、普請、之れを犯せば忽ち病人出來るか或は死亡者あらん其座處は

## 白虎

| | |
|---|---|
| 子年 | 申方 |
| 丑年 | 酉方 |
| 寅年 | 戌方 |
| 卯年 | 亥方 |
| 辰年 | 子方 |
| 巳年 | 丑方 |
| 午年 | 寅方 |
| 未年 | 卯方 |
| 申年 | 辰方 |
| 酉年 | 巳方 |
| 戌年 | 午方 |
| 亥年 | 未方 |



## ●死符、病符凶方の説明

●死符、病符は前年の歲破、太歲の跡に座する故隨つて其旺害も甚しいされば死符は土を動かす事又塚、墓を造り或は堀り返す事を忌む病符は此方位に新規に事を始むれば病災を司る其座方は次の如し

## 死符 病符

| | |
|---|---|
| 子年 | 亥方 |
| 丑年 | 子方 |
| 寅年 | 丑方 |
| 卯年 | 寅方 |
| 辰年 | 卯方 |
| 巳年 | 辰方 |
| 午年 | 巳方 |
| 未年 | 午方 |
| 申年 | 未方 |
| 酉年 | 申方 |
| 戌年 | 酉方 |
| 亥年 | 戌方 |

## ●劫殺、災殺凶方の説明

●劫殺、災殺に共に歲殺に亞ひての凶殺であつて、修繕、普請、動土、植付等最も忌む

## 劫殺神 災殺神

| | |
|---|---|
| 子年 | 巳方 |
| 丑年 | 寅方 |
| 寅年 | 亥方 |
| 卯年 | 申方 |
| 辰年 | 巳方 |
| 巳年 | 寅方 |
| 午年 | 亥方 |
| 未年 | 申方 |
| 申年 | 巳方 |
| 酉年 | 寅方 |
| 戌年 | 亥方 |
| 亥年 | 申方 |

## ●月の大凶殺の説明

（用法は年の凶殺と同じ月は凡て新暦なり）

●月破は月建の冲する所で是を犯せば歲破と同じである其方位は左圖に示します

| | 一月 | 二月 | 三月 | 四月 | 五月 | 六月 | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 月建方 | 丑方 | 寅方 | 卯方 | 辰方 | 巳方 | 午方 | 未方 | 申方 | 酉方 | 戌方 | 亥方 | 子方 |
| 月破方 | 未 | 申 | 酉 | 戌 | 亥 | 子 | 丑 | 寅 | 卯 | 辰 | 巳 | 午 |
| 劍鋒方 | 艮 | 甲 | 乙 | 巽 | 丙 | 丁 | 坤 | 庚 | 辛 | 乾 | 壬 | 癸 |
| 月刑方 | 戌 | 巳 | 子 | 辰 | 申 | 午 | 丑 | 寅 | 酉 | 未 | 亥 | 卯 |
| 月殺方 | 辰 | 丑 | 戌 | 未 | 辰 | 丑 | 戌 | 未 | 辰 | 丑 | 戌 | 未 |
| 月害方 | 午 | 巳 | 辰 | 卯 | 寅 | 丑 | 子 | 亥 | 戌 | 酉 | 申 | 未 |
| 劫殺方 | 寅 | 亥 | 申 | 巳 | 寅 | 亥 | 申 | 巳 | 寅 | 亥 | 申 | 巳 |

## ●月塞、日塞りの凶方（但し新暦を用ゆ）

●月、日の塞りは百事凶で何事も忌み憚りて注意し犯さぬ樣なすべきである其座方は次の如し

| 月塞 | |
|---|---|
| 一月 | 申方 |
| 二月 | 丑方 |
| 三月 | 辰方 |
| 四月 | 未方 |
| 五月 | 戌方 |
| 六月 | 子方 |
| 七月 | 卯方 |
| 八月 | 午方 |
| 九月 | 酉方 |
| 十月 | 亥方 |
| 十一月 | 寅方 |
| 十二月 | 巳方 |

| 日塞（毎月） | |
|---|---|
| 一日 十一日 廿一日 | 東方 |
| 二日 十二日 廿二日 | 巽方 |
| 三日 十三日 廿三日 | 南方 |
| 四日 十四日 廿四日 | 坤方 |
| 五日 十五日 廿五日 | 西方 |
| 六日 十六日 廿六日 | 乾方 |
| 七日 十七日 廿七日 | 北方 |
| 八日 十八日 廿八日 | 艮方 |
| 九日 十九日 廿九日 | 天塞り |
| 十日 二十日 三十日 | 地塞り |



## ●方位吉方の撰み方

普請、動土、移轉、修繕、嫁婿娶、旅行、轉地、或は醫士を迎る等何事を爲すにも吉神、吉方を調べねばならぬ次の圖に因り年月の諸神の所在を知り猶我本命星の相生星と吉神と重なり會ふ方を選用ふれば大に吉福を招き極めて幸福に趣き必ず富貴榮達を得る、實に是最上の大吉方にて貧者も吉方に移轉なすか或は少しの修繕なして大成功を得、重病の者は吉方の醫士を迎て立所に全快なすなど世間多く見る所である宜しく凶を避けて吉に向ひ以て富貴幸福を得べきである

## ●歳徳神大吉方の説明

歳徳は一ケ年の吉神で之をあきの方と云ひ之に本命と相生の星の相會する時は萬事に用ひて大吉である、其巡方を左圖に示す但し表中戊の土は南方の火に因て生ずる者なれば丙に代て戊を用ふるを例とする

| 歳徳 | |
|---|---|
| 甲年 | 甲方 |
| 乙年 | 庚方 |
| 丙年 | 丙方 |
| 丁年 | 壬方 |
| 戊年 | 丙方 |
| 己年 | 甲方 |
| 庚年 | 庚方 |
| 辛年 | 丙方 |
| 壬年 | 壬方 |
| 癸年 | 丙方 |

## ●太歳神吉方の説明

●注意歳徳は一年のあきの方と雖も、月の大凶殺神と同會する時に誤つて犯せば災害を招く故用心なさるがよい

太歳神とは其の年の歳事を司る歳星であつて其の體たるや、其の歳の精である四季萬物の生成悉く之に順ふ故に人事に於ては、移轉、嫁娶、雇入等に用ひてよき方である其座方は其年の枝闘卽ち子の年、子の方、丑の年は丑の方に座して一年を司るのである、又此方に向つて爭論、懸合、伐木などは最も忌む、植付等の物を殖す事は大吉である

## 太歳神

| | |
|---|---|
| 子年 | 子方 |
| 丑年 | 丑方 |
| 寅年 | 寅方 |
| 卯年 | 卯方 |
| 辰年 | 辰方 |
| 巳年 | 巳方 |
| 午年 | 午方 |
| 未年 | 未方 |
| 申年 | 申方 |
| 酉年 | 酉方 |
| 戌年 | 戌方 |
| 亥年 | 亥方 |

## ●歳祿吉方の說明

歳祿は其年の首幹守座の方であつて吉福を司どる方故修繕、動土、旅行、開店、相談など皆成就す其座處は

## 歳祿神

| | |
|---|---|
| 甲年 | 寅方 |
| 乙年 | 卯方 |
| 丙年 | 巳方 |
| 丁年 | 午方 |
| 戊年 | 巳方 |
| 己年 | 午方 |
| 庚年 | 申方 |
| 辛年 | 酉方 |
| 壬年 | 亥方 |
| 癸年 | 子方 |

## ●年の吉神所在の說明

天德は火の旺神で火は日にして陽である、又月德は火の合神で月である月は水なるが故に陰である、然して此陰陽二氣自ら其の性を異にす今此天德月德二氣は陽と陰と云へども相共に胞和の性ありて共に清氣潤育の德あるもので、濁陰尅殺の者でない故に正順なる和合の陰陽であつて、天德は第一吉神、月德は次吉神で、天德合、月



德合は又之に次の吉神である、二德合の兩神は又別に陰陽貴人とも云ふ異名同神である、次の表に依て其所在を知り以て避禍招福の法規とすべきである

| | 子年 | 丑年 | 寅年 | 卯年 | 辰年 | 巳年 | 午年 | 未年 | 申年 | 酉年 | 戌年 | 亥年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 天道方 | 艮坤 | 庚甲 | 乙辛 | 乾巽 | 壬丙 | 癸丁 | 坤艮 | 甲庚 | 辛乙 | 巽乾 | 丙壬 | 丁癸 |
| 天德方 | 巽 | 庚 | 庚 | 丁 | 坤 | 壬 | 辛 | 乾 | 甲 | 癸 | 艮 | 丙 |
| 月德方 | 壬 | 庚 | 丙 | 甲 | 壬 | 庚 | 丙 | 甲 | 壬 | 庚 | 丙 | 甲 |
| 天德合方 | | 乙 | 壬 | | 丁 | 丙 | | 己 | 戊 | | 辛 | 己 |
| 月德合方 | 丁 | 乙 | 辛 | 己 | 丁 | 乙 | 辛 | 己 | 丁 | 乙 | 辛 | 己 |
| 人道方 | 乾巽 | 丙壬 | 丁癸 | 坤艮 | 甲庚 | 乙辛 | 乾巽 | 丙壬 | 丁癸 | 坤艮 | 甲庚 | 乙辛 |

## ●年の生氣吉方の說明

生氣方は五行の順應する所で萬物生育の德を備へ、普請、造作、移轉、旅行、婚姻等、移動、改革の事新規の事に大吉の方である

## 生氣方

| | |
|---|---|
| 子年 | 戌方 |
| 丑年 | 卯方 |
| 寅年 | 子方 |
| 卯年 | 巳方 |
| 辰年 | 寅方 |
| 巳年 | 未方 |
| 午年 | 辰方 |
| 未年 | 酉方 |
| 申年 | 午方 |
| 酉年 | 亥方 |
| 戌年 | 申方 |
| 亥年 | 丑方 |

# ●毎月大吉方の説明

天道とは天德で天德の同封内に所在します例ば天德壬に在座する時は天道は北に位します其吉神たる天德に同座です總て天道、天德、天德合、月德合、月恩、月空等の吉神と我本命星の相生星と重會すれば萬事に用ひて方德を得る大吉方位ですから、普請、修繕、移轉、轉地、家敷替、旅行、開業、醫士を迎ひ試驗を受る等此方に向へば最大吉方です今其方位を左圖に示します但し新暦を用ゆ

## 月の吉神所在の圖

| | 一月 | 二月 | 三月 | 四月 | 五月 | 六月 | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 天道方 | 西 | 南 | 坤 | 北 | 西 | 乾 | 東 | 北 | 艮 | 南 | 東 | 巽 |
| 天德方 | 庚 | 丁 | 未 | 壬 | 辛 | 戌 | 甲 | 癸 | 丑 | 丙 | 乙 | 辰 |
| 月德方 | 庚 | 丙 | 甲 | 壬 | 庚 | 丙 | 甲 | 壬 | 庚 | 丙 | 甲 | 壬 |
| 天德合 | 乙 | 壬 | | 丁 | 丙 | | 己 | 戊 | | 辛 | | 庚 |
| 月德合 | 乙 | 辛 | 己 | 丁 | 乙 | 辛 | 己 | 丁 | 乙 | 辛 | 己 | 丁 |
| 月空方 | 甲 | 壬 | 庚 | 丙 | 甲 | 壬 | 庚 | 丙 | 甲 | 壬 | 乾 | 丙 |
| 月恩方 | 辛 | 丙 | 丁 | 庚 | 己 | 戊 | 辛 | 壬 | 癸 | 庚 | 乙 | 甲 |

●此表中戊己は總て丙に代て用ふるを例と知るべし



## ●月の生氣吉方の説明（用ひ方は年の生氣と同じ）（但し新暦を用ゆ）

| 生氣方 | |
|---|---|
| 一月 | 卯方 |
| 二月 | 子方 |
| 三月 | 艮方 |
| 四月 | 午方 |
| 五月 | 卯方 |
| 六月 | 巽方 |
| 七月 | 酉方 |
| 八月 | 午方 |
| 九月 | 坤方 |
| 十月 | 子方 |
| 十一月 | 酉方 |
| 十二月 | 乾方 |

## ●月の天德吊宮、月德吊宮吉方の説明（但し新暦を用ゆ）

●天德吊宮は星辰惡殺の凶を除き吉福を得、若し遷宮するときは殊に其吉福を得災害を殺除して善道を完ふせしむ此時此方を用ひて、修造、普請、田畑を買ひ、開店等の事あれば官祿大に進み田財並びなきに至る月德吊宮又前述と同じく遷宮を得て此方に、土取り、移轉、嫁娶等の事をすれば最大吉運を得るのである、其座方は

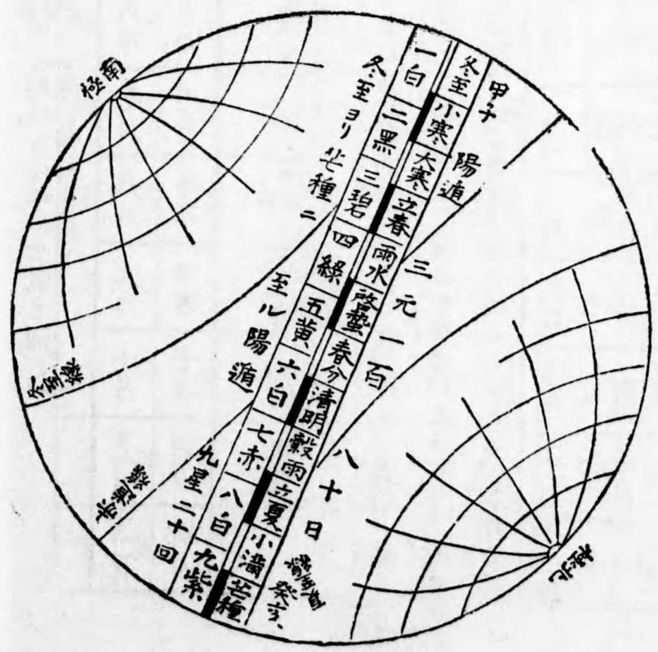
| | 一月 | 二月 | 三月 | 四月 | 五月 | 六月 | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 甲、己年 | 天德吊月德吊 | 艮 | 乾 | 西 | 南 | 巽 | 艮 | 坤 | 乾 | 西 | 中央 | 西 |
| 乙、庚年 | 天德吊月德吊 | 乾 | 中央 | 東還宮 | 西還宮乾 | 坤 | 艮 | 東 | 中央 | 西 | 巽 | 坤 |
| 丙、辛年 | 天德吊月德吊 | 中央 | 東 | 巽 | 中央 | 巽 | 東 | 中央 | 巽 | 中央 | 東 | 巽 |
| 丁、壬年 | 天德吊月德吊 | 東 | 北 | 坤還宮 | 巽 | 坤 | 北 | 坤 | 南 | 中央 | 北 | 艮 |
| 戊、癸年 | 天德吊月德吊 | 北 | 艮 | 南 | 坤 | 中央 | 北 | 艮 | 巽 | 南還宮 | 乾 | 中央 |

# ●二十四節の說明

●四時の序寒暑の往來は日月の運行によりて司配せらるゝのである其運行が時となり日となり月となり年となつて一年を形成し十二ヶ月三百六十五日乃至三百六十六日となる（これは地球の運行は三百六十五日五時四十八分五十秒なれば四年目毎に一日の閏を置きて調節を計るのである）この十二ヶ月を二十四節に分ち一ヶ月に正節と中氣との二節宛を配置してある新曆十二月の二十二三日頃（舊曆の十一月子の月の中氣の節）に冬至と云ふ節がある此時には地球の軌道の運行は北方の遠日點にありて晝間甚だ短かく夜間最も長き極點である卽ち冬の眞中である夏至より陽氣次第に衰え陰氣漸く盛んに冬至に至つて其極に至つたのである然に冬至に至り一陽來復して復た再び陽氣漸く長して陰氣は次第に消失するのである故に吾人陰陽家は此日を以て伏義文王周公孔子の四聖を祭り又故高島呑象翁は齊戒沐浴して明年に於る國家の前途を占筮したのである

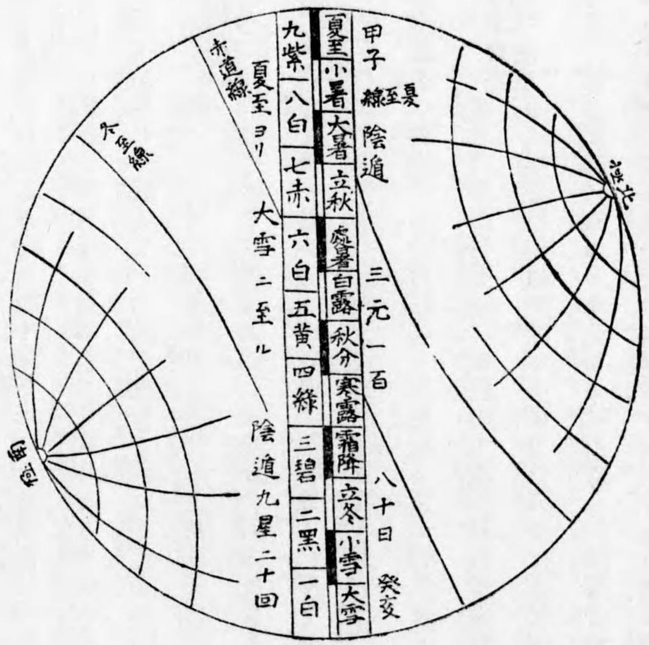
●然るに冬至よりして追々長くなりし日も新曆六月二

## ●陽遁の圖






## ●陰遁の圖




十二三日頃（舊曆五月午の月の中氣の節）の夏至に至り地球の軌道は大陽より最も遠距離に居り晝間甚だ長く夜間最も短かく實に日の長き頂上である然るに此日を分岐點として再び些かつゝ晝間短かく夜間長き方に趣き遂に短日長夜の冬至に至るのである卽ち冬至より漸く盛んになりし陽氣も其極に達せしより再び陰氣次第に增長し陽氣漸次に消失し又元の冬至に及ぶのである如此陰陽は消長し日月は運行して寒暑の往來四季の序をなし萬物は生育繁茂し又枯死退藏す春蒔夏耘秋收冬藏實に宇宙の眞理は廣大にして又條理ある者である

●人は天地の化育によりて生ずるものなれば人事に於けるも亦此理に因るのである故に九星日にては夏至の甲子に陰遁を起して九紫、八白、七赤と逆に繰りて大雪の節迄九星二十回百八十日間に亘り又冬至の甲子より陽遁を起して一白二黑三碧と順に繰りて芒種の節に及び九星二十回百八十日に亘る夫れ順逆は易理にして又九星の定則なれば讀者宜しく研究玩味して以て人生の運氣の消長を考えて凶を避けて吉に向ひ處世の指計となさば希くは大なる過ちなきに庶幾からんか

**立春** 春の氣候になる最初の季節で舊正月卽ち新の二月節分の翌日に當り寅の月の正節なり新曆にては、大低毎年二月五日頃である此日の日出は朝六時三十九分日の入りは五時十一分である此季節は一年の最初の氣節で春立ち初むる候とて舊年と新年との堺に當る故茲に年越とて一日前の節分を祝ふ習慣がある

**雨水** 舊正月寅の月の中氣で新曆の大低二月二十日頃に當る日出は六時二十四分日の入は夕五時二十六分である前の立春の正節で萬物地下に芽を萠し此雨水の中氣頃から曇潤雨氣があつて其萠芽を養ひ今や地上に發芽せんと準備する又梅花も開く時である

**啓蟄** 舊二月卯の月正節で新曆の大低三月五日六日頃に當る日出は六時〇五分で日入りは五時四十分である此節になると今迄地下に萠芽したものがソロ〳〵地上に發芽し日光の暖味も温和になり穴に蟄居して居た數々なる虫も這ひ出す氣分になる

**春分** 舊二月卯月の中氣で新曆の三月二十一日頃に當る日出は五時四十四分で日入りは五時五十三分である此中氣は丁度春の季三ヶ月の正中に當つて春氣正分の時で彼岸の中日に當る日で昔は晝夜時間が同じと云たが其實夜三十分位短ひ、日は之れから段々長くなる櫻花は漸く綻び笑ふ

**清明** 舊三月辰の月の正節て新曆四月四五日頃に當り日出は五時二十三分日の入り六時五分なり櫻花爛漫として種々の草花も時を得顏に開き初め本州では大豆、黍の種蒔初める天氣清朗にして麗明に郊外散歩面白き折にして暖さは人の肌に叶ふ時である

**穀雨** 舊三月辰の月の中氣で新曆四月二十日頃に當り日出は五時三分日入り六時十八分である俗に云ふ花曇りの季節である此季の降雨は田畑を潤ほして土地を肥し稻の種おろし稗の種蒔の好季である筍の味もよく桃の花も盛りの時で春の季の終りである



**立夏** 舊四月巳の月の正節で新曆の五月六日頃に當り日出は四時四十五分日入りは六時三十一分である夏の季節の初めにして世の中も春の面白味が過ぎ去り爽快なる夏季の味ひを嘗め初める時にして萬の野菜の種蒔き初める氣節で蛙鳴き出し蚯蚓土より出で新綠滴らんとする時である

**小滿** 舊四月巳の月の中氣の節で新曆の五月廿一日頃に當り日出は四時三十二分日入りは六時四十三分日の長い盛り時である多くの果物が花落ちて實果を結び春秋と云ひて春の收穫れをなし所によりては早苗を植ゆるなど漸く農家の忙しき季節である

**芒種** 舊五月午の月の正節で新曆の六月六日頃に當り日出は四時二十五分日入りは六時五十四分である木々の梢は繁りて綠濃く農家も養蠶繁忙の時なり又十一日頃より梅雨の季節なれば日々細雨朦々として鬱陶しきも五月雨の晴間に杜鵑なくなど面白し

**夏至** 舊五月午の月の中氣の節で新曆の六月二十日頃に當り日出は四時二十五分日入り七時で一年中最も日長の時で夏季の眞中である梅雨も頻りにしと〳〵と降り濕氣甚しく萬の物の微びて心持あしき時である農家は田植に忙しく梅は熟し栗の花は盛りにして又半夏生には竹を切るによし

**小暑** 舊六月未の月の正節で新曆の七月六日七日頃に當る日出は四時三十一分日入は七時である日の追々短くなる始めである夏の眞盛りで暑さも劇しく土用も此氣節の二十日頃に入るのである炎熱燒くが如く井泉涸れ水田龜裂することがある

**大暑** 舊六月未の月の中氣の節で新曆では七月二十三四日頃に當り日出は四時四十一分日入りは六時五十三分である暑さは殆んど絕頂に達した時で人は皆流汗淋漓世の貴顯紳士は山に海に暑を避け涼を追も農家は炎天に背を燒き耕し耘り辛苦の多き時である

**立秋** 舊七月申の月の正節で新暦の八月八九日頃に當り日出は四時五十四分日入は六時三十九分である此立秋の節に入る時は土用も既に半ばを過ぎて暑さは嚴しきもそよ〳〵と吹く風は何んとなく秋らしく庭の桐の一葉の散るなど流石に秋の風情あり夜は空澄渡り銀河鮮かに烏鵲の鳴行くなど哀れである

**處暑** 舊七月申の月の中氣の節で新暦の八月二十三四日頃に當り日出は五時五分日入は六時廿二分である晝は殘暑の照込み嚴しきも夜は涼風吹渡り柿栗などの果實味ひよく田畠の作物も收穫の時期に近づけども風雨の劇しき氣節故農家の心配多し

**白露** 舊八月酉の月の正節で新暦九月八九日に當る日出は五時十八分日入は六時である秋の狹霧の晴れたる後野草に宿れる白露の光りの麗きなど郊外の眺望絶好なり燕は歸り鴻雁は來る此節の末に秋の彼岸の入りありて郊外の散策の好期節である

**秋分** 舊八月酉の月の中氣の節で新暦の九月廿三日頃に當る日出は五時二十九分で日入は五時三十八分である此節の入日が彼岸の中日にて晝夜等分と云へども夜の方が三十分許り短ひ土地によりては早稻の取入れや數々なる野菜の收穫ありて農家の忙しき時である月夜數行の雁鳴き過くるなど秋の風情酣なり

**寒露** 舊九月戌の月の正節で新暦の十月九日頃に當り日出は五時四十二分で日入りは五時十五分である農家は稻米の取り込みに忙がしく萬の果物も皆成熟し四方の山々野邊の草木も皆紅葉色どるなど秋の深くなり行くまゝに肌稍寒さを覺ゆ

**霜降** 舊九月戌の月の中氣の節で新暦の十月廿四日頃に當り日出は五時五十五分日入は四時五十六分である秋氣長け行くまゝに野外の秋色賞すべきも秋風の名殘りも悲しく吹き誘ひ朝とく起き出づれば軒端に淡き霜を見るなど不覺に無情を感ずる時である



**立冬** 舊十月亥の月の正節で新暦の十一月八日頃に當り日出は六時〇九分で日入は四時四十分冬の氣候に入る初めの節である木々の梢は黃ばみ落ちて獨り白菊の霜に傲り日の光りも鈍くなりて水も漸く冷かに霜露は皎々として刈りたる稻束の上に降るなど何れも冬枯の景色ならざるはない

**小雪** 舊十月亥の月の中氣の節で新暦の十一月廿二三日頃に當る日出は六時二十三分日入りは四時三十一分にて頃は眞冬の初めなれば陰晴定まらず時折寒なぞ降りて北方の寒國などは雪の降ることも屢あり日影短かく夜は追々に長く何事も冬の氣分らしい

**大雪** 舊十一月子の月の正節で新暦の十二月七八日頃に當る日出は六時三十七分日入は四時二十八分である四方の山の頂には鹿の子まだらに雪降り朔風は凜烈にして膚粟を生じ手足は凍いて殆ど指も落なんかと覺ゆるなど實に眞冬の心持である

**冬至** 舊十一月子月の中氣の節で新暦十二月廿二三日頃に當る日出は六時四十七分日入は四時三十二分である冬の眞中にて短日長夜の極點である此日より一陽來復して俗に云ふ疊の一目程づゝ實に僅かづゝ日足の延るのである世は師走と云ふて一年の最終なれば道行く人々自ら足速に皆迎春の仕度に忙しい

**小寒** 舊十二月丑の月の正節で新暦の一月六七日頃に當り日出は六時五十一分日入は四時四十二分である此季節は寒氣凜烈にして降雪も屢あり又此日を寒の入りと云ふて是より三十日の間寒行寒稽古などなして其技藝の上達を欲するものが多い

**大寒** 舊十二月丑の月の中氣で新暦では一月の二十一日頃に當る日出は六時四十九分日入は四時五十六分である寒氣も其極點に達したれば降雪多く氷深く鎖せば小川など涸るゝことあり貴顯紳士は避寒の爲に温暖の地に赴くもの多し

## ●土用の説明

●天地の間に循環して違ふ事なきは五行の氣である春は木主にして火水金は客、夏は火主にして水木金は客と云ふわけである然るに土のみは中央に位して五行の主となり四季共に之を配す而して其旺氣は四時共に十八日廿六刻で之れを土用と云ふ、一年三百六十五日有奇を四季に分ける時は各九十一日餘である此内各十八日廿六刻を四季の土用として差引けば殘り七十三日五刻づゝを春夏秋冬の其の主なる期節とする而して萬物は皆土より生じて土に歸る故に四季の終りは皆土用である、土用四季の日數合して一年三百六十五日廿五刻と云ふのが大略である、土用は土季旺じて變せんとするときで萬物枯死の患を殘すべき時故に大に慎んで動土を忌み竈造りを憚るべきである、土用中間日と云ふのがあるが此日は用ひても差支ひない

**四季土用の間日** 春は巳、午、酉の日、夏は卯辰、申の日、秋は未、酉、亥の日、冬は卯、巳、寅の日

## ●土公神の説明

●土公神は土を守る神で、春は竈、夏は門、秋は井戸冬は庭にありて其の土氣を守護する故に、春竈を築替は凶、夏は門入口を修造するは凶、秋は井戸の修繕凶冬は庭の普請が凶である、土公神は四季の内廿四日他行す●甲午、乙未、丙申、丁酉、戊戌、己亥、此六日間は南方へ遊行す●戊寅、己卯、庚辰、辛巳、壬午、癸未、此六日間は東方へ遊行す●戊申、己酉、庚戌、辛亥、壬子、癸丑、此六日間は西方へ遊行す●甲子、乙丑、丙寅、丁卯、戊辰、己巳、此六日間は北方に遊行す●右の遊行の日には土公神其の方位に居る故土を動かし、木を植え替る等は慎しまねばならぬ、もし犯す時は恐るべき災害を蒙むるのである



## ●天一天上の説明

●天一天上とは天一神の天上へ歸へり給ふ日である癸巳の日に天上にかへり給ふ故夫より戊申の日まで十六日の間は天一神のさわりの方がない己酉の日より又此地に下降り給ひて四十四日間巡り給ふ故此方に向つて談判事、掛合事、何事によらず爭論を忌む又産婦が此方に向くことは慎むべきである。

| 天一神巡り方位 | | | |
|---|---|---|---|
| 己酉の日より六日間 丑寅方 | 乙卯の日より五日間 東の方 | 庚申の日より六日間 辰巳方 | 丙寅の日より五日間 南の方 |
| 辛未の日より六日間 未申方 | 丁丑の日より五日間 西の方 | 壬午の日より六日間 戌亥方 | 戊子の日より五日間 北の方 |
| 癸巳の日より十六日間 天上に歸り紫微宮に位す | | | |

## ●社日の説明

●社日は春秋の兩分せらるゝ頃で、社は土地の神である故に古來土地の神を祭るとして此日、土を高く盛り封じて之れを祭りしなり、是れ土功の德に報ゆる謂である、此日を以て作物の祝日となすのである

●春の社日、春の彼岸の中日に近き戊の日である

●秋の社日、秋の彼岸の中日に近き戊の日である

## ●彼岸の説明

●彼岸は元來暦家になき事で支那でも暦にないのである之れは儒家が、到岸と云つて春秋二度天を祭つた事が支那にも日本にもあつて、日本では春秋の御靈祭りと云つて何故に、先祖の尊靈を祭祀するに此の日を用ひたかと云ふに、彼岸中日は春秋共に晝夜の時間を同ふして、更に變る事がない而して春秋の氣候の一變す

る時にして甚だ温和な氣節であるそれ故に人の心穏に先祖を祀るに最も適した時であるから日本では之れを暦にのせて今日の彼岸七日の原因をなしたのである彼岸と云ふのは佛家の説で涅槃に入り成佛得脱すると云ふ義で氣候を意味したのではない、然るに我國中世佛教興隆の時代に於て佛者が先祖祭と涅槃成佛とを混同して今日の彼岸となつたのである故に彼岸まゐりの事は日本を於て他國に見られぬ事である

●春の彼岸、新三月十八日或は十九日の頃入り七日間四日目が中日である

●秋の彼岸、新九月二十一日頃より七日間四日目が中日要するに、春、秋季皇靈祭の日が中日である

## ●八十八夜の説明

立春の日より八十八日目で此夜を春霜の終りとしてある若し此夜の霜に當れば草木枯傷ふと云ふ故に古語に八十八夜の別れ霜と云ふが、然し別霜の説は年の寒暖によれば、強ち此時まで霜降るとは言はれない

●當今　八十八夜は新五月、二日或は三日に當る

## ●半夏生の説明

夏至より十一日目を半夏生と云ふ、然れども之れを唯一日とするは誤つて居る實際は、五日間である卽ち小暑の前日迄五日間を半夏生の内とするのが事實である此の間、淫慾、食毒を慎まなくてはならぬ之れ地中に陰毒の氣があつて、人間生活上にも及ぼす處があるからである、然し實際は、漢法藥に用ひられて居る半夏に毒があるのである此藥草の出來る時期であるから世間に忌む樣になつたのである

●半夏生の日は、新七月二日或は三日に入りてそれより五日間である、此時に竹を切れば決して虫の付く憂ひなしと古來より言ひ傳えである



## ●入梅の説明

入梅は梅實の熟する時に入ると云ふ意味で、此の時から霖雨頻りに至り潤濕の氣旺盛となり三十日間にして終るのである、此間の陰氣に當れば病を生じ易く、又品物はこの氣を受ければ腐敗或は黴を生じ易いので又黴雨とも云ふて居る

●入梅は當今、天文學的に新六月十一日或は十二日に入りて三十日間とせられて居る

## ●三伏日の説明

三伏日は、種蒔、旅行等又は婚姻其他の和合の事に用ひてはならぬ事になつて居る、之は、火尅金の理を以て忌むので夏の陽金の日を云ふのである卽ち夏至の後第三庚の日を初伏とし、第四の庚の日を中伏と云ひ、第五の庚の日を末伏と云ふ、殊に末伏の日は最も忌む

## ●二百十日と二百廿日の説明

二百十日は立春の日より二百十日目を云ひ、二百二十日は立春の日より二百二十日目を云ふのである、昔より此日は大暴風雨のある日とせられて居るが實際は此日に限らぬが此日の前後には氣候、變化烈しき故必ず暴風ある事は天文學的にも立證せられ居る

## ●八專の説明

八專は、天干地支同氣旺盛の時であるから鍼灸、婚禮奴僕を抱へ、畜類を求むるを忌み、家作等に、礎を据へ柱立、棟上等には用ひて吉、神佛の事に用ひれば必ず一家不和を生ずると云ふ、八專の日取は次の如し

何月に限らず、壬子の日に入りて、癸亥の日迄十二日間卽ち、壬子、癸丑、甲寅、乙卯、丙辰、丁巳、戊午、己未、庚申、辛酉、壬戌、癸亥の十二日であ

る此間に四日の間日がある、此間日は何をしてもよろしい故に十二日中四日を除いて八日間之を八專と云ふ間日とは癸丑日、丙辰日、戊午日、壬戌日である

## ●十方暮の説明

十方暮れの日は、天干地支の相尅する日で卽ち天地の氣の合はぬ惡日である故に昔より十方不和の日とて、出行移轉を忌む、其十方暮れの日は次の表にて示す

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 甲申日 | | 乙酉日 | | 丙戌日 | |
| 木金 | | 木金 | | 火土 | |
| 庚寅日 | | 辛卯日 | | 壬辰日 | |
| 金木 | | 金木 | | 水土 | |
| | 己丑日 | | 戊子日 | | 丁亥日 |
| | 土土 | | 土水 | | 火水 |
| | | | | | 癸巳日 |
| | | | | | 木火 |

の十日間である

然して此十日の內、丙戌は尅でなく生じて居る、己丑は比和して居る然し其生比共に順でない故に十方不和の日と云ふのである

## ●三隣亡の説明

普請、造作、柱立に最も忌む日を三隣亡と云ふ、其の三隣亡と云ふのは地支卽ち十二支の活動が凶變を現はすのを云ふので此日造作、普請を爲れば家三軒を亡ぼすとも言はれて居る他の事には害がない移轉は凶である、舊曆正月、四月、七月、十月、は亥の日●二月、五月、八月、十一月は、寅の日●三月、六月、九月、十二月は、午の日が三隣亡に當る

## ●養蠶家毎年の吉日と方位

養蠶家の注意すべきは蠶官、蠶室、蠶命の三凶殺方に向つて蠶兒を育し或は養桑を求むれば損失す其坐方は

| | | |
|---|---|---|
| | 亥子丑年 | 巳午未年 | 申酉戌年 |
| 蠶官 | 未の方 | 戌の方 | 丑の方 | 辰の方 |
| 蠶室 | 坤の方 | 乾の方 | 艮の方 | 巽の方 |
| 蠶命 | 申の方 | 亥の方 | 寅の方 | 巳の方 |

若し多年養蠶に失敗せる人は天德、月德の吉神と自己の本命に相生する吉星と巡り合つた方位の家宅座敷を



修造し又は此の吉星吉神の巡り合せる方にて蠶種、養桑を求むれば好果を收め他の凶神凶星を犯せば損失を免れない又蠶種を掃き立つるに、戊辰日、己巳日、丁巳日、甲寅日、戊午日、天德日、月德日に行へば大吉日とす又此際、天德、月德の方にて行へば一層吉である若し庚申、庚戌の日に掃き立れば蠶兒に害がある

## ●七曜星日々吉凶の説明

**日曜** 此日は萬事吉、財寶を求め、商人利益の日但し信仰心なき者は病難家內不和の事あり

**月曜** 此日萬事吉なり慈善を施し、衣服を裁ち、髮を洗ひ新衣を着るによし

**火曜** 此日旅立すれば災あり、殊に、二、三、五、七、九、十一月は此日旅立すれば損失多し

**水曜** 此日は入學入門出行等皆大吉、商人は業務に利あり、二、三月の此日は入學入門に吉

**木曜** 此日は求む事は皆凶、木を伐り牛馬を求むれば口舌起る、此日生るゝ人は福錄あり

**金曜** 此日は爭論、勝負事等は大凶、貴婦人に見え新衣を着し、婚禮等には大吉なり、旅立凶

**土曜** 田畑を買ひ、主家寺門を建築するには大吉井戸、竈の造作もよし、婚禮、訴訟事大凶

## ●六曜星吉凶の説明

●六曜星は佛家の説で之れを日割吉凶に當てたのである此六曜星の繰り樣は次に表を以て示す

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 先勝 | 正月七月 | 此日急ぐ事よし、半後より凶、訴訟事吉 |
| 友引 | 二月八月 | 此日正午ばかり凶朝夕吉事に用ひて吉 |
| 先負 | 三月九月 | 此日靜をな事によし、何事も午前中凶、 |
| 佛滅 | 四月十月 | 此日何事も用ゆ可らず、病氣送葬大凶、 |
| 大安 | 五月十一月 | 此日何事にも大吉、慶事祝事は祥福有 |
| 赤口 | 六月十二月 | 此日正午のみ吉朝夕凶祝事は用ゆ可ず |